



ユーザーガイド

 記号が表示されている箇所は必ずお読みください。

この記号は危険を引き起こす可能性がある、または注意を払う必要があることを表します。

CE Declaration (ヨーロッパ)



X-Rite, Incorporated はこれにより、本 NGH (eXact) シリーズが指令 2014/35/EU (LVD)、2014/30/EU (EMC)、RoHS EU 2015/863 の基本条件および関連条項に準拠することを宣言します。

Federal Communications Commission Notice (米国)

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Industry Canada Compliance Statement (カナダ)

CAN ICES-1 (A) / NMB-1 (A)

機器の注意



エックスライト社により承認された用途以外に本製品を使用した場合、設計・機能に影響を与えるだけでなく、危険性を伴うことがあります。

警告： 本機を爆発物の付近に設置しないでください。

機器の電源が ON の際は、測定部を直接見ないでください。

電源プラグをコンセントに差し込んでください。

電源コードが破損している場合は使用しないでください。



廃棄物処理の手順：廃電気・電子機器指令 (WEEE) の対象となる機器製品は指定の収集場所にて廃棄してください。

装置に Bluetooth のワイヤレス送信機が装備されている場合は、次のモジュールが含まれます。

This Device Contains Transmitter Module: RN42

Manufactured by Microchip Technology

Microchip Technology Inc.
2355 West Chandler Blvd.
Chandler, Arizona 85224
TEL: 480-792-7200

FCC:

FCC Identifier: T9J-RN42 Microchip Technology
Operating Frequency: 2.402 – 2.480 GHz

IC:

RN42: Roving Networks, Inc. / Microchip Technology
IC Certification: 6514A-RN42

CE Mark:

RED 2014/53/EU:

EN 300328 V2.1.1 (2016)
EN 301489-1 V2.11/V2.2.0 (2017)
EN 301489-17 V3.1.1/V3.2.0 (2017)
EN 60950-1:2006 A11:2009/A1:2010/A12:2011/A2:2013
EN 62479 (2010)

Japan:

RN42 Microchip Technology



R 201-125709

Korea:

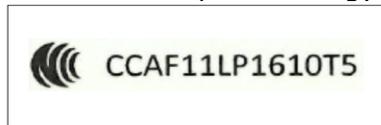
RN-4020 Microchip Technology



KCC-REM-XRT-NGH

Taiwan:

RN42 Microchip Technology



□ □ !



China:

Model: NGH (eXact)
CMIIT ID: 2012DJ6195

著作権表示

本説明書に含まれる情報は、X-Rite, Incorporated が有する著作権によって保護されています。

本情報を含む全ての出版物に対し、本装置を設置、操作、維持する以外の目的で使用することはできません。X-Rite, Incorporated から書面での許諾を取得せずに、本説明書の如何なる部分も、電子、磁気、機械、光学、手動等の形式を問わず、複製、複写、他言語またはコンピュータ用語に翻訳することはできません。

Patents: www.xrite.com/ip

“© 2019, X-Rite, Incorporated. All rights reserved”

X-Rite、X-Rite ロゴ、eXact、eXact ロゴは米国または他国で登録された商標です。その他の商標は各所有者の商標です。

製品保証

X-Rite は、本製品に対して X-Rite からの出荷日から 12 ヶ月の構成および製造の保証を提供します。保証期間内は欠陥部品を無償で交換または修理いたします。

X-Rite の保証は、次から発生する保証製品の欠陥を除きます。(i) 出荷後の損害、事故、乱用、誤使用、放置、変更等の X-Rite の推奨、付属書類、公表仕様、業界基準に沿わない使用。(ii) 推奨される仕様以外の操作環境における装置の使用、または X-Rite が提供する保守手順書や公表仕様に準拠しない場合。(iii) X-Rite または認定された会社以外による修理またはサービス。(iv) X-Rite より製造、流通、承認されていない部品や消耗品の使用により発生した保証製品の欠陥。(v) X-Rite より製造、流通、承認されていない付属品または修正が保証製品に追加された場合。また、消耗品および製品の手入れは保証に含まれません。

上記保証の破損に対する X-Rite の限定義務は、いかなる部品の無償修理または交換とし、保証期間内に欠陥品と証明され、かつ X-Rite が合理的に納得できるものに限りです。X-Rite による修理または交換により保証期間は回復されず、また保証期間は延長されません。

X-Rite より指定されたサービスセンターに欠陥製品を送付される際は、梱包および郵送はお客様の自己負担となります。製品の返送費用は、X-Rite のサービスセンターが担当する地域のみ、X-Rite が負担いたします。指定地域外の場合、郵送料、関税、税金等の全ての費用はお客様の自己負担となります。保証期間中にサービスをお受けになる場合は、領収書などの購入日を証明する記録が必要です。本製品は絶対に分解しないでください。ユーザーにより分解された場合、製品保証は無効となります。装置が作動しない、あるいは正しく機能しないと思われる場合は X-Rite の東京サービスセンターまでお問い合わせください。

これらの保証は購入者にのみ適用されるもので、暗示・明示を問わず、市販性、特定目的や用途への適合性、非侵害性の暗示された保証を含む、またそれに限らず他の保証すべてに代わるものです。X-Rite の経営陣以外の社員または代理店は、前述以外のいかなる保証も提供することが承認されていません。

X-Rite はお客様の製造コスト、経常経費、利益の損失、信用、その他の費用、および契約いかなる保証の破損、過失、不正行為、その他の法理による間接的、特別、付随的、重要な他の損害に責任を負いません。いかなる場合においても、これによる X-Rite の責任は、X-Rite が供給した商品またはサービスの価格を上限とします。

目次

| | |
|----------------------|----|
| 使用説明書の内容 | 12 |
| パッケージの内容 | 12 |
| ターゲットベースのロック操作 | 13 |
| 測定条件の選択 | 13 |
| 電源ボタン | 14 |
| eXactソフトウェア アプリケーション | 15 |
| システム要件 | 15 |
| ソフトウェアのインストール | 15 |
| バッテリーの充電 | 16 |
| 電源の接続 | 17 |
| USBケーブルの接続 | 18 |
| Bluetoothワイヤレスモード | 18 |

ユーザーインターフェース**19**

| | |
|---------------------|----|
| スクリーンの操作 | 19 |
| [クイックビュー] のツールを開くには | 19 |
| [オールビュー] のツールを開くには | 19 |
| [設定] ツールを開くには | 19 |
| [オールビュー] メニューの表示 | 20 |
| 機能の表示 | 20 |
| オプションのスクロール | 20 |
| 現在のオプションにアクセスするには | 21 |
| 名称スクリーン | 21 |
| アイコンの説明 | 22 |
| 測定画面 | 26 |
| 初期設定ウィザード | 28 |
| サンプルの測定 | 29 |
| キャリブレーション | 30 |
| キャリブレーションの実行 | 30 |

クイック測定機能**31**

| | |
|-------------------------|----|
| クイック測定ツールの設定 | 31 |
| 測定条件 | 31 |
| ドットゲイン (濃度/ドットゲインツール専用) | 31 |
| ドットゲイン (濃度/ドットゲインツール専用) | 31 |

| | |
|-------------------------------|-----------|
| 濃度ステータス（濃度／ドットゲインツール専用） | 31 |
| 濃度白色ベース（濃度／ドットゲインツール専用） | 32 |
| 濃度精度（濃度／ドットゲインツール専用） | 32 |
| 全濃度（濃度／アミ点ツール専用） | 32 |
| 濃度／アミ点（濃度／アミ点ツール専用） | 32 |
| イルミナント／観測者視野（CIE L*a*b*ツール専用） | 32 |
| ΔE方式（CIE L*a*b* ツール専用） | 32 |
| 濃度／ドットゲインツール | 33 |
| 濃度／ドットゲイン測定 | 33 |
| 濃度専用測定 | 34 |
| CIE-L*a*b* ツール | 34 |
| CIE L*a*b* 測定 | 34 |
| オールビューの測定ツール設定 | 36 |
| 機能の選択 | 36 |
| 設定 | 37 |
| 名前を変更 | 37 |
| 既定のツール設定を復元 | 37 |
| カラー設定 | 38 |
| 測定条件 | 38 |
| イルミナント/オブザーバー | 38 |
| ΔE方式 | 38 |
| 濃度ステータス | 38 |
| 濃度白色基準 | 38 |
| 濃度精度 | 39 |
| 刷り順（オートパッチツール用） | 39 |
| 合格/不合格インジケータ | 39 |
| 平均測定 | 39 |
| 機能設定 | 39 |
| オールビューの測定機能 | 40 |
| 濃度 | 40 |
| 濃度測定 | 40 |
| 濃度トレンド | 40 |
| 全濃度 | 41 |
| 全濃度ツール機能 | 41 |
| CMYバランス | 41 |

| | |
|-----------------------------|----|
| CMYバランスの機能設定 | 41 |
| CMYバランス測定 | 41 |
| アミ点機能 | 42 |
| アミ点面積の機能設定 | 42 |
| アミ点面積の測定 | 42 |
| ドットゲイン (TVI) 機能 | 43 |
| ドットゲインの機能設定 | 43 |
| ドットゲイン (TVI) の測定 | 43 |
| トラッピング機能 | 43 |
| トラッピング機能の設定 | 44 |
| トラッピング測定 | 44 |
| 印刷特性曲線機能 | 44 |
| 印刷特性曲線機能の設定 | 45 |
| 印刷特性曲線の測定 | 45 |
| コントラスト機能 | 45 |
| コントラスト測定 | 45 |
| ヒューエラー／グレイネス機能 | 46 |
| ヒューエラー／グレイネス測定 | 46 |
| 色彩機能 | 47 |
| CIE L*a*b* | 47 |
| 濃度 + L*a*b* | 47 |
| 濃度 + L*C*h° | 47 |
| CIE L*C*h° | 47 |
| CIE XYZ | 47 |
| CIE Yxy | 47 |
| CIE L*a*b* / CIE L*C*h° グラフ | 47 |
| 色彩測定 | 48 |
| 用紙インデックス機能 | 48 |
| 用紙インデックス機能の設定 | 48 |
| 用紙インデックス測定 | 48 |
| 隠ぺい力機能 | 49 |
| 隠ぺい力の測定 | 49 |
| プレート測定機能 | 49 |
| プレート測定機能の設定 | 49 |
| プレート測定 | 50 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| 反射率グラフ機能 | 50 |
| 反射率グラフ機能の設定 | 50 |
| 反射率グラフ測定 | 50 |
| 輝度インデックス機能 | 51 |
| 輝度インデックス測定 | 51 |
| ベストマッチ機能 | 51 |
| ベストマッチ機能の設定 | 52 |
| ベストマッチ測定 | 52 |
| ΔE トレンド機能 | 53 |
| ΔE トレンド測定 | 53 |
| メタメリズム機能 | 54 |
| メタメリズム機能の設定 | 54 |
| メタメリズム測定 | 54 |
| 絶対着色力機能 | 54 |
| 着色力機能の設定 | 54 |
| 絶対着色力の測定 | 55 |
| 相対着色力機能 | 55 |
| 着色力機能の設定 | 55 |
| 相対着色力の測定 | 55 |
| 用紙品質管理機能（ジョブツール用） | 56 |
| 用紙品質管理機能の設定（ジョブのみ） | 56 |
| 用紙品質管理測定 | 56 |
| ベストマッチテーブル（ジョブツール専用、ベタパッチ測定用） | 56 |
| ベストマッチ機能の設定 | 56 |
| ベストマッチテーブル測定 | 57 |
| インキQC（ジョブツール専用、オーバープリント、ベタパッチ測定用） | 57 |
| インキQC測定 | 57 |
| インキQCグラフ | 57 |
| ドットゲインテーブル（ジョブツール専用、アミ点測定用） | 58 |
| ドットゲインテーブル機能の設定（ジョブのみ） | 58 |
| ドットゲイン測定 | 58 |
| グレーバランス品質管理（ジョブツール専用、グレーバランス機能用） | 58 |
| グレーバランス品質管理機能の設定（ジョブのみ） | 58 |
| グレーバランス品質管理測定 | 58 |

| | |
|-----------------------|-----------|
| アイコン：用紙 | 60 |
| アイコン：機能 | 60 |
| アイコン：基準色の測定（比較ツール専用） | 61 |
| アイコン：シートの選択（ジョブツール） | 61 |
| アイコン：パッチタイプ（ジョブツール専用） | 62 |
| アイコン：カラーモード | 62 |
| アイコン：基準色またはパッチの表示 | 63 |
| アイコン：基準色の変更またはパッチの変更 | 64 |
| オールビューの基本ツール | 65 |
| 一般情報 | 65 |
| オールビューの比較ツール | 66 |
| 基本比較測定 | 66 |
| 合否判定機能による測定 | 67 |
| 平均値の測定 | 68 |
| オールビューの検索ツール | 69 |
| 検索測定 | 69 |
| 基準色を変更するには | 70 |
| サンプルの保存 | 70 |
| オールビューの自動認識ツール | 72 |
| 一般情報 | 72 |
| オールビューのジョブツール | 73 |
| 一般情報 | 73 |
| ジョブパラメーターの確認／編集 | 75 |
| サンプルの保存 | 76 |
| その他のジョブオプション | 76 |
| ジョブの実行 | 78 |
| オールビューの追加ツール | 81 |
| ツールの作成 | 81 |
| その他のツールオプション | 81 |
| ユーザー設定ツール | 82 |
| 新規ユーザーを作成 | 82 |
| ユーザーを編集 | 82 |

| | |
|--------------------------------|-----------|
| 個人の設定 | 83 |
| ユーザー名を変更 | 84 |
| 削除 | 84 |
| コピー | 84 |
| 個人設定ツールの設定 | 85 |
| アカウント | 85 |
| 言語 | 85 |
| カラー設定 | 86 |
| 機能設定 | 86 |
| 装置 | 87 |
| ジョブテンプレートツールの設定 | 88 |
| ジョブテンプレートの作成 | 88 |
| ジョブテンプレートの設定 | 88 |
| 自動検出機能を使用し、用紙およびCMYKパッチを定義するには | 89 |
| スポットカラーを作成するには | 91 |
| マニュアル入力を行うには | 91 |
| カラーライブラリーからカラーを読み込むには | 92 |
| 許容値を編集するには | 92 |
| ジョブテンプレートの編集 | 92 |
| ジョブテンプレートをコピーするには | 93 |
| ジョブテンプレートを削除するには | 93 |
| カラーライブラリツールの設定 | 94 |
| カラーライブラリの作成 | 94 |
| 基準色を作成するには | 94 |
| カラーライブラリの設定 | 95 |
| マニュアル入力を行うには | 96 |
| カラーライブラリからカラーを読み込むには | 96 |
| カラーライブラリの編集 | 97 |
| カラーライブラリのコピー | 97 |
| カラーライブラリを削除 | 97 |
| 診断ツールの設定 | 99 |
| キャリブレーション概要 | 99 |
| 地域の設定 | 99 |
| 装置の概要 | 100 |

| | |
|----------|-----|
| 装置の状態 | 100 |
| バッテリーの概要 | 100 |

スキャンオプション **101**

| | |
|-------------|-----|
| 概要 | 101 |
| 設定 | 102 |
| 操作 | 102 |
| 最適な使用法 | 102 |
| スポットカラーの測定 | 103 |
| カラーバーの測定 | 103 |
| 装置スクリーンの説明 | 105 |
| 調整バー（オプション） | 106 |

付録 **108**

| | |
|-----------------------|-----|
| 情報 | 108 |
| 校正証明書の再発行 | 108 |
| 限定保証 | 108 |
| サービス | 108 |
| サポート | 108 |
| 機器の手入れ | 109 |
| 清掃 | 109 |
| タッチディスプレイの手入れ | 109 |
| ターゲットウィンドウの清掃 | 109 |
| 光学系の手入れ | 109 |
| キャリブレーション基準板の手入れ | 110 |
| スキャンシャーシのタイミングホイールの清掃 | 110 |
| バッテリーパックの交換 | 111 |
| スキャンシャーシのタイミングホイールの交換 | 112 |
| Bluetoothのインストール | 113 |
| eXact Bluetoothの設定 | 113 |
| Windows 7 & 8 | 113 |
| Windows 10 | 115 |
| Mac OS Xの設定 | 117 |
| トラブルシューティング | 118 |
| 装置のリセット | 119 |
| 仕様 | 120 |
| 推奨されるパッチとアパーチャーサイズ | 122 |

イントロダクション・設置

主な特徴：

- タッチスクリーン操作のカラーディスプレイ
- インテグレーション白色タイルによる自動キャリブレーション
- Bluetooth テクノロジーによるワイヤレス通信（オプション）
- 全ての ISO 測定モードをサポート（M0、M1、M2、M3） [ISO13655 M1 PART1 のフルサポートによる忠実な D50 測定]（eXact Xp は M3 を除く）
- ベストマッチ機能により、印刷色がどこまで基準値にマッチできるかを判定
- ツール機能では、印刷品質が各種スタンダード（ISO、JapanColor、G7、PSO）や社内専用スタンダード（品質基準）に準拠するかどうかを判定
- 付属ソフトウェアによる装置管理と測定データの転送



使用説明書の内容

本説明書は、装置のセットアップ、概要、操作、メンテナンスについて説明しています。ソフトウェアの使用についてはソフトウェアの取り扱い説明書、またはヘルプをご参照ください。

本説明書に説明される機能やオプションは、eXact モデルによって異なります。これらの機能やオプションは次の記号で表記されます。



この記号は、eXact ベーシックに備わっていない機能やオプションを表します。



この記号は、eXact ベーシック・プラスに備わっていない機能やオプションを表します。



この記号は、eXact スタンダードに備わっていない機能やオプションを表します。

パッケージの内容

製品パッケージには以下の装置およびパーツが同梱されています。

- X-Rite eXact™ 装置
- ドッキング ステーション
- USB インターフェース ケーブル
- AC アダプター (X-Rite P/N SE30-277) および電源コード
- 保管ケース
- ドキュメントおよびソフトウェアのフラッシュドライブ
- スキャンキット (オプション)

ターゲットベースのロック操作

装置のターゲットベースは、出荷時にロックされた状態になっています。装置側面の切り替えボタンで、ターゲットベースをロックまたはロック解除します。

ターゲットベースのロック解除

装置を平らな面に置きます。ターゲットベースロックの前端（1）を押します。装置が開きます。

ターゲットベースのロック

装置をターゲットベースに向けて閉じ、ターゲットベースロックの後端（2）を押します。



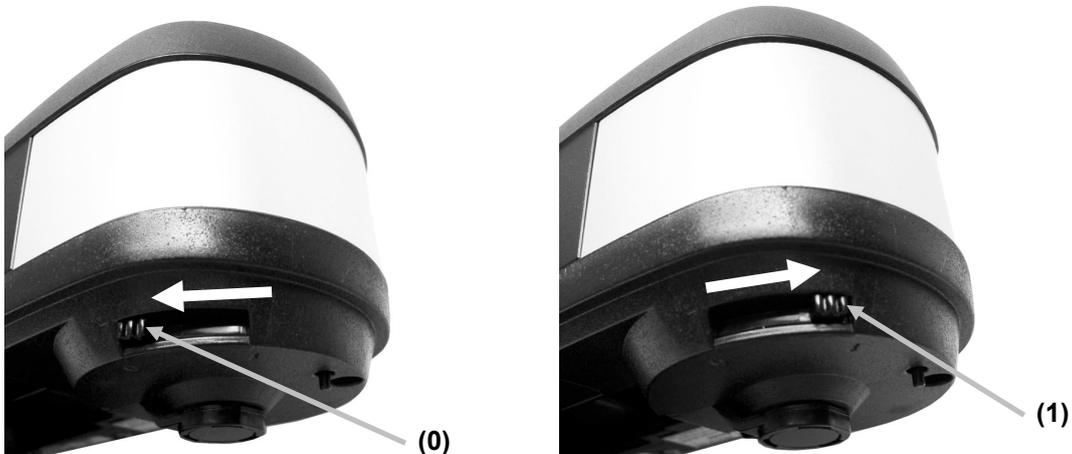
ターゲットベースのロックは、測定をソフトウェアから起動する際、装置をターゲットウィンドウに対して固定する目的にも使用します。

測定条件の選択

測定条件（M1/ M0, 2, 3）を選択するスイッチがあります。

マルチモード測定（1回の測定で M0, M1, M2, M3 条件の全ての測定を実施）にセットするには、切り替えレバーをレバーが止まるまで後方位置（0）にスライドしてください。M1 測定条件にセットするには、切り替えレバーが止まるまで前方位置（1）にスライドしてください。

- M0：A 光源（旧名称：フィルターなし、No）で測定された測定値
- M1：D50 光源（旧名称：昼光、D65）で測定された測定値
- M2：UV 光が除去された A 光源（旧名称：UV カットフィルタ、UVCut）で測定された測定値
- M3：偏光フィルタを使用した A 光源（旧名称：偏光、Pol）で測定された測定値（eXact Xp は M3 を除く）



電源ボタン

機器には電源ボタンが付いています。ボタンを押して電源を ON にします。電源ボタン (1) を押しても機器が起動しない場合は、バッテリーを充電する必要があります。詳しくは「バッテリーパックの充電」をご参照ください。

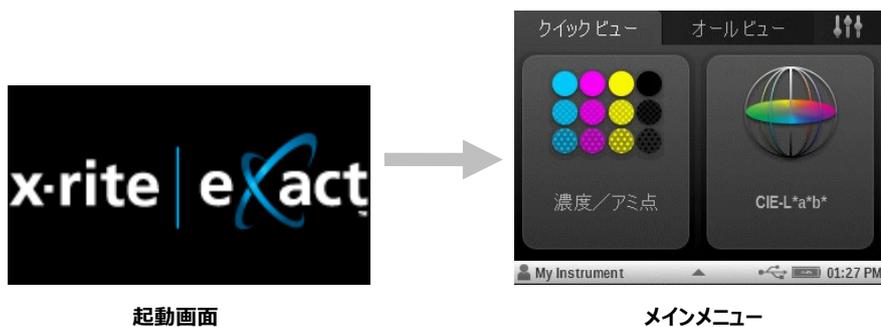


電源を Off するには

機器の電源を手動で切るには、電源ボタンを 5 秒間押し続けてください。

電源を入れると、まずは機器の診断テストが行われ、起動画面が表示された後、メインメニューが表示されます。

注記：メインメニューに表示されるオールビューのツールは、製品モデルによって異なります。



初めて電源を入れる場合、装置の起動画面の次に設定ウィザードが表示されます。

設定ウィザードの手順は「ユーザーインターフェース」のセクションをご参照ください。



eXact ソフトウェア アプリケーション

eXact のフラッシュドライブには、3 つのソフトウェアが含まれています。

X-Rite eXact Manager

装置の設定オプションを設定・実行します。

- 全ての設定を表示・編集
- 設定のバックアップ・復元
- 装置の状態を表示、診断機能の実行
- 装置のファームウェア、カラーライブラリ、プロセスツール等のアップデート

注記： X-Rite eXact™ Manager で、装置設定のバックアップを定期的に作成してください。手順はアプリケーションのヘルプファイルをご覧ください。

DataCatcher

接続された eXact 装置からスポット測定値を取得し、データを Microsoft® Excel 等のアプリケーションに直接転送します。

DataMeasure

DataMeasure は、スキャン測定を行うアプリケーションです。スキャンの測定結果は表示すると共に、スプレッドシートなどのファイルとして書き出すことができます。

注記： 機器をコンピュータに接続する前に必ずソフトウェアをインストールしてください。

システム要件

- Windows 7 (32 または 64 bit) 、RAM 2 GB
- Windows 8 (32 または 64 bit) 、RAM 2 GB
- Windows 10 (32 または 64 bit) 、RAM 2 GB
- macOS 10.10 (Yosemite), macOS 10.11 (El Capitan), macOS 10.12 (Sierra), macOS 10.13 (High Sierra), macOS 10.14 (Mohave)
- モニタ解像度 1024 x 768
- 4 GB ハードディスク容量

ソフトウェアのインストール

重要： Windows 7、Windows 8 または Windows 10 のシステムにソフトウェアをインストールすると、使用の際、管理者の権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。

1. フラッシュドライブを USB ポートに挿入し、アプリケーションを参照してください。
2. ソフトウェアに表示される指示に従ってください。
3. アプリケーションのインストールを完了します。
4. アプリケーションの使用に関しては、オンラインヘルプをご参照ください。

バッテリーの充電

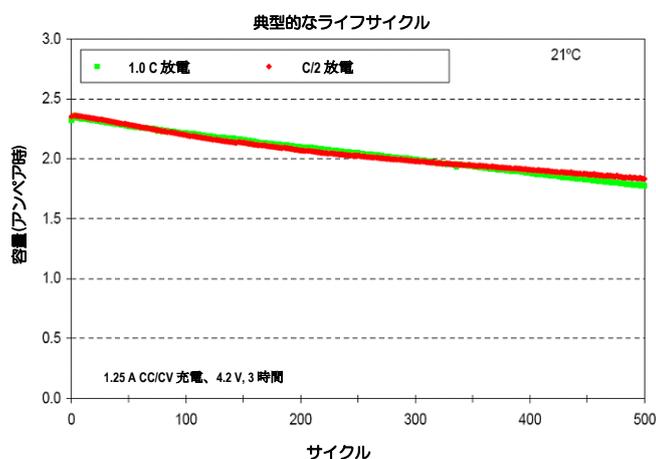
装置に付属するバッテリーパックは出荷時に十分に充電されていません。使用を開始する前に最低 3 時間充電してください。

充電されたバッテリーは未使用状態が長期間続くと電圧が低下します。バッテリーの性能を維持するために、バッテリーを定期的に充電し、長期間使用しない場合は冷暗所に保管してください。

バッテリーパックは装置に入れた状態で、装置を直接電源に接続（またはドッキングステーションを使用）して充電することができます。本セクション後半の「電源の接続」をご参照ください。

バッテリーの寿命

リチウムイオン電池は、通常 400 回の充電サイクルで 80% の減衰が見られます。1 回の充電サイクルの定義は、100% に匹敵する部分的な数回の充電となります。部分的な充電・放電サイクルは、バッテリーの寿命をより長く維持します。完全放電・充電サイクルは避けてください。約 400 回の充電後、完全充電で実行できる測定回数が減少します。この時点で、バッテリーパックを交換することも可能です。



バッテリーの処分

バッテリーパックは、リサイクルに指定された場所で処分してください。

電源の接続

電源は装置に直接、またはドッキングステーションに接続することができます。ドッキングステーションは、装置の保持、および未使用時における充電に便利です。

AC アダプターに表示してある電圧がご使用地域の定格電圧に対応しているかどうか確認してください。



X-Rite の AC アダプター-SE30-277 以外の使用は危険です。

AC アダプターの定格電力 入力：100-240V 50-60 Hz、出力：12VDC @ 2.5A

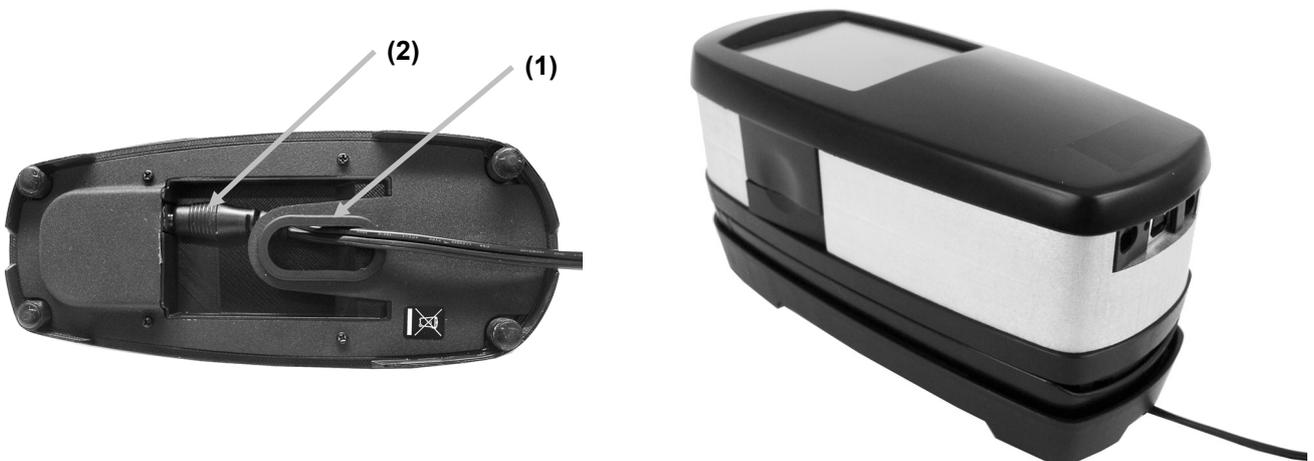
装置の接続

1. 電源（AC アダプタ）プラグを本体の入力端子に差し込んでください。（1）
2. 電源コードを A C アダプターおよびコンセントに差し込んでください。



ドッキングステーションの接続

1. ドッキングステーションを裏側にし、電源プラグをステーション中央のコード穴（1）に通します。
2. 電源プラグを入力端子に挿入します。（2）電源ケーブルは、ドッキングステーション下のどこからでも取り出すことができます。
3. 電源コードを電源アダプターおよびコンセントに差し込んでください。
4. 本機をドッキングステーションにセットし充電します。



USB ケーブルの接続

重要： Windows では、装置をコンピュータに接続する前に必ずソフトウェアドライバをインストールしてください。

装置とソフトウェアとの通信は、USB ケーブルまたはワイヤレス Bluetooth®（使用可能な場合）で行います。詳しくは「ワイヤレスモード」のセクションをご参照ください。

1. ソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご参照ください。
2. USB ケーブルを機器の背面に差し込みます。（1）
3. コンピュータの USB ポートに USB コネクタを差し込んでください。



Bluetooth ワイヤレスモード

機器は Bluetooth® テクノロジーを採用しているため、コンピュータとワイヤレスでの通信が可能です。アプリケーションと機器との間でデータを転送することができます。USB ケーブルで機器を接続すると、ワイヤレス接続は解除されます。

多くの Windows PC には Bluetooth 機能がすでに備わっています。ご使用のコンピュータに Bluetooth 機能が備わっている場合は、それをご使用ください。備わっていない場合は、Bluetooth USB アダプター（オプション製品）を購入してください。

Windows 7、Windows 8、Windows 10 での Bluetooth の設定手順は、「付録」ページをご覧ください。また、付録ページから、Mac OS X コンピュータでの Bluetooth のワイヤレス設定の手順をご参照ください。



検索および接続中に Bluetooth アイコンがステータスバーに表示されます。

ユーザーインターフェース

本セクションは、タッチスクリーンの基本操作、アイコンの説明、設定ウィザード手順、測定方法を説明しています。

スクリーンの操作

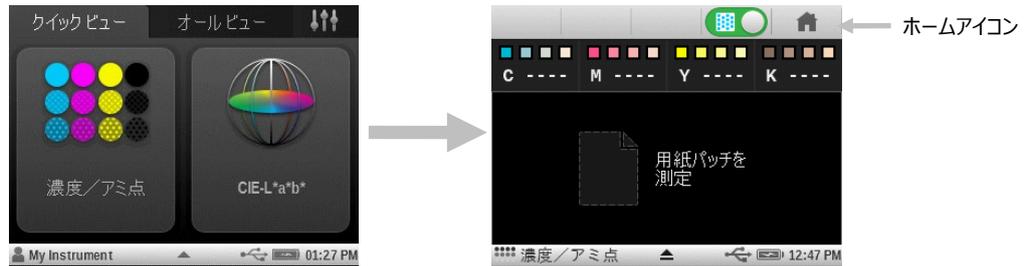
X-Rite eXact 装置はグラフィック タッチスクリーン ディスプレイを使用します。機能は全てタッチスクリーンからアクセスします。

[クイックビュー] のツールを開くには

装置には、濃度および L*a*b*測定ツールにアクセスできる 2 つの [クイックビュー] メニューがあります。

ツールを開くには、スクリーンメニューのアイコンをタップしてください。これは、[濃度/ドットゲイン] のアイコンがタップされた場合の例です。

右上にある [ホーム] アイコン  をタップすると、[クイックビュー] に戻ります。



[オールビュー] のツールを開くには

装置には、測定ツールにアクセスする 2 つの [オールビュー] メニューがあります。

ツールを開くには、スクリーンメニューのアイコンをタップしてください。これは、[基本ツールの] のアイコンがタップされた例です。右上にある [ホーム] アイコン  をタップすると、[オールビュー] に戻ります。

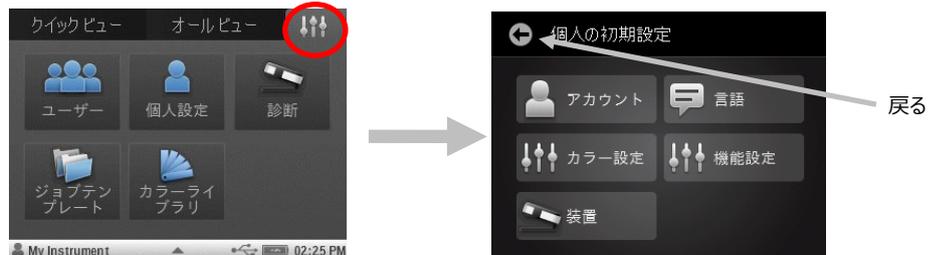


[設定] ツールを開くには

装置には、設定ツールにアクセスする [設定] メニュー項目があります。

[設定] アイコン  をタップし、[設定] ツールメニューを開きます。これは、[個人設定] のアイコン  がタップされた例です。

左上の [戻る] のアイコン  をタップすると、[設定] のメインメニューに戻ります。



[オールビュー] メニューの表示

スクリーンを指で左右に移動すると、[オールビュー] メニューのスクリーンに切り替わります。また、スクリーンを左右に素早くフリックして、表示を変更することも可能です。

ディスプレイ中央の下に表示されるドットは、現在 [オールビュー] が選択されていることを意味します。左にハイライト表示されるドットは、左の [オールビュー] が選択されており、右に表示されるドットは右の [オールビュー] が選択されていることを意味します。



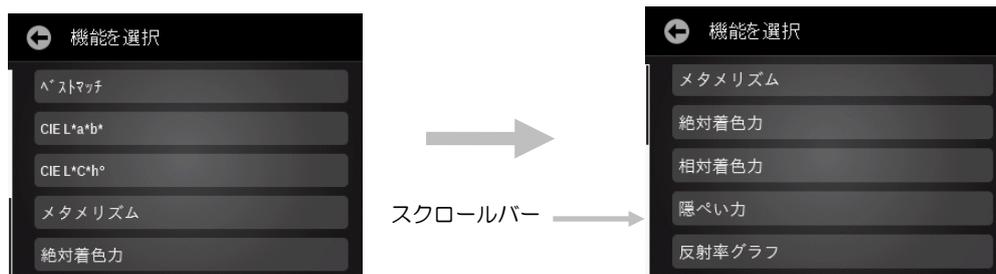
機能の表示

ドットは測定ツールのスクリーンにも表示され、ツールに対して有効になっている機能数を表します。下記では、基本ツールに対して 4 つの機能が有効になっている例が示されています。[オールビュー] 同様、スクリーンをスワイプまたはフリックし、使用可能な機能の画面に移動します。



オプションのスクロール

メインメニューから全てのオプションにアクセスできない場合は、スクロールバーが表示されます。左側のスクロールバーは、他に使用可能なオプションがあることを表します。画面を上へスワイプし、他のオプションを表示します。

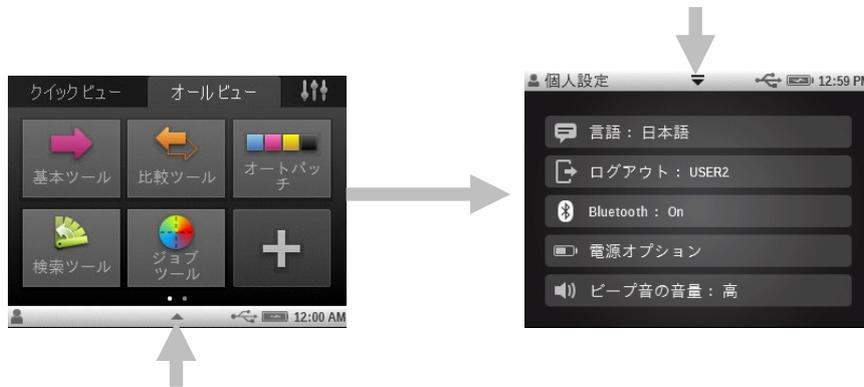


スクロールバーは、値やパラメータを選択するオプションスクリーンにも表示されることがあります。下記の例では、上下にスクロールしてイルミナントを選択します。



現在のオプションにアクセスするには

スクリーン下のステータスバーに表示される三角アイコンは、選択されているユーザーまたはツールに対する装置の設定オプションにアクセスします。メインメニューで三角アイコンをタップすると装置の設定が表示されます。ツールスクリーンで三角アイコンをタップすると、現在のユーザーに対するツールおよび装置の設定が表示されます。前の画面に戻るには、スクリーン上部のステータスバーにある三角アイコンをタップしてください。ユーザーオプションについては本書後半に詳しく説明しています。



名称スクリーン

ツールやユーザー名を変更できる名称スクリーンが表示されます。Backspace の矢印ボタン (<-) をタップして 1 文字ずつ削除します。名前全体を削除する場合は、[消去] ボタンをタップします。数字のスクリーンにアクセスするには [123] ボタンを押してください。新しい名前を入力後、[OK] ボタンをタップして保存・終了します。



アイコンの説明

注記：ツールは、eXact のモデルによって異なります。

[クイックビュー] メニューツール



濃度／ドットゲインツール：用紙、CMYK ベタ濃度、アミ点を測定します。



CIE-L*a*b*ツール：サンプルを測定し、L*a*b*データを表示します。

[設定] メニューツール



ユーザーアカウント：新規ユーザーアカウントを設定、および既存のユーザーアカウントを編集します。



個人設定：現在の個人設定にアクセスします。個人設定では、アカウントオプション、カラーの初期設定、機能の初期設定、言語、その他の装置の設定を編集できます。



診断：装置の状態を表示し、装置に対する様々な診断チェック機能を実行します。



ジョブテンプレート：ジョブで使用されるジョブテンプレートを作成、編集、削除します。



カラーライブラリ：使用するカラーライブラリを作成、編集、コピー、削除します。

[オールビュー] メニューツール



基本：基準色を使用しない簡単な測定を行います。



比較：測定を実行し、基準色と比較します。



検索：測定を実行し、カラーライブラリ内で最も近似した色を検索します。



オートパッチ：基準色を使用しない測定で、自動パッチ認識で簡単な測定を行います。



一般ジョブ：複数の基準色（オプション）を保持し、自動パッチタイプ認識機能を持つジョブで測定します。



PSO ジョブ：PSO プロセス印刷仕様に従うジョブツールの特別バージョン。



G7 ジョブ：G7 プロセス印刷仕様に従うジョブツールの特別バージョン。



JapanColor ジョブ：JapanColor プロセス印刷仕様に従うジョブツールの特別バージョン。



追加：メインメニュー画面に新規ツールを追加します。

ステータスバー記号



USB：装置が USB でコンピュータに接続されている場合に表示されます。



Bluetooth：Bluetooth が有効になっている場合に表示されます。また、装置が Bluetooth でコンピュータに接

続されている場合は「青」で表示されます。



バッテリー：バッテリーの充電状況を表示します。



充電：装置が AC アダプター電源に接続されている場合に表示されます。



NetProfiler：NetProfiler が有効になっている場合は「グレー」で表示されます。プロファイルが期限切れ、または更新する必要がある場合は「赤」で表示されます。



セキュリティロック：セキュリティが使用および有効に設定されている場合に表示されます。



セキュリティの一時ロック解除：セキュリティが使用されており、一時的に無効に設定されている場合に表示されます。

次のアイコンは表示されない場合があります。これは、これらのアイコンが選択された測定やオプションに必要な場合。また、装置にインストールされていないオプション機能のアイコンは表示されません。これらのアイコンは、オプション機能が購入・インストールされている場合にのみ表示されます。

操作バー



基準色を測定：基準色を測定します。



用紙の測定：濃度測定用に用紙ホワイトを測定します。



シートの選択 (番号付き)：ジョブは「本刷りモード」にあります。保存される「シート」サンプル番号を表示します。



シートの選択：ジョブは「メイクレディモード」にあります。サンプルの保存機能は一時的に無効になります。



機能の選択：測定機能（例：濃度、L*a*b*）を選択します。



ジョブレポート：現在のジョブをレポート表示します。



ホーム：メインメニューに戻します。

パッチタイプ (ジョブツール用)



用紙：用紙パッチを表示／選択します。



ベタ：ベタパッチを表示／選択します。



2 次色：オーバープリントパッチを表示／選択します。



アミ点：アミ点パッチを表示／選択します。



グレーバランス：グレーバランスパッチを表示／選択します。

設定ウィザード



言語：使用する言語を選択します。



スクリーンの方向：右利き・左利きを設定します。



地域：地域を選択し、これに合わせて装置のデフォルト設定を変更します。



日付：日付を設定します。



時間：時間を設定します。

主な設定



言語：使用する言語を選択します。



ログアウト：現在のユーザーをログアウトし、新しいユーザーでログインします。



セキュリティ：セキュリティレベルを定義します。



Bluetooth：Bluetooth の選択オプションにアクセスします。



電源設定：バッテリーの節約オプションにアクセスします。



ビーブ音：ビーブ音の設定オプションにアクセスします。

測定スクリーン



基準色：基準色の選択およびスクリーン表示にアクセスします。



基準色の変更（比較および検索ツール用） または **パッチの変更**（ジョブツール用）：自動パッチタイプ認識機能が間違った基準色またはパッチを適用した場合に、選択を変更します。



戻る：前のスクリーンに戻ります。



自動カラー：自動カラーまたは自動パッチタイプ認識機能が選択されていることを表します。カラーモードまたはパッチ認識のスクリーンにアクセスする際にも使用します。



色彩値：カラーモードまたはパッチ認識のスクリーンにアクセスします。



Δ/絶対値：基準からの差分値Δと絶対値の表示を切り替えます。

合格/不合格インジケータ



合格：サンプルが許容値の範囲内にあることを表します。



アクション警告：サンプルが合格したことを表しますが、合否の境界にあります。



不合格：サンプルが許容値の範囲外であることを表します。

標準スクリーン



カラーライブラリ：カラーライブラリを選択します。



情報：現在の基準色情報を表示します。（例：配合の情報等）



許容値：現在の基準色に対する許容値の設定にアクセスします。値はこの画面から編集できます。

ライブラリのカテゴリおよび検索



検索：基準色名または数値で検索します。



分類のクラシック表示：ライブラリに保存されている基準色を分類します。



ΔE の分類：基準色をΔE でソートします。

ツール設定



削除：現在選択されているツールを削除します。



コピー：現在選択されているツールをコピーします。



移動：ツールを移動します。



キャンセル：選択された作業をキャンセルします。

装置の診断



キャリブレーション：キャリブレーション情報およびオプションを表示、マニュアルでキャリブレーションを実行します。



地域の設定：装置に対する地域の設定オプションにアクセスします。



情報：装置のタイプ、シリアル番号、ファームウェアバージョン等を表示します。



ハードウェアの診断：ハードウェアの診断ルーチンを開始し、エラーログを作成する際に使用します。



バッテリー情報：バッテリーの現在の状態とオプションを表示します。

メッセージ/情報



警告：警告/エラーメッセージを表示します。



測定表示：測定が実行されていることを表します。



測定完了の表示：測定が正常に実行されたことを表します。

測定条件

M0

A 光源（旧名称：フィルターなし、No）で測定された測定値

(NO)

M1 D50 光源（旧名称：昼光、D65）で測定された測定値

M2 UV 要素が除去された A 光源（旧名称：UV カットフィルタ、UVCut）で測定された測定値

(UVC)

M3 偏光フィルタを使用した A 光源（旧名称：偏光フィルタ、Pol）で測定された測定値（eXact Xp は M3 を除く）

(偏光)

スキャンモード



スキャンモード - カラーバーをスキャンし、データをソフトウェアに送信します。



速度インジケータ（青） - スキャン速度が遅すぎます。



速度インジケータ（シアン） - スキャン速度が少し遅くなっています。



速度インジケータ（白） - スキャン速度は良好です。



速度インジケータ（マゼンタ） - スキャン速度が少し早くなっています。



速度インジケータ（赤） - スキャン速度が早すぎます。

測定画面

メインメニューには次の 4 つの測定画面があります：（1）操作バーアイコン、（2）データおよびオプションエリア、（3）測定スクリーンアイコン、（4）ステータスバーアイコン

アイコンに関する詳細は、本書前半の「eXact アイコン」セクションをご参照ください。



（1）操作バーのアイコン

スクリーン上部のアイコンは、測定または選択画面にアクセスします。メニューツール同様に、アイコンをタップしてスクリーンを開きます。

(2) データおよびオプションエリア

このエリアには、測定値をシミュレーションしたカラーを表示します。測定データ、現在選択されているツールに対するオプションが表示されます。データおよびオプションは、選択されているツール、設定、分析によって異なります。

(3) 測定画面のアイコン

スクリーン右側のアイコンは、データ表示の変更や他の設定を有効にする際に使用します。アイコンの色は、使用されているツールによって変わります。これは、現在有効なツールを表します。マゼンタは [基本] ツール、オレンジは [比較] ツール、グリーンは [検索] ツール、シアンは [ジョブ] ツールを表します。

(4) ステータスバー

ステータスバーは、現在選択されている機能、接続方法（USB または Bluetooth）、バッテリーゲージなどを表示します。下の三角アイコンは設定画面にアクセスします。

- **ツール表示**：選択されているツール名を表示します。
- **USB あるいは Bluetooth による接続**：USB アイコンは、コンピュータの USB ポートに機器が挿入されている際に表示されます。Bluetooth® アイコンは接続の検索時およびコンピュータと接続中に表示されます。
- **セキュリティアイコン**（ロック/解除）：セキュリティが現在のユーザーに有効になっているかどうか、セキュリティが一時的に無効（ロック解除）または有効（ロック）になっているかどうかを表します。
- **NetProfiler のアイコン**：NetProfiler が有効であるか、期限が切れているか等を表示します。
- **バッテリーゲージ**：バッテリーパックの状態を表します。



バッテリーパックは完全充電されています。



バッテリーパックは十分な充電がされています。



バッテリーパックの残量が低下しています。測定の実行は可能ですが、バッテリーパックを充電することをお勧めします。



バッテリーパックの残量がかなり低下しており、後 2、3 回の測定しか残っていません。バッテリーパックを直ちに充電してください。このような状態には赤のインジケータが表示されます。



AC アダプターが挿入されており、バッテリーパックが充電中です。



AC アダプターが挿入されており、バッテリーパックはインストールされていません。

- **三角アイコン**：現在のユーザーまたはツールに対する装置の設定画面にアクセスします。
- **時間**：現在の時間を表示します。

初期設定ウィザード

eXact 装置を初めて起動する際、基本設定の指定ウィザードが表示されます。各設定はいつでも変更することができます。

1. 装置を使用する言語を選択してください。[OK] をタップして続行します。

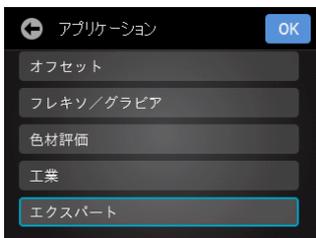


2. 装置の操作方向を、右利き用または左利き用にセットします。[OK] をタップして続行します。



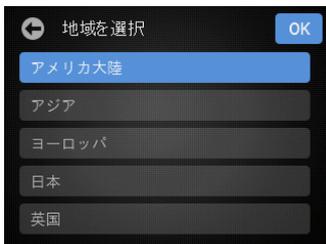
3. 装置が使用するアプリケーションをタップします。選択されたアプリケーションに最も一般的なツールをセットする設定が装置に使用されます。Basic および Basic Plus の装置には、アプリケーションの画面が表示されません。

注記：「エキスパート」アプリケーションは、装置に使用可能な全てのツールを ON にします。



4. 装置を使用する地域を選択します。[OK] をタップして続行します。

注記：この設定後、特定の色や機能の設定は地域のデフォルト設定によって事前に設定されます。



5. 分、時間、AM/PM アイコンをスワイプし、現在の時間を設定します。[OK] をタップして続行します。



6. 月、日、年のアイコンをスワイプし、現在の日付を設定します。[OK] をタップして日時を設定します。



7. [OK] をクリックし、設定画面を終了します。



注記： 地域のデフォルト設定の内容は診断ツールからいつでも変更することができます。

サンプルの測定

サンプルの条件

測定の際には、装置をできるだけ平坦で安定したサンプル上に置いて測定してください。測定物が機器より小さいなど計測しにくい場合は、そのサンプル表面と同じ高さの台を作るなどして、機器が安定して計測できるようにしてください。

測定の基本手順

1. サンプル表面から汚れや埃や水分を取り除いてください。
2. ツールおよび機能を選択します。
3. ターゲットウィンドウを測定サンプルの中心に合わせてください。可能な限り装置全体がサンプル上に乗るようにセットします。
4. 本体をターゲットベースにしっかりと押しつけます。測定値は、選択された測定条件と共に表示されます。
5. [完了] および測定データが表示されるまで、そのまま動かさずに装置を保持してください。[完了]は測定が正常に完了したことを表します。



6. 装置を離して測定結果を確認します。

測定に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。詳しくは [トラブルシューティング] のセクションをご覧ください。

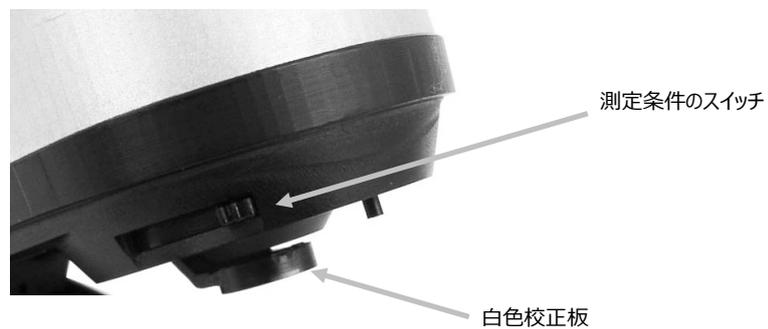


キャリブレーション

重要：キャリブレーション基準板は、しみや埃に大きく影響されます。機器の清掃は定期的に行ってください。キャリブレーション基準板および測定部の清掃については、本書の「清掃」セクションをご参照ください。

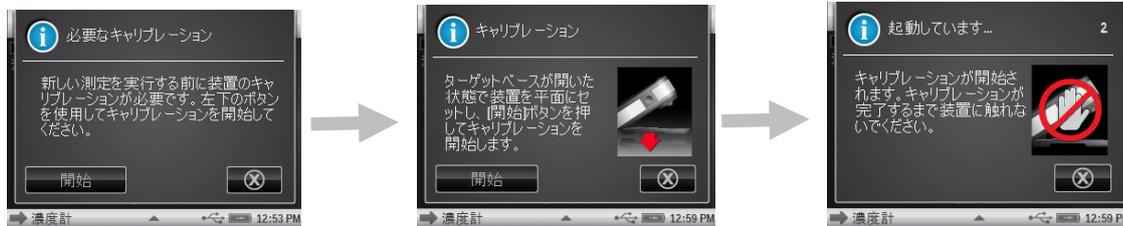
装置にはキャリブレーションプレートが搭載されており、必要に応じてキャリブレーションが自動的に実行されます。測定前にキャリブレーションが必要な場合は、装置にメッセージが表示されます。これは、装置が開いた状態（ロック解除）になっており、最後のキャリブレーションの期限が切れた時に表示されます。また、測定条件が変更され、その測定条件でキャリブレーションが実行されていないか、もしくは期限が切れている時にも表示されます。

キャリブレーションプレートは、装置が開いた状態（ロック解除）で、オプチクスのすぐ下にあります。サンプルの測定時には、キャリブレーションプレート（白色校正板）はオプチクスの後ろに退避します。

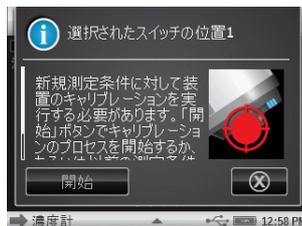


キャリブレーションの実行

キャリブレーションが必要で、装置が開いた状態（ロック解除）には、次のメッセージが装置に表示されます。装置を平らな面に置き、[開始] ボタンをタップします。装置に残りの秒が表示され、キャリブレーションが実行されます。



測定条件が変更され、その測定条件でキャリブレーションがまだ実行されていないか、期限が切れている時にもキャリブレーションが必要となります。この際 [開始] ボタンをタップし、スクリーンに表示される指示に従ってください。



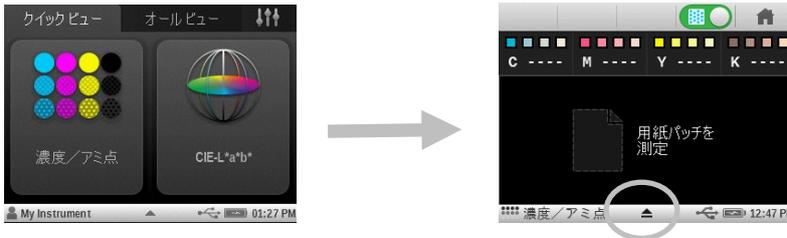
クイック測定機能

クイック測定ツールの設定

[濃度／ドットゲイン] および [CIE-L*a*b* ツール] には、設定を選択するスクリーンがあります。[クイックビュー] の設定は [クイックビュー] ツール専用で、[オールビュー] のツールには影響しません。

測定を行う前に、各ツールの設定を確認または必要に応じて編集してください。各設定の説明は以下の通りです。

1. ツール設定にアクセスするには、[クイック] 測定ツールをタップし、ステータスバーの三角アイコンをタップしてください。



2. [設定] をタップし、希望のオプションをタップします。



測定条件

色彩機能（例：CIE L*a*b*）および濃度機能（濃度ステータス、TV、トラッピング等）の測定条件を選択します。オプション：M0（No） – フィルターなし、M1（D50）、M2（UVC） – UV カットフィルター、M3（偏光フィルター） – 偏光フィルター（eXact Xp では M3 を除く）

ドットゲイン（濃度／ドットゲインツール専用）

アミ点計算式をマレー・デービス、ユール・ニールセン、SCTV（ISO 20654）に設定します。

スポットカラー階調値（SCTV）は、視覚的評価と上手く関連する色の階調値を提供します。階調が視覚的に等距離のステップで印刷されると、関連 SCTV 値はほぼ等距離の割合（0～100%）になります。**注記：** SCTV は、eXact ベーシックに備わっていません。

マレー・デービス方程式では、光の光学的吸収による濃度増加の影響が含まれた値になります。ユール・ニールセン方程式では、異なる条件に適合させることができます。ユール・ニールセンが選択されると、ブラック、シアン、マゼンタ、イエロー、スポットのそれぞれで係数の設定が表示されます。

[アミ点面積] ボタンをタップして選択します。

注記： ユール・ニールセン方程式は、実際の物理的面積率を判断する場合などの特別なケースのみに使用してください。

ドットゲイン（濃度／ドットゲインツール専用）

アミ点測定に 3 つまでのアミ点パッチ%を設定可能です。通常は、25%、50%および 75%、または 40%および 80%の値ですが、カスタム値を入力できます。

濃度ステータス（濃度／ドットゲインツール専用）

濃度機能全てのステータスを選択します。オプション：ステータス A、E、I、T、G

濃度白色ベース（濃度／ドットゲインツール専用）

用紙基準（pap）または絶対基準（abs）の条件を設定します。[用紙] を白色ベースとして選択した場合、測定は印刷インキレイヤーのみを参照し、用紙色の影響は含まれません。印刷されたインキレイヤーの他に、[絶対値] を選択した場合は、用紙の影響も測定値に含まれます。

用紙測定条件を選択するには、[用紙] のチェックボックスを選択してください。濃度測定機能全てに絶対測定条件を選択するには、[絶対値] にチェックマークを入れてください。

濃度精度（濃度／ドットゲインツール専用）

濃度値の表示精度を選択します。オプション：標準（x.xx）、高（x.xxx）

平均測定

平均値の計算に必要な測定数を設定します。測定数は、2～5 または OFF に設定することができます。

詳しくは、比較ツールセクションの平均測定手順ご参照ください。

全濃度（濃度／アミ点ツール専用）

測定サンプルの全フィルタータイプ（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）に対する濃度値を表示します。さらに、分光曲線に対する最大濃度波長における濃度値を表示するよう設定することも可能です。オプション：CMYK、CMYK+スポット

濃度／アミ点（濃度／アミ点ツール専用）

アミ点およびベタインキの表示方法を選択します。アミ点には、[ドットゲイン（TVI）] または [アミ点%（TV）] が選択可能です。ベタインキには、[オート] または [CMYK] が選択可能です。

[オート] は、測定された優勢プロセスカラーを表示します。[CMYK] は、測定サンプルの全フィルタータイプ（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）に対する濃度値を表示します。

 イルミネント／観測者視野（CIE L*a*b*ツール専用）

 イルミネント／観測者視野の組み合わせを選択します。

 ΔE 方式（CIE L*a*b* ツール専用）

 ΔE 方式を選択します：オプション：CIE ΔE*（1976）、ΔECMC、CIE ΔE*（2000）、CIE ΔE*（1994）□ECMC、CIE ΔE*（2000）、CIE ΔE*（1994）を選択すると、属性係数を調整することができます。

濃度／ドットゲインツール

[濃度／ドットゲインツール] ツールは、CMYK ジョブに自動パッチ認識機能を使用しながら、基準色を使用せずに濃度とアミ点を測定します。

測定は全て絶対値で表示されます。

測定時にプロセスカラー（C、M、Y、K）のパッチタイプが自動的に認識されます。

パッチ認識で良好なアミ点が出力されない場合は、スクリーン左のアミ点タブをタップして再度測定することが可能です。測定が完了すれば、パッチ認識が再度 ON になります。

下記は、[濃度／ドットゲイン] ツールでサポートされるパッチタイプです。

用紙 4 つのベタ（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）、ベタにつき 1～3 つのアミ点パッチ（機能設定におけるドットゲイン機能に依存）

濃度／ドットゲイン測定

1. [クイックビュー] スクリーンから [濃度／ドットゲイン] のアイコンをタップし、ツールにアクセスします。



2. 用紙を測定します。



3. ベタインキを測定します。



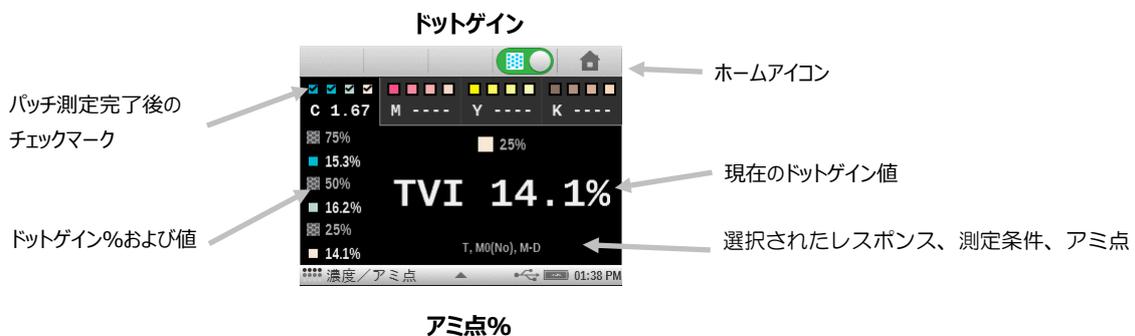
オートベタ濃度

現在のベタ濃度値



CMYK ベタ濃度

4. 関連するアミ点またはその他のベタインキを測定します。





5. 測定データを表示します。スクリーン上部から異なるインキ範囲をタップし、他のインキ値を表示します。

注記：[ホーム] アイコンをタップすると、全ての測定データが失われます。

濃度専用測定

シアン、イエロー、マゼンタ、ブラック専用の濃度測定機能です。スポットインキの結果は、測定色の分光曲線における最大濃度を示す波長における分光濃度を出力します。

濃度専用測定は、Ami点%機能を OFF に設定して実行します。スクリーン上部にあるAmi点%の切り替えアイコンをタップし、OFF に設定します。Ami点%が無効になるとアイコン表示が「赤」に変更します。

1. Ami点%の切り替えアイコンをタップし、OFF（赤）に設定します。最後の測定データが表示されます。
2. ベタ濃度を測定します。スクリーンをスワイプし、濃度と波長を表示します。（有効に設定されている場合）



CIE-L*a*b* ツール

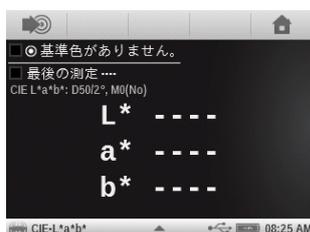
CIE-L*a*b* ツールはスポットカラー測定を行い、L*a*b* 色彩絶対値および Δ 値を表示します。

CIE L*a*b* 測定

1. [クイックビュー] スクリーンから [CIE L*a*b*] アイコンをタップし、ツールにアクセスします。最後の測定データが表示されます。



2. 必要に応じて、基準色のアイコン  をタップし、基準色の測定を実行します。



3. サンプルを測定し、絶対値および Δ 値を表示します。



オールビューの測定ツール設定

それぞれの測定ツールには、機能と設定を選択する設定画面があります。

測定前に、各ツールの設定を確認または編集してください。スクリーンには次のツールが表示されます：基本、比較、検索、自動パッチ、ジョブ。ジョブの機能や使用に関する情報は、ジョブツールの選択をご参照ください。

ツールに対する現在の機能を表示することができます。この場合、選択されているツールの現在の機能のみが表示されます。例えば、「 ΔE トレンド」は [簡易] ツールには表示されません。

ツール設定にアクセスするには、メインメニュー画面からツールのアイコンをタップし、そのままホールド（長押し）します。下記のサンプルには [濃度測定] ツールが表示されていますが、全ての測定ツール設定画面は同じ要領でアクセス・編集します。

注記： ツール設定は、対象となるツールが選択されている際に、ステータスバーの三角アイコンをタップしてアクセスすることもできます。



または



削除

メインメニューから現在のツールのアイコンを削除します。

コピー

メインメニューに現在のツールとその設定を複製します。

移動

メインメニューから現在のツールのアイコンを、次のメインスクリーンに移動します。

完了後、[戻る] アイコン  をクリックし、メインメニューに戻ります。

機能の選択

[機能の選択] ボタンをタップし、各機能を有効にできる画面にアクセスします。10 個までの機能を有効化できます。使用可能な全ての機能を参照するには [測定機能] セクションをご参照ください。



有効にされた機能は、ツールの測定時に選択可能となります。機能は選択された順番で表示されます。1 つまたは複数の機能が既存のリストに追加された場合、その機能はリストの最後に表示されます。

ツールに 10 個以上の機能が必要な場合は、追加する機能に対し新規ツールを追加する必要があります。詳しくは、本書後半の [ツールを追加] セクションをご参照ください。

[ジョブ] ツールでは、それぞれのパッチタイプに対し 10 個の機能を有効に設定することができます。パッチタイプに対する機能の有効化は、[ジョブツール] セクションをご参照ください。

機能の横に表示されるチェックマークは、現在選択されている機能を表します。機能を有効にするには、ボックスをタップしてチェックマークを入れてください。機能を無効にするには、ボックスをタップしてチェックマークを外してください。

機能の詳細を表示するには、(?) ボックスをタップしてください。

左側のスクロールバーは、他に使用可能な機能があることを表します。画面を上下にスワイプし、他の機能を表示します。

終了後、[戻る]  のアイコンをタップし、ツール編集画面に戻ります。

設定

[設定] ボタンをタップして、ツール設定のオプションにアクセスします。このスクリーンには [名前を変更]、[既定のツール設定を復元]、[カラー設定]、[機能設定] があります。

左側のスクロールバーは、他に使用可能なカラーおよび機能があることを表します。画面を上下にスワイプし、他の設定を表示します。

設定終了後、[戻る]  のアイコンをタップし、ツール編集画面に戻ります。



名前を変更

メインメニューの測定ツール名を変更します。ツール名には、合計 20 文字が使用できます。

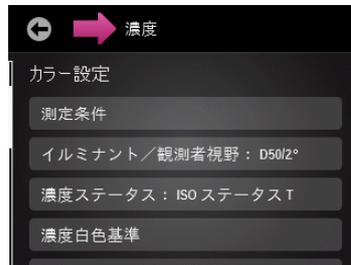
既定のツール設定を復元

ツールを現在のユーザープロファイルのデフォルト設定に戻します。カスタムツール設定は全て消去されます。

次の「測定機能」セクションは、各機能と設定を説明しています。

カラー設定

[カラー設定] は多くの異なるツールに共通するグローバルな設定です。このセクションの使用可能なカラー設定オプションのリストをご参照ください。



測定条件

色彩機能（例：CIE L*a*b*）および濃度機能（濃度ステータス、TVI、トラッピング等）の測定条件を選択します。オプション：

- M0(No) - フィルタなし
- M1 (D50)
- M2(UVC) - UV カットフィルタ
- M3(Pol) - 偏光フィルタ (eXact Xp は M3 を除く)

イルミナント/オブザーバー

イルミナント（観察照明）/オブザーバー（観測者視野角）を選択します。

ΔE 方式

測色に使用するΔE 色差式を選択します。オプション：CIEΔE*（1976）、ΔECMC、CIE ΔE*（2000）、CIE ΔE*（1994）。ΔECMC、CIE ΔE*（2000）、CIE ΔE*（1994）には、属性係数を調整することができます。

濃度ステータス

濃度機能全てのステータスを選択します。オプション：ステータス A、E、I、T、G

濃度白色基準

様々な濃度機能に対する用紙基準または絶対基準の条件を設定します。[用紙] を白色ベースとして選択した場合、測定は印刷インキレイヤーのみを参照し、用紙色の影響は含まれません。[絶対] を選択した場合、測定には印刷インキレイヤーに加えて用紙の影響が含まれます。

濃度測定機能全てに用紙測定条件を選択するには、[用紙] チェックボックスを選択してください。濃度測定機能全てに絶対測定条件を選択するには、[絶対] チェックボックスを選択してください。それぞれの濃度機能別に条件を設定するには [カスタム] ボタンを使用します。機能別の選択肢として濃度、全濃度、濃度トレンド、濃度 & L*a*b*、濃度 & L*C*h°、CMY バランス、コントラスト、ヒューエラー & グレーネス、BestMatch、インキ QC、グレーバランス品質管理が含まれます。

濃度精度

濃度値の表示精度を選択します。オプション：標準（x.xx）、高（x.xxx）

刷り順（オートパッチツール用）

[オートパッチツール] に対するプロセスインキの刷り順を設定します。

上下矢印のボタンをタップし、プロセスインキの刷り順を設定します。

合格/不合格インジケータ

比較測定の結果合格/不合格を表示します。オプション：ON、OFF。ここが有効（ON）に設定されている場合、合格判定がスクリーン右上の [基準色を表示] アイコンの近くに表示されます。

詳しくは、比較ツールセクションの合格判定手順ご参照ください。

平均測定

平均値の計算に必要な測定数を設定します。測定数は、2～5 または OFF に設定することができます。

詳しくは、比較ツールセクションの平均測定手順ご参照ください。

機能設定

表示される機能設定は、各ツールに選択された [機能の選択] によります。例えば、[機能の選択] でベストマッチが選択されていないと、ベストマッチは選択可能な機能の設定として表示されません。

機能の設定を編集するには、機能ボタンをタップしパラメータを選択してください。

[機能設定] の情報は、次の各機能の説明に含まれます。



グレーバランスのパッチ設定（オートパッチツール専用）：

グレーバランスのパッチ測定に 3 つまでのアミ点パッチ%を設定します。通常は、25%、50%および 75%、または 40%および 80%の値ですが、カスタム値を入力することもできます。これらの値は、[オートパッチツール] でパッチを検出する際に使用されます。

オールビューの測定機能

濃度

この機能はインキ膜厚を間接的に測定します。シアン、イエロー、マゼンタ、ブラックのプロセッサーで使用する濃度ステータス（A、E、I、T、G）を設定する必要があります。スポットインキの結果は、測定色の分光曲線における最大濃度を示す波長における分光濃度を出力します。本機能では、オプションとして白色ベース（用紙濃度）を差し引くよう設定することが可能です。[基本]、[検索]、[比較] ツールでは、表示されるカラーレスポンスを設定することができます。自動カラー選択ではカラーの主濃度（C、M、Y、K）および最後の CMYK 測定値が表示されます。スポットカラーでは、分光濃度の最大波長を自動で選択します。カラーレスポンス（C、M、Y、K）を手動で選択することも可能です。[ジョブ] ツールでは、表示されるカラーレスポンスが測定パッチによって異なります。

基準色があれば、 Δ 値が表示されます。カラーフィルター設定が [自動] または [スポット] の場合は、基準色のカラーレスポンスが表示されます。

濃度測定

選択された機能および色に対する濃度値を表示します。

1. 濃度、濃度トレンド、または全濃度を選択します。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. 色を選択してください。
4. サンプルを測定します。
5. データを表示します。

シミュレーションされた色と測定時のタイムスタンプが表示されます。

選択された機能、ステータス、測定条件



主濃度

最後の CMYK 測定値

濃度トレンド

この本機能は、指定された濃度色に対し、最後に測定された 10 回までの濃度値のバーグラフを表示します。 Δ ボタンが使用可能なツールでは、測定値ごとの表示を絶対または Δ 濃度（濃度差）に切り替えることが可能です。指定された濃度色の全ての測定値に対する平均値が、トレンドグラフの上部に表示されます。（10 回以上の測定が実行された場合も含まれます。）

基本ツール：測定値は、この機能でサンプルが測定された場合のみに追加されます。濃度カラーレスポンス別にトラッキングを行うため、シアンのサンプルを 2 つ測定した後、マゼンタのサンプルを測定し、シアンを再度測定した場合、シアンのレスポンスに対する 3 つの測定値がグラフに表示されます。トレンドグラフの測定値は、ホームボタンを選択して[基本] ツールを終了するまで消去されません。[基本] ツールには比較する基準色がないため、 Δ モードはありません。

分析&比較ツール：トレンドグラフは新規基準色が変わるまで測定値のトラッキングを行い、その時点でグラフを消去します。選択された濃度カラーレスポンスを問わず、全ての測定値がグラフに表示されます。これは、同じパッチ（同じ基準色）に対して測定されたことを前提とします。[基本] ツール同様、現在の表示されている機能の測定値がトレンドグラフに追加されます。

ジョブツール：使用中の機能でない場合でも、各パッチの全ての測定値がトラッキングおよび記録されます。例えば、[濃度トレンド] がベタパッチに有効な機能であれば、ベタパッチに対する全ての測定値がトレンドグラフに追加されます。現在のシートにサンプルとして保存されていない測定値は、[ジョブ] ツールの終了時にトレンドグラフから失われます。（現在のシートに保存されているサンプルは、ジョブを再開する際に復元されます。

全濃度

この機能は、測定サンプルの全フィルタータイプ（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）に対する濃度値を表示します。さらに、分光曲線に対する最大濃度波長における濃度値を表示するよう設定することも可能です。

全濃度ツール機能

[全濃度] ボタンをタップして、表示する濃度値を選択します。オプション：CMYK、CMYK+スポット

CMY バランス

この機能は、見やすいグラフィック表示で、グレーバランスパッチを基準色と比較します。本機能は、ターゲット CMY 濃度値の基準色、および許容値の機能設定を必要とします。

CMY バランスの機能設定

CMY バランスボタンをタップし、濃度バランスの値を設定します。値は 0.01 から 0.99 までです。

CMY バランス測定

結果表示の左部は、サンプルの絶対 CMY 濃度値です。数値の横に矢印が表示された場合、現在のターゲットの濃度値にマッチさせるためのインキの修正すべき方向を表します。結果表示右部のバーグラフには、ターゲット基準値に比較した各インキのΔ差が表示されます。グラフのセンターラインはターゲット基準値を表し、いずれかの方向のバーはサンプルの濃度が高いまたは低いことを表します。グラフの外線は、機能設定のグレーバランスの許容値セットのプラスまたはマイナスの値を表します。本機能の目的は、サンプルの 3 つの全濃度をターゲット周辺の許容値内に収め、サンプルをバランスされていること（グレー）および正しい色（L 値）にするためです。3 つの値がバランス内であればサンプルはグレーとして考慮されますが、サンプルはターゲットと比べて、全体的に濃すぎるか、または薄すぎて見える場合もあります。インキ値がバランス内でない場合は、いずれかの 2 つのインキ間での最も大きな濃度差が許容値より大きく、サンプルはバランス外となり、サンプルが十分にグレーになっていないことを表すアイコンが濃度値の上に表示されます。

1. [CMY バランス] 機能を選択します。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. グレーバランスの基準色を測定します。
4. サンプルを測定します。
5. データを表示します。



アミ点機能

この機能は、アミ点パッチの測定濃度値とあらかじめ測定した 0%部（用紙／基材部）および 100%部（ベタパッチ）の濃度値を比較して、ハーフトーンパッチのアミ点面積率（%）を算出します。マレー・デービス、ユール・ニールセンまたは SCTV（ISO 20654）を使用して結果を計算します。

ユール・ニールセンの n ファクター定数は、プロセスインキ各色とスポットカラーで別々に調整することができます。

アミ点面積の機能設定

アミ点計算式をマレー・デービス、ユール・ニールセン、SCTV（ISO 20654）に設定します。

方程式は C、M、Y、K、スポットカラーに個別に設定されます。

この設定は、[アミ点]、[ドットゲイン]、[TVI テーブル]、[印刷特性曲線] の機能に使用されます。

スポットカラー階調値（SCTV）は、視覚的評価と上手く関連する色の階調値を提供します。階調が視覚的に等距離のステップで印刷されると、関連 SCTV 値はほぼ等距離の割合（0～100%）になります。マレー・デービス方程式では、光の光学的吸収による濃度増加の影響が含まれた値になります。ユール・ニールセン方程式では、異なる条件に適応させることができます。色にユール・ニールセン方程式が選択されている場合は、係数を設定します。

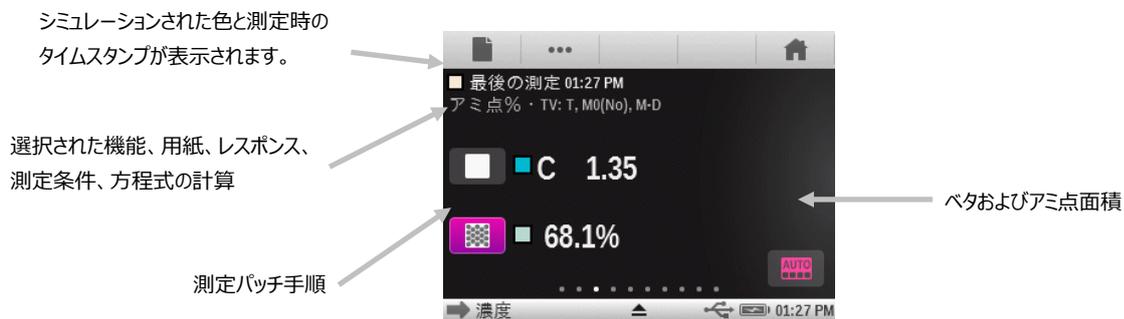
[アミ点面積] ボタンをタップして選択します。

注記：ユール・ニールセン方程式は、実際の物理的面積率を判断する場合などの特別なケースのみに使用してください。

アミ点面積の測定

選択されたカラーに対するアミ点面積を表します。測定手順として、用紙、ベタおよびアミ点測定が必要です。

1. [アミ点面積] 機能を選択します。
2. 必要に応じて [カラー] オプションを選択します。
3. 用紙を測定します。用紙の測定後は、新しい基材（用紙）に変更されるまで、再度測定する必要はありません。
4. ベタパッチを測定します。
5. 測定されたベタに一致するアミ点パッチを測定します。
6. アミ点パッチのアミ点面積%データを表示します。
7. 測定されたベタに一致するその他のアミ点パッチを測定するか、スクリーン左のベタパッチをタップして他のベタパッチを測定します。



ドットゲイン (TVI) 機能

この機能は、実際のアミ点面積率%とその名目値の差です。名目値%は、ドットゲイン機能の設定（1～3 パッチ）で構成されています。ジョブテンプレートを使用する際は、専用のアミ点%の定義が含まれるため、ジョブツールはこの設定を無視します。

ドットゲインの機能設定

濃度測定> 設定の機能設定から[ドットゲイン] ボタンをタップし、アミ点測定に 3 つまでのアミ点パッチ%を設定します。通常は、25%、50%および 75%、または 40%および 80%の値ですが、カスタム値を入力することもできます。

ドットゲイン (TVI) の測定

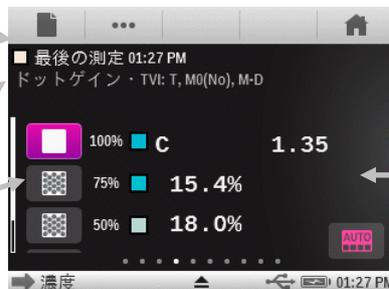
選択されたカラーに対するドットゲインを表します。機能設定のドットゲインは、測定するアミ点のパッチ数を定義します。1～3 個までのアミ点パッチを指定することができます。3 つのパッチが指定されると、スクロールバーが表示され、スクリーンをスワイプして残りのデータを表示することが可能です。

1. ドットゲイン機能を選択します。
2. 必要に応じてカラーオプションを選択します。
3. 用紙を測定します。用紙の測定後は、新しい基材（用紙）に変更されるまで、再度測定する必要はありません。
4. ベタパッチを測定します。
5. 測定されたベタに一致するアミ点パッチを測定してください。スクリーンに表示される測定手順を実行するか、またはスクリーン左のアミ点パッチをタップして測定します。
6. 測定されたベタに一致する他のアミ点パッチを測定してください。
7. アミ点パッチのドットゲインデータを表示します。

シミュレーションされた色と測定時のタイムスタンプが表示されます。

選択された機能、用紙、レスポンス、測定条件、方程式の計算

測定パッチステップ



ベタおよびドットゲイン

トラッピング機能

本機能は、ベタインキが他のベタインキ上（オーバープリント）にどのように印刷できるかを判断します。良好な範囲でのトラッピングは、良好なカラーガモットを確保します。カラーレスポンスを自動モードに設定すると、トラッピングをプロセスインキで操作することになります。スポットカラーを使用する際は、スポット設定をご使用ください。トラップ値は次の 3 つのいずれかの計算式で算出されます：

ブルーセル (GATF) トラップ方程式（工場出荷時の初期設定）

$$T_p = \frac{D_{OP} - D_1}{D_2} \times 100$$

ブルーナートラップ方程式

$$T_B = \frac{1 - 10^{-D_{OP}}}{1 - 10^{-(D_1 + D_2)}} \times 100$$

Ritz 方程式

$$T_R = \frac{1 - 10^{-(D_{OP} - D_1)}}{1 - 10^{-D_2}} \times 100$$

この時、

- D_{OP} = オーバープリント濃度 - 用紙濃度
- D_2 = 第 2 インキ濃度 - 用紙濃度
- D_1 = 第 1 インキ濃度 - 用紙濃度

トラッピング機能の設定

[トラッピング] ボタンをタップし、トラッピング方式を設定してください。

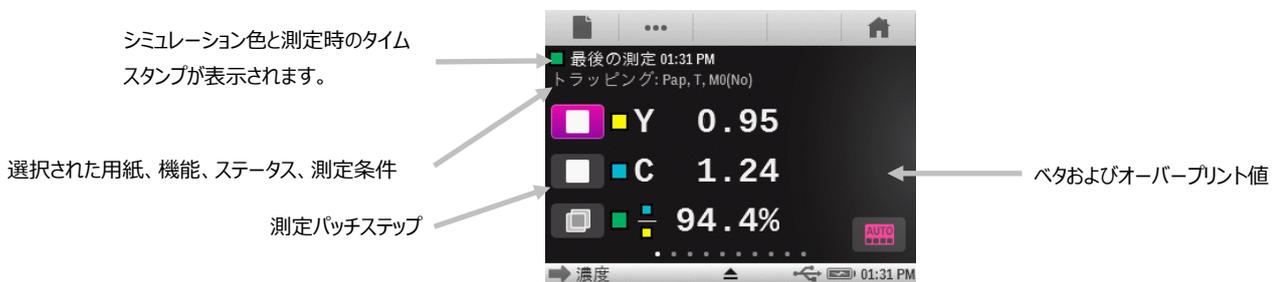
オプション：ブルーセル、ブルーナー、Ritz

トラッピング測定

ベタインキ濃度およびオーバープリント値を表示します。最初に印刷するインキ、次に印刷するインキ、オーバープリント（2 次色パッチ）測定が必要です。

注記：パッチの測定後、必要に応じてスクリーン左のパッチをタップして測定します。

1. [トラッピング] 機能を選択します。
2. 用紙を測定します。用紙の測定後は、新しい基材（用紙）に変更されるまで、再度測定する必要はありません。
3. 最初のインキを測定します。
4. 次のインキを測定します。
5. オーバープリントパッチを測定します。
6. データを表示します。
7. その他のトラップ測定を続行します。



印刷特性曲線機能

この機能は、ステップウェッジターゲットに対して測定された一連の階調値をプロットします。本機能は、測定するアミ点パッチの間隔を 0% から 100% 間で 5%、10%、20%、25% ステップに設定することができます。

測定はベタから始め、次のステップは自動的にグラフに表示されます。グラフの両側からいずれかの矢印をクリックすると、以前の測定を再実行、または結果を表示することができます。

印刷特性曲線機能の設定

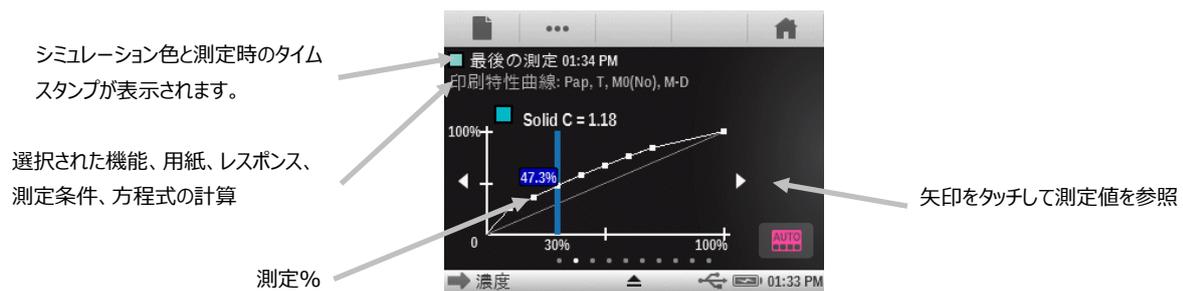
[印刷特性曲線] ボタンをタップし、ステップウェッジを設定してください。選択オプションは次を含みます：5%、10%、20%、25%。

印刷特性曲線の測定

ステップウェッジの各パッチに対するアミ点面積の測定値をグラフにプロットします。グラフ範囲は0から100%です。

注記：測定済みの測定値に戻り結果を表示または再度測定するには、グラフ両側に表示される矢印エリアをタップしてください。

1. [印刷特性曲線] 機能を選択します。
2. 必要に応じてカラーオプションを選択します。
3. 用紙を測定します。用紙の測定後は、新しい基材（用紙）に変更されるまで、再度測定する必要はありません。
4. 100%のベタパッチを測定します。
5. シーケンスの最も低いステップパッチを測定します。（例：10%）
6. 終了するまで、増加する順序にステップパッチを続けて測定します。
7. 矢印をタップしてデータを表示し、ステップを参照してください。



コントラスト機能

この機能は、シャドーエリアのアミ点品質をチェックする際に使用されます。コントラストは、ベタインキ濃度の測定値およびシャドーエリアのインキ濃度から計算されます。本機能には [自動] および [スポット] の2つの自動カラーレスポンス設定がありますが、プロセスカラーのいずれかの色に手動で設定することもできます。

コントラスト測定

ベタインキ濃度の測定値およびシャドーエリアのインキ濃度を表示します。

1. [コントラスト] 機能を選択します。
2. [カラー] オプションを選択します。
3. 必要に応じて用紙を測定します。
4. ベタパッチを測定します。
5. 測定されたベタに一致するアミ点パッチを測定してください。
6. データが表示されます。
7. 測定されたベタに一致するその他のアミ点パッチを測定するか、スクリーン左のベタパッチをタップして測定します。



ヒューエラー／グレイネス機能

ヒューエラーは、印刷された色の仮想的な純色からの変動を表します。グレイネスは、彩度の低下をまねく色のグレーの存在を表します。ヒューエラーおよびグレイネスは、印刷作業全体における安定性をチェックします。

ヒューエラー／グレイネスは次の計算式で算出します。

$$H = \frac{D_M - D_L}{D_H - D_L} \times 100 \quad G = \frac{D_L}{D_H} \times 100$$

この時、

D_H = C、M、Y の最も高い濃度

D_M = C、M、Y の次に高い濃度

D_L = C、M、Y の最も低い濃度

ヒューエラー／グレイネス測定

マイナス用紙または絶対濃度でヒューエラーとグレイネスを表示します。ヒュー／グレーは、3つの全フィルター（シアン、マゼンタ、イエロー）で選択されたインキを測定します。ヒューエラーおよびグレイネス値は、V（ビジュアル）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）の色に向けて表示されます。例えば、C -> Y はシアンの色がイエローにシフトしていることを表します。

1. [ヒューエラー&グレイネス] 機能を選択します。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. ベタパッチを測定します。
4. データが表示されます。



色彩機能

CIE L*a*b*

この機能は、CIE 1931 XYZ 色空間から知覚的に均等な空間への変換として算出されています。L*次元は明度、a*（レッド／グリーン）と b*（イエロー／ブルー）は色味に関連する次元になります。知覚的に均等であるということは、カラー値の同じ量の変動が、ビジュアル的にほぼ同じ変動を引き起こすことを意味します。有効な基準色が存在する際は、 Δ 値が設定されている ΔE タイプと共に表示されます。

濃度 + L*a*b*

この機能では、濃度結果と L*a*b* 値の結果を同じ表面に表示します。モード（自動およびスポット）は、それぞれ、プロセスインキ（C、M、Y、K）の主濃度または最大吸収波長の分光濃度を表示します。有効な基準色が存在する場合は、 Δ /絶対ボタンが表示され、最新サンプルの絶対および Δ 間の結果を変更することが可能です。

濃度 + L*C*h°

この機能では、濃度結果と L*C*h° 値の結果を同じ表面に表示します。モード（自動およびスポット）は、それぞれ、プロセスインキ（C、M、Y、K）の主濃度または最大吸収波長の分光濃度を表示します。有効な基準色が存在する場合は、 Δ /絶対ボタンが表示され、最新サンプルの絶対および Δ 間の結果を変更することが可能です。

CIE L*C*h°

この機能は CIE L*a*b*と同じ色空間を使用します。主な違いは、L*a*b*がデカルト座標で色をプロットするのに対して、L*C*h°では極座標を使用することです。L* は同じですが、C*は原点までの距離で表される彩度または色の強度を意味し、h°は色相角を表します。有効な基準色が存在する際は、 Δ 値が設定されている ΔE タイプと共に表示されます。

CIE XYZ

これらの色の三刺激値は、テスト色にマッチさせるのに必要となる加法混色の 3 原色の量を表します。CIE XYZ は、その他多くの色空間を定義するベースとなっています。有効な基準色があれば、 ΔXYZ が表示されます。

CIE Yxy

これらの値は XYZ 値から直接導かれます。Y は、色の輝度または視感反射率を表します。x および y は XYZ 値から計算され、X および Z の正規化された色度を定義します。ベタ色および 2 次色（オーバープリント）の x/y 値のプロットは、再現可能な色域を表示します。また x および y 値は、さまざまな膜厚／色材濃度におけるインキの「見え」を判断する機能の一部としても使用されます。有効な基準色があれば、 ΔYxy も表示されます。

CIE L*a*b*/CIE L*C*h°グラフ

この機能は Lab/LCh グラフを表示します。

1. CIE L*a*b*、CIE L*C*h°、濃度 + CIE L*a*b*、濃度 + CIE L*C*h°、ベストマッチ、ベストマッチテーブル、 ΔE トレンドから選択します。
2. サンプルを測定します。
3. グラフボタンをタップし、測定データをグラフに表示します。

現在の偏差（ブラック 0）



ベストマッチグラフには、現在の偏差は「ブラック x」およびベストマッチ偏差は「グリーン x」として表示されます。

色彩測定

選択された機能に対する色彩測定データを表示します。

1. L*a*b*、濃度 + L*a*b*、濃度 + CIE L*C*h°、L*C*h°、XYZ、Yxy 色彩機能を選択します。
2. サンプルを測定します。
3. データが表示されます。



用紙インデックス機能

この機能はイエローネス、ホワイトネス、CIE Tint のインデックスデータを出力することができます。機能の設定により、データが 1～4 行で表示されます。本機能のディスプレイには、次の中から 4 つまでの計算式を選択することができます。ホワイトネス (E313-SpectroEye、E313-98、E313-05、Berger、Stensby)、イエローネス (E313-SpectroEye、E313-98、E313-05、D1925)、CIE Tint、ブライトネス。有効な基準色が存在する場合、△がディスプレイの右半分に表示されます。

用紙インデックス機能の設定

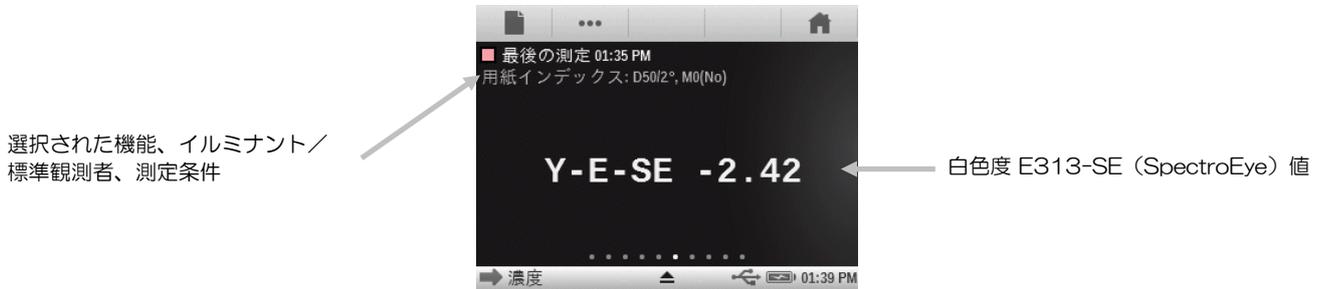
[用紙インデックス] ボタンをタップし、測定後に表示する用紙インデックスを選択します。画面に 4 つまでのインデックスを表示することができます。使用可能なオプションは下記をご覧ください。

- **黄色度 E313-SpectroEye、E313-98、E313-05 および 1925** : 白色および近白色サンプルの評価に使用します。これらのサンプルにはイエローネスの視覚的評価と関連する数字が与えられます。
- **白色度 E313-SpectroEye、E313-98、E313-05、Berger、Stensby** : 白色および近白色サンプルの評価に使用します。これらのサンプルは白色度の視覚的評価と関連する数字が与えられます。
- **CIE Tint** : 白色度およびアミ点は、白色用紙の a* と b* に似た役割を果たします。アミ点のマイナス値は、赤みのシェードに一致します。アミ点のプラス値は、緑みのシェードに一致します。
- **ブライトネス** : 白、近白色、ナチュラルカラーパルプ、ペーパー、およびボール紙の青の反射率による白色度の算出に使用します。

用紙インデックス測定

用紙インデックスの測定は、測定された表面のインデックス値を表示します。1 度に 4 つまでのインデックス値を表示することができます。

1. [用紙インデックス] 機能を選択します。
2. 用紙サンプルを測定します。
3. データが表示されます。



隠ぺい力機能

この機能は、インキまたは用紙の隠ぺい力を判断します。サンプルの輝度（Y～CIEXYZ）がホワイトまたはブラック上で印刷された際に、測定値がどれだけ異なるかによって算出します。インキを両方（オーバーホワイト・オーバーブラック）の上で測定後、隠ぺい力%が表示されます。（0 = 完全に透明、100% = 完全に不透明）

[ジョブ] ツールでは本機能をご利用いただけません。

隠ぺい力の測定

[隠ぺい力] 機能では、隠ぺい力試験紙に展色されたドロウダウン サンプルの隠ぺい力の割合が表示されます。

1. 隠ぺい力試験紙のオーバーブラック上でサンプルを測定します。
2. 隠ぺい力試験紙のオーバーホワイト上でサンプルを測定します。
3. データが表示されます。



プレート測定機能

この機能は、印刷プレート上のアミ点面積率を決定します。機能の設定でユール・ニールセンをセットする必要があります。

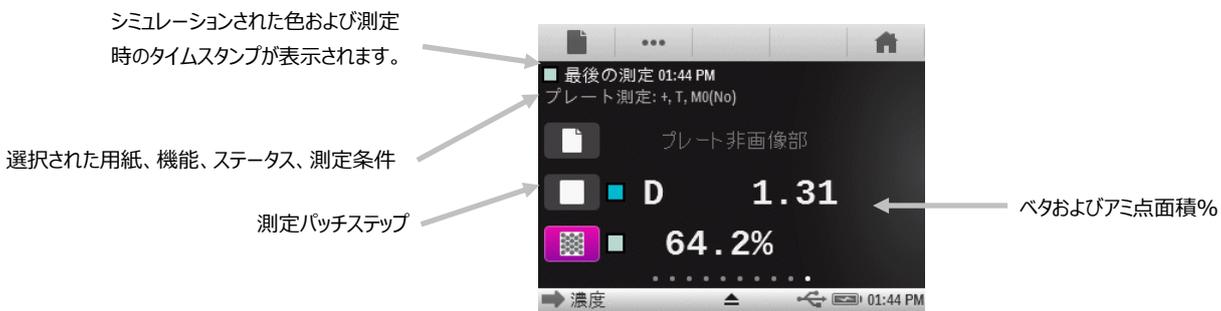
プレート測定機能の設定

機能設定からプレート設定ボタンをタップし、印刷プレートとアミ点面積を計算するプレートタイプ（ネガまたはポジ）およびユール・ニールセン係数を設定します。工場出荷時は 1.15 の値に設定されています。数値は 0.50 から 9.90 を使用できます。

プレート測定

[プレート測定] は、ベタパッチの値および実際のアミ点面積を表示します。

1. [プレート測定] 機能を選択します。
2. プレート非画像部を測定します。
3. ベタパッチを測定します。
4. 測定されたベタに一致するアミ点パッチを測定してください。
5. データが表示されます。
6. 測定されたベタに一致するその他のアミ点パッチを測定するか、スクリーン左のベタパッチをタップしてその他のベタパッチを測定します。



反射率グラフ機能

この機能は、測定データの反射率曲線を表示します。サンプルおよび基準色の曲線は異なる色で表示されます：サンプルは白、基準色は青。

反射率グラフ機能の設定

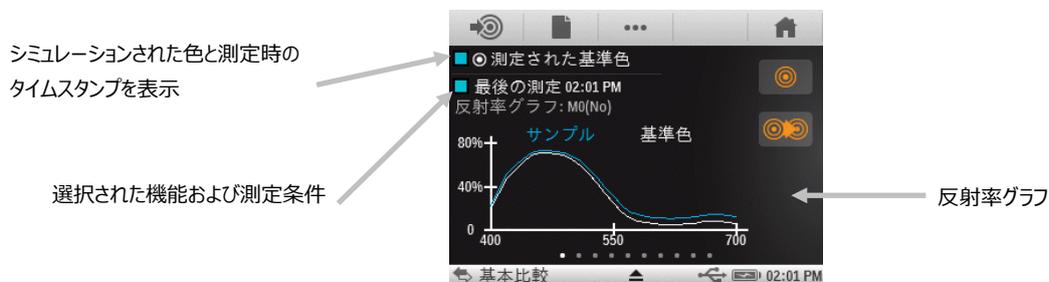
機能設定から[反射率グラフ] ボタンをタップし、反射測定の Y 軸範囲を設定します。

オプション：0%~100%、0~1

反射率グラフ測定

この機能は、測定データの反射グラフを表示します。反射率の値は、400 から 700 ナノメートルまで 10nm ごとに表示されます。

1. [反射率グラフ] を選択します。
2. サンプルを測定します。
3. データが表示されます。



輝度インデックス機能

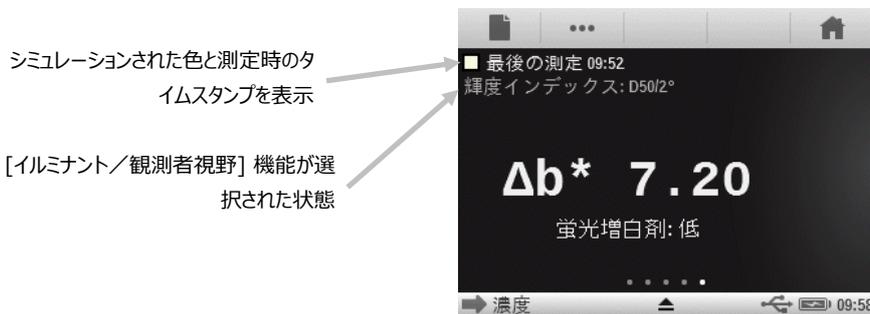
この機能は ISO 15397 に基づいて、基材に使用されている蛍光増白剤（OBA）の量を判断します。出力された値は、M1 および M2 測定条件の CIE- b*値力における差を表します。

輝度インデックスは次の場合のみに使用可能です。1. [測定条件] スイッチが「0」の位置にセットされている。2. 装置のキャリブレーションが実行されている。3. 同時測定機能がサポートされている。

輝度インデックス測定

輝度インデックスは、測定用紙に対する蛍光増白剤（OBA）の値を表示します。

1. [輝度インデックス] 機能を選択します。
2. サンプルを測定します。
3. データが表示されます。



OBA Classification:

$0 < \Delta b^* < 4$ 蛍光増白剤：弱

$4 < \Delta b^* < 8$ 蛍光増白剤：低

$8 < \Delta b^* < 14$ 蛍光増白剤：標準

$14 > \Delta b^*$ 蛍光増白剤：高



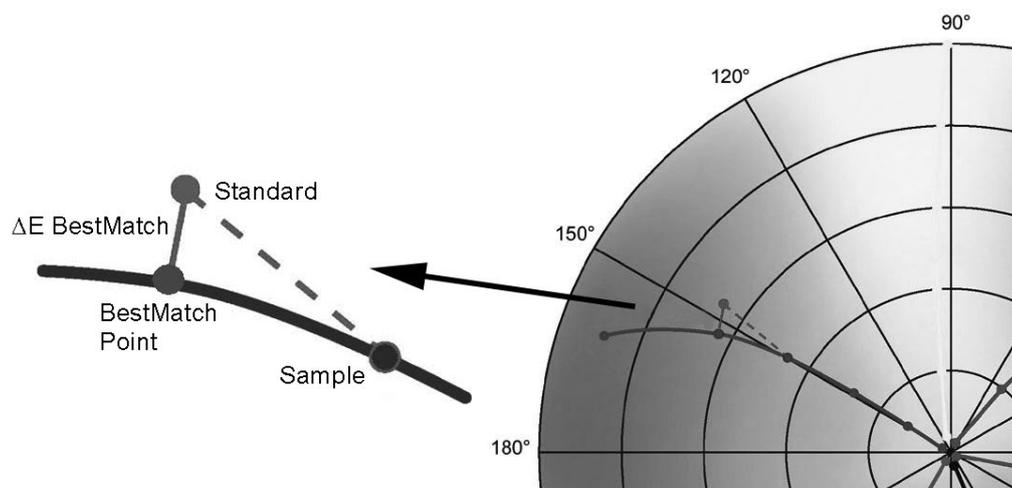
ベストマッチ機能

この機能はインキ膜厚（オフセット印刷）または色材濃度（フレキソまたはグラビア印刷）を調整することにより、基準色にさらに近似する色を再現できるかを判断します。

下図は、2つの異なる緑色に対して CIELAB カラースペースを使用したベストマッチ機能を表すものです。

再現色軌跡： インキ膜厚を変動させることで再現できる色の色度図上における軌跡

ベストマッチポイント： インキ膜厚または濃度を調整することで実現できる最良色（例：緑）



ベストマッチ機能の設定

機能設定から[ベストマッチ] ボタンをタップし、ベストマッチ測定に使用する基材（用紙）のタイプを設定します。

オプション：コート、上質

ベストマッチ測定

[ベストマッチ] 測定は、ベストマッチ修正が適用された場合の想定サンプルと基準色の色差、および適用されていない（現在の状態の）サンプルと基準色の色差を表示します。

1. [ベストマッチ] 機能を選択します。
2. 用紙を測定します。
3. [基準色の測定] のアイコン  または [基準色] のアイコン  をタップし、基準色を測定またはライブラリから選択するスクリーンにアクセスします。
4. 基準色を、測定、最後の測定値を使用、Pantone ライブラリから選択のいずれかで設定します。
5. [戻る] のアイコンをタップし、測定画面に戻ります。



または



6. 比較用サンプルを測定します。
7. 測定結果を表示します。



左側のスクリーン（現在）

最初の値は、現在の基準色に対する現在のサンプルの ΔE です。その下は測定されたベタ色の濃度レスポンスおよび測定濃度値を表します。濃度の調整すべき方向は濃度値右の矢印で表示されます。

ベストマッチの機能設定で選択された基材（用紙）タイプによって、コートまたは上質が左下に表示されます。これは修正を判断する計算式に影響します。この設定は、使用する基材（用紙タイプ）に基づいて設定しておく必要があります。

右側のスクリーン（ベストマッチ）

最初の値は、提案された調整が行われた後の予測色差を表します。次の値は、提案される濃度の調整ガイドで + 方向、- 方向で表示されます。この値は、膜厚でインキを調整するオフセット印刷に便利です。その他の印刷機（例：フレキシ）には、3 段目の色材濃度調整値でインキ調整を行います。

注記：許容される最大色差 ΔE は、それぞれの印刷ジョブに対して設定されます。 ΔE ベストの値が指定された最大許容色差 ΔE を上回る場合、濃度を変更することにより希望色を再現することはできません。

ΔE トレンド機能

本機能は、現在の基準色に対して測定された現在および過去のサンプルの ΔE 値をプロット（現在の ΔE 方式の設定を使用）します。グラフには、最後の 10 個までの測定値が表示されます。

色別バーグラフ：

- 白：現在の [合格/不合格] 許容値が設定されていない基準色に対する既存サンプル
- 青：最後のサンプル/測定値。合否判定なし
- 赤：現在の合否許容値に対する不合格のサンプル
- イエロー：サンプルは不合格ではありませんが、アクションリミット範囲を超えた合否境界上のサンプル。
- 緑：合格サンプル

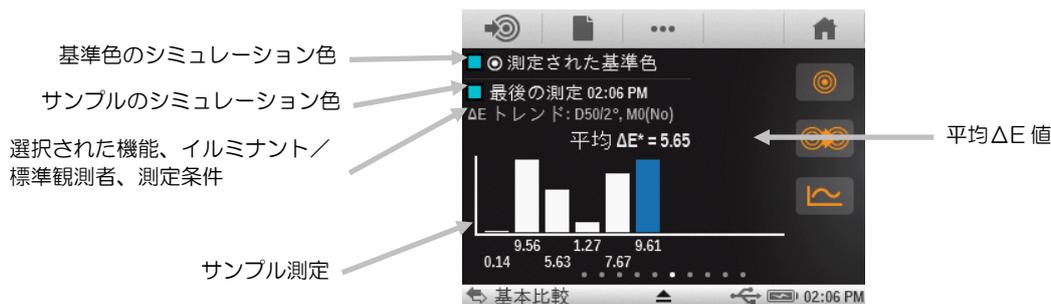
検索/比較ツール：基準色が変更された場合、以前の基準色に戻った場合でも、リセットを行ってください。現在の機能が画面に表示されている時のみ、測定値がグラフに追加されます。

ジョブツール：パッチタイプに対象となる全てのパッチの測定が記録されます。例えば、ベタパッチの機能リストの一部として使用されていれば、ジョブテンプレートに含まれるベタパッチへの測定がグラフに記録されます。グラフがスクリーンに表示されていなくても、新規測定値がベタパッチに対して収集されます。

ΔE トレンド測定

グラフには、最後の 10 個までの測定値が表示されます。全体的な平均値が、トレンドグラフの上部に表示されます。（10 回以上の測定が実行された場合も含まれます。）

1. [ΔE トレンド] 機能を選択します。
2. 用紙を測定します。
3. [基準色の測定] のアイコン  または [基準色] のアイコン  をタップし、基準色を測定またはライブラリから選択するスクリーンにアクセスします。
4. 基準色を測定、最後の測定値を使用、Pantone ライブラリから選択のいずれかで設定します。
5. [戻る] のアイコンをタップし、測定画面に戻ります。
6. 基準色と比較するサンプルを測定します。
7. 結果を表示します。





メタメリズム機能

二つの色がある照明下で一致し、他の照明下では一致しない現象。このような 2 つの色の対をメタメリック・ペアと呼びます。3 つまでのイルミナント／観測者視野を、現在のイルミナント／観測者視野のパラメータと比較することができます。この結果は、MI1、MI2、MI3 として表示されます。

メタメリズム機能の設定

機能設定の[メタメリズム] ボタンをタップし、メタメリズム機能測定に対するイルミナント（観察照明条件）／観測者視野を設定します。メタメリズムインデックスを決定することで、イルミナント（観察照明条件）の変更時に相互の色の関係の変化をチェックすることができます。3 つまでのテストイルミナントを設定することができます。

- 標準観測者アイコンをタップし、2°と 10°を切り替えます。
- イルミナントホイールを上下にスワイプし、希望するイルミナントを選択します。
- 3 つ目のイルミナントが必要でない場合は、3 番目のイルミナントを「----」に設定してください。

メタメリズム測定

メタメリズム測定は、3 つまでのイルミナント／標準観測者の組み合わせに対するインデックス値を表示します。

注記：この機能を使用する前に、機能設定のメタメリズムでイルミナント／標準観測者のパラメータを設定しておく必要があります。

1. メタメリズム機能を選択します。
2. 基準色を測定または選択します。
3. サンプルを測定します。
4. 測定結果を表示します。



絶対着色力機能

絶対着色力強度「K/S」は、色材濃度のための測定値です。

着色力機能の設定

機能設定から[着色力] ボタンをタップし、計算方法および着色剤を設定してください。

着色力を判断するには、使用可能な計算方法を選択する必要があります。最大吸収波長 K/S : K/S は、分光カーブの最大反射率の波長で計算されます。

xyz 値重平均 K/S : 可視スペクトル全体における xyz の平均中間値から着色力を計算します。

次に、着色力の判断に使用するインキタイプを選択してください。透明インキ、不透明インキ、またはテキスタイル染料を選択することができます。

絶対着色力の測定

絶対着色力機能は、測定サンプルの着色力を表示します。着色力は、機能設定で選択された方法で計算されます。

1. 絶対着色力を選択します。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. サンプルを測定します。
4. データが表示されます。



相対着色力機能

相対着色力「DS」は、色材濃度を基準色の色材濃度と比較する方法です。DS はサンプルの絶対着色力「K/S」と、基準色の絶対着色力「K/S」間の比率です。

相対着色力「DS」は、基準色に比した色材濃度の割合を表します。例えば、DS = 50%は、サンプル色材濃度が基準色の半分にかすまないことを意味します。

状況によって、絶対着色力「K/S」の計算に異なる計算式を選択することができます。透明インキには、サンプルカラーに基準色と同じ厚さのレイヤーを使用する必要があります。これにより初めて、色材濃度に関する情報を出力することが可能です。

膜厚（色材濃度）は、基準色に最もマッチさせるための色材濃度を表します。残色差（ $rs\Delta E$ ）は、実際にサンプルが基準色とどの程度マッチしたかどうかをチェックし、基準色にマッチさせるためのサンプルの色材濃度の補正量およびその際の CIE $\Delta E76$ を計算します。

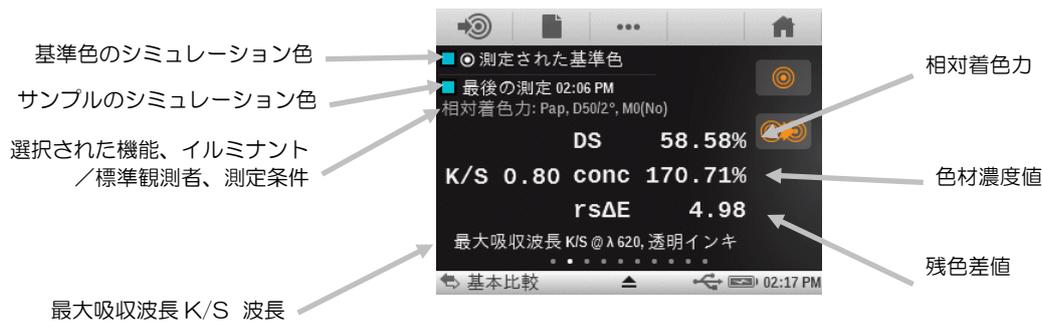
本機能には有効な基準色が必要なため、[基本] ツールでは使用できません。

着色力機能の設定

[絶対着色力機能] に説明される、[着色力機能の設定] をご覧ください。

相対着色力の測定

1. 相対着色力を選択します。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. 基準色を選択または測定します。
4. サンプルを測定します。
5. データを表示します。



用紙品質管理機能（ジョブツール用）

この機能はジョブでの用紙の「見え」をチェックします。

ディスプレイの左側には CMYK 濃度値が表示され、ユーザー設定によって Δ Lab および ΔE 値または Δ LCH および ΔE が右側に表示されます。

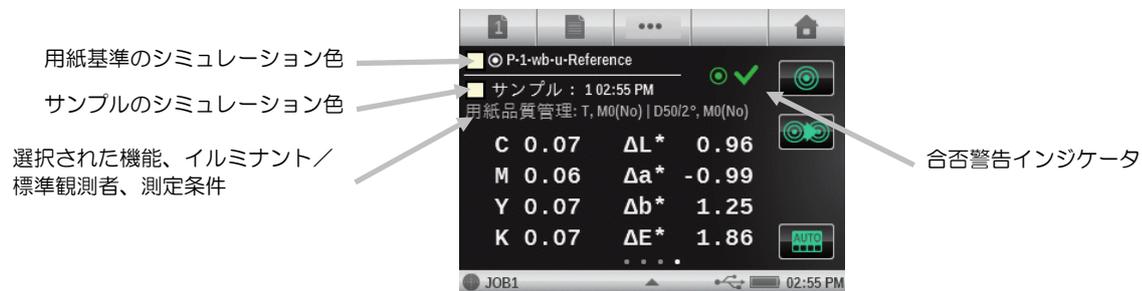
用紙品質管理機能の設定（ジョブのみ）

[用紙品質管理] ボタンをタップし、結果を表示するモードを設定します。

オプション：CIE L*a*b*（G7、JapanColor に使用）および CIE L*C*h°（PSO に使用）

用紙品質管理測定

1. 基材を測定します。
2. 結果を表示します。



ベストマッチテーブル（ジョブツール専用、ベタパッチ測定用）

このジョブ機能では、全色のベストマッチの結果を一度にテーブルで表示します。

テーブルの各行には、ジョブに使用されているベタ色インキを表示します。（全てのベタ色情報を 1 つの画面に表示できない場合は、テーブルをスクロールダウンしてください。） 各行の最初はインキの種類を表すカラーパッチ表示、次に 2 つの ΔE 値（最初の ΔE は現在のサンプルの色差、2 つ目の ΔE は調整後の予測色差）が続きます。各行の最後には、推奨される目標濃度（膜厚）が表示されます。

ベストマッチ機能の設定

機能設定から [ベストマッチ] ボタンをタップし、ベストマッチ測定に使用するオプションを設定します。

基材：コートまたは上質

印刷機：オフセットまたはフレキソ／グラビア

[印刷機] オプションは、[ベストマッチ] ツールに表示される結果に影響し、 ΔE または濃度のいずれかを表示します。（両方は表示されません）

ベストマッチテーブル測定

1. ベタパッチを測定します。
2. 結果が表示されます。

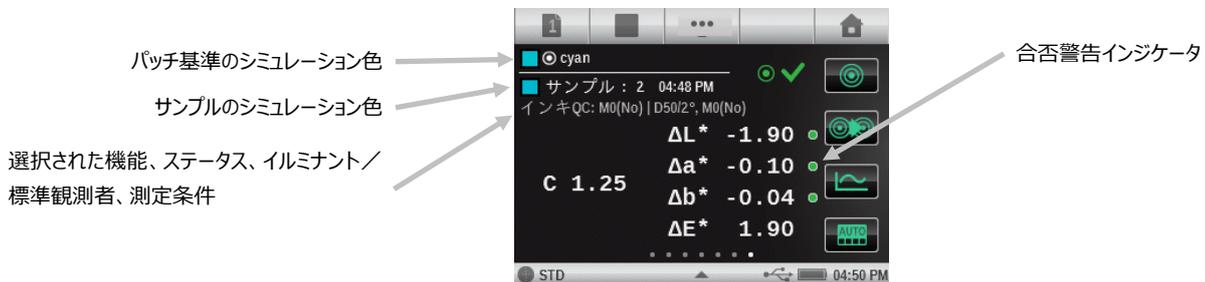


インキ QC (ジョブツール専用、オーバープリント、ベタパッチ測定用)

このジョブ機能は、ディスプレイの左半分は測定パッチに対する現在のインキの濃度レスポンスを表示します。ベタ色インキには、1つの濃度のみが表示されます。オーバープリントには、パッチの各インキの濃度レスポンスが表示されます。ディスプレイの右半分には ΔLab 値および設定されている ΔE 値が表示されます。

インキ QC 測定

1. ベタまたはオーバープリントパッチを測定します。
2. 結果を表示します。

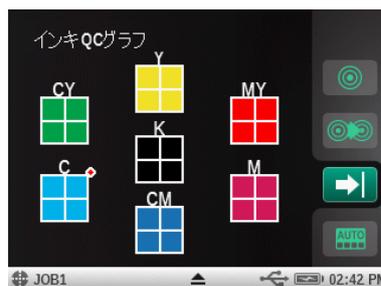


インキ QC グラフ

円形/楕円形のサイズは許容値を表します。点が円形/楕円形の外側にあれば、許容値から外れていることを示します。

注記：許容値がいくつかある場合は、一つだけ表示されます。許容値は既定として次の順に表示されます： ΔE^*76 、 ΔE^*2000 、 ΔE^*94 、 ΔE CMC、 ΔLab 、 ΔLCH 。

1. ベタまたはオーバープリントパッチを測定します。
2. グラフボタンをタップし、測定データをグラフに表示します。



ドットゲインテーブル（ジョブツール専用、アミ点測定用）

このジョブ機能では、最後のアミ点測定のドットゲインの結果を一度にテーブルで表示します。さらに、プロセスインキ（CMY）間のミッドトーンスプレッド値も表示します。

数値は、[アミ点設定] に従って方程式（マレー・デービス、ユール・ニールセン、SCTV）を使用します。

スプレッドは、指定スクリーン%（例：50%）におけるプロセスカラーインキ（CMY）に沿って、最少階調値から最大階調値を差し引いて計算されます。スプレッドが小さいほどグレーバランスは良好になります。G7 および PSO は、スプレッドの計算がわずかに異なります。

G7 スプレッド：それぞれの定義されたアミ点パッチに対するスプレッド値を個別に計算します。

PSO、JapanColor スプレッド：50%（ハーフトーン）に最も近いアミ点パッチのスプレッドのみを計算します。

ドットゲインテーブル機能の設定（ジョブのみ）

機能設定から[ドットゲインテーブル] ボタンをタップし、結果を表示するモードを設定します。

オプション：ハーフトーン、全て。ドットゲイン機能は、ドットゲインテーブル機能の設定にも影響します。

ドットゲイン測定

1. ベタパッチを測定します。
2. アミ点パッチを測定します。
3. 結果が表示されます。

パッチ基準のシミュレーション色

サンプルのシミュレーション色

選択された機能、ステータス、
測定条件

| K-1-wb-u-Reference_75% | | | |
|----------------------------|--------|--------|--------|
| サンプル：22 03:12 PM | | | |
| ドットゲインテーブル: Pap, T, M0(No) | | | |
| 25%(1) | 50%(2) | 75%(3) | |
| 16.6% | 20.3% | 17.6% | スプレッド: |
| 10.7% | 7.1% | 9.9% | 1.39% |
| 12.4% | 8.7% | 9.9% | 2.56% |
| 14.6% | 12.7% | 10.2% | 3.03% |

グレーバランス品質管理（ジョブツール専用、グレーバランス機能用）

このジョブは、スクリーン左側に現在のサンプルの C、M、Y 濃度値を表示し、右側に色彩データを表示します。

グレーバランス品質管理機能の設定（ジョブのみ）

機能設定から[グレーバランス品質管理] ボタンをタップし、結果を表示するモードを設定します。

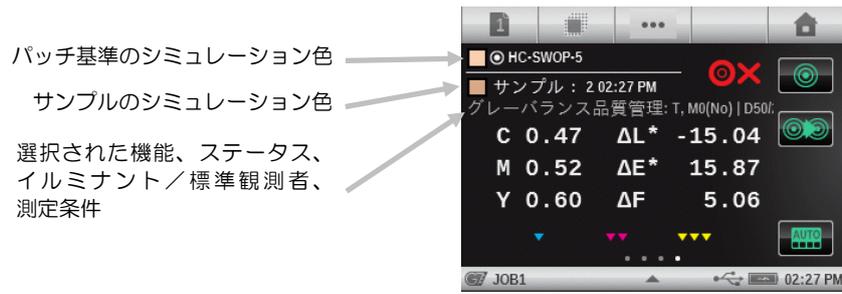
オプション：

$\Delta L^*a^*b^*$ 、 ΔE^* ：右側半分に ΔLab が表示されます。これは PSO に使用されます。

ΔL^* 、 ΔE^* 、 ΔF ：ディスプレイの右半分には ΔL 、 ΔE 、 ΔCh 値（ ΔC^* と h° の組み合わせ）が表示されます。これは G7 に使用されます。

グレーバランス品質管理測定

1. グレーバランスパッチを測定します。
2. 結果を表示します。



オールビュー測定ツールのアイコン

それぞれの測定ツールは、操作バーと測定スクリーンに表示されるさまざまなオプションのアイコンがあります。これらのアイコンは、測定や表示のパラメータを設定します。

注記： 選択されているツールによっては、使用できないオプションアイコンもあります。



アイコン：用紙



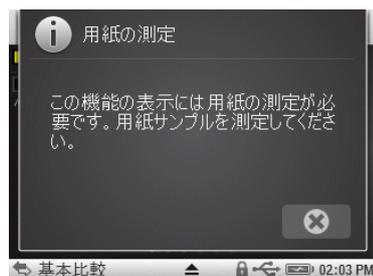
この用紙測定アイコンは [基本]、[比較]、[検索] ツールのみで使用されます。[オートパッチおよびジョブ] では、用紙はパッチの 1 つとしてみなされ、最初に測定する必要があります。

同じ用紙測定を、複数の機能やツール（基本、比較、検索）で共有することができます。

現在の機能にマイナス用紙の基準値が使用されている場合、スクリーンのサンプルパッチ列のすぐ下に [Pap] が表示されます。イルミネント/観測者視野、濃度ステータス、M2 などのパラメータと共に [Pap] パラメータが表示されます。

用紙基準値を必要とするが、まだ用紙が測定されていない機能で測定を開始すると、ポップアップウィンドウが表示され、最初に用紙を測定するよう指示されます。

キャンセルのアイコンをタップするか、あるいは用紙を測定します。



または



アイコン：機能



[機能の選択] で有効に設定されている機能は、このスクリーンに表示されます。機能を選択するには、ボタンをタップします。選択後、選択された測定のメインスクリーンに移動します。

これにより、メイン測定スクリーンで機能リストをスワイプせず、各機能に直接移動することが可能です。



アイコン：基準色の測定（比較ツール専用）



このアイコンは、基準色を測定するスクリーンにアクセスします。

[基準色] アイコンを選択し、既存のカラーライブラリから基準色を選択することもできます。



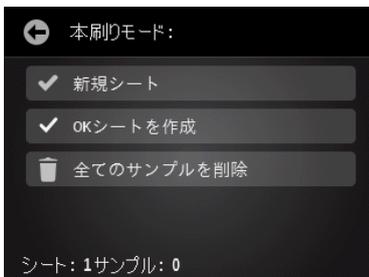
- このスクリーンでサンプルを測定し、現在の基準色に設定します。

アイコン：シートの選択（ジョブツール）



シート管理は、現在のジョブ内で操作を行いながら、テストシートごとに測定値を分類することが可能です。番号付けられたアイコンを使用して現在のシートをクリアしたり、新しいシートを作成したりするためのスクリーンにアクセスします。また、シートに保存されたサンプルは、消去を選択すると削除されます。

- [新規シート] をタップし、新規シートを作成します。
- [OKシートを作成] をタップし、現在のシートから OK シートを新規作成します。
- [全てのサンプルを削除] をタップし、現在のシートの測定値を消去して作業をやり直します。



アイコン：パッチタイプ（ジョブツール専用）



ジョブツールに選択されているパッチタイプによって、用紙、ベタ、オーバープリント、グレーバランスパッチが表示されます。このアイコンは、異なるパッチタイプを選択できるスクリーンにアクセスします。選択されたパッチに対し実行された最後の測定値が表示されます。

用紙：基材、非印刷パッチ

ベタ：100%で印刷された単一インキ色

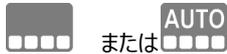
2次色：100%ベタで2つのインキが重ねて印刷されたパッチ。インキ刷り順により、最初に印刷されるインキが決まります。

アミ点：単一インキで印刷されたスクリーン諧調色

グレーバランス：グレーバランスを再現するため（またはニュートラル印刷濃度パッチ = 墨のアミ点にマッチさせるため）にC、M、Yプロセスインキを異なるアミ点%で印刷したパッチ



アイコン：カラーモード



[カラー] アイコンは、[基本]、[検索]、[比較] ツールのカラーモードにアクセスします。[ジョブ] ツールを使用する際、オート認識スクリーンにアクセスします。

カラーアイコンに「オート」が表示される際は、オートカラーまたはオートパッチ（自動パッチ認識）が選択されていることを表します。

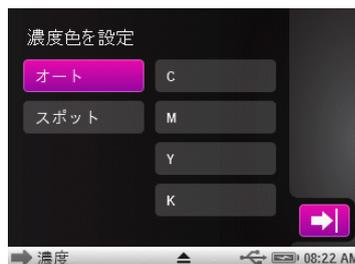
基本、検索、比較ツール（濃度測定用）

表示するカラーレスポンスを選択可能です。

オート：プロセスカラーに使用します。装置は濃度機能のカラーの主濃度（比較ツールを除く）および最後の CMYK 測定濃度を表示します。

スポット：この選択はスポットカラーに使用されます。最大吸収波長の濃度値が表示されます。

シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック：特別な条件には、プロセスカラーのフィルタをマニュアルで選択することができます。



ジョブツール

このアイコンは [ジョブ] モードにおいて、リスト（パッチボタンをタップすると表示される）から新しいパッチを手動で選択する際に使用します。パッチがマニュアル選択されると、[オートパッチ] のチェックボックスは自動的に無効になります。新しい測定値は、[オートパッチ] が無効になるまで（チェックが入るまで）選択されたパッチと比較されます。



アイコン：基準色またはパッチの表示



[検索] および [比較] ツールでは、このアイコンが、現在の基準色を表示する際、またはカラーライブラリから基準色を選択する際に使用されます。[ジョブ] ツールでは、このアイコンは現在の基準色を表示します。

下部のドットは、現在の基準色の他の情報を表示することができることを表します。

反射率ベースの基準色には、カラー情報が Lab と CMYK 値で出力されます。（パラメータは現在のツール設定、イルミナント／標準観測者、濃度ステータスなどにマッチしたものが使用されます。）

基準色が色彩値に基づく場合は（反射率情報なし）、下部のドットはその基準色にいくつの色彩情報が存在するかを表します。

- カラーライブラリアイコンをタップし、保存されているカラーライブラリを選択するスクリーンにアクセスします。**注記：**このアイコンは、ジョブツールではご利用いただけません。ジョブテンプレートは、使用するカラーを制限します。
- 情報アイコンをタップし、現在の基準色の情報を表示します。
- 許容値アイコンをタップし（表示されている場合）、基準色の許容値設定を表示します。下部に表示されるドットは、表示可能な他の（8 つまでの）許容値セットがあることを表します。



- カラーパッチアイコンをタップし、基準色の選択画面にアクセスします。



このスクリーンで、使用する基準色をライブラリから選択します。基準色を選択するには、検索アイコンをタップして名前または数値を入力する、または分類アイコンをタップしてクラシック表示または ΔE 分類方法を選択して基準色を検索します。

ΔE 表示は、現在のサンプルに最も近い Δ 値の基準色から順番に表示します。

検索モードのもう 1 つの機能は、サンプルをいつでも測定できることです。スクリーンは自動的に ΔE 検索モードに変更され、測定サンプルのリストが修正されます。

注記： オートパッチが有効になった状態でジョブの実行中に基準色パッチを変更しても、選択された基準色は維持されません。

アイコン：基準色の変更またはパッチの変更



比較と検索ツールでは、このアイコンは、現在の基準色に近似する別の基準色に切り替えるための基準色の変更スクリーンにアクセスします。

ジョブツールでは、このアイコンは、最後の測定値を別の基準色パッチに移動するためのパッチの変更スクリーンにアクセスします。これは、特定の基準色パッチに付属する最後の測定値が、次回の測定時にその基準色パッチを検出する際の基本となるため、ジョブモードにとって重要な要素です。間違ったパッチが記録されると、今後のパッチの検出に影響が生じます。

- 基準色のカラーパッチアイコン、または選択するパッチをタップします。
- チェックマークのアイコンをタップして基準色またはパッチを選択し、選択画面に戻ります。

基準色



パッチ



オールビューの基本ツール

一般情報

[基本] ツールでは、基準色を使用せずに濃度測定および色彩測定を行います。

基本ツールの測定スクリーンのアイコンは、マゼンタ色で表示されます。

注記：濃度測定が基本ツールのデフォルト名です。ツール名は変更することができます。

オプションアイコンの選択・使用に関する詳細は、本書前半の「アイコン：測定ツールオプション」をご参照ください。

1. [オールビュー] メニューから、[基本ツール] のアイコン  をタップし、測定スクリーンにアクセスします。



ドットは有効な機能の数を表します。

スクリーン下部のドットは、ツールに現在有効な機能の数を表します。スクリーンを左右にスワイプして別の機能スクリーンに切り替えます。

基本ツールの測定スクリーンのアイコンは、マゼンタ色で表示されます。

注記：用紙アイコンは、使用する機能に用紙基準値が必要な場合のみ、操作バーに表示されます。

オールビューの比較ツール

比較ツールは、測定データを保存することなく基準色とサンプル測定値を簡単に比較するツールです。このモードに入って最初に実施するステップは基準色をセットすることです。それ以降の測定サンプルは、その基準色と比較されます。基準色は、いつでも測定し直すことが可能です。

[比較] ツールの [測定] スクリーンのアイコンは、オレンジ色で表示されます。

注記：本セクションでは、比較ツールを使用した平均化および合否測定の実行手順を説明しています。操作および測定スクリーンのオプションアイコンについては、本書前半の「測定ツールオプション」をご参照ください。

基本比較測定

1. [オールビュー] メニューから、[比較ツール] のアイコン  をタップし、測定画面にアクセスします。



2. [基準色の測定] のアイコン  をタップし、基準色画面にアクセスします。
3. 基準色を測定します。
4. [戻る] のアイコン  をタップし、測定画面に戻ります。



5. 必要に応じて、用紙アイコン  をタップし、用紙を測定します。
6. 機能アイコン  をタップし、比較に使用する機能を選択します。
7. 比較用サンプルを測定します。
8. 測定結果を表示します。



9. その他の測定を続行するか、または測定スクリーンのアイコンを選択し、カラーオプションあるいは基準色を変更します。

合否判定機能による測定

合否判定は、許容値セットを持つ全ての基準色に表示されます。基準色の許容値の設定に関する詳細は、ソフトウェアをご参照ください。

合否判定は、機能と許容値タイプによって異なります。通常、測定結果エリアのサンプルと基準色名の横に、全般の合否ステータスアイコンが表示されます。

現在の機能に、現在の許容値に一致する Δ 値が表示される場合は、その横に色付きの円が表示され、合格の許容/警告/不合格ステータスを表示します。

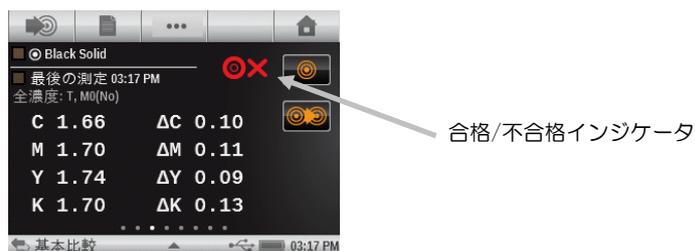
注記：合否判定は、合否測定を実行する前に必ず有効に設定してください。設定手順は本書前半の「測定ツールの設定」をご覧ください。

1. 合否測定ツールと機能を選択します。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. [基準色] のアイコン  をタップし、ライブラリから選択された基準色のスクリーンにアクセスします。
4. [カラーライブラリ] アイコン  をタップし、ライブラリから基準色を選択します。[+カラーライブラリを新規作成] をタップし、新しい基準色のライブラリを作成することも可能です。ライブラリの作成に関する手順は、「ライブラリツールの設定」セクションを参照してください。



注記：選択された基準色に対する許容値設定を表示するには、[許容値] アイコン  をタップしてください。

5. [戻る] のアイコン  をタップし、測定画面に戻ります。
6. 比較用サンプルを測定します。
7. 測定の合否結果を表示します。



平均値の測定

装置は、異なるサンプルの測定値から平均値を計算することができます。平均測定に使用する回数は、OFF または 5 個までに設定することが可能です。

注記： 平均回数は測定前に設定する必要があります。設定手順は、本書前半の「測定ツールの設定」をご覧ください。

以下の例で、3 回平均で行った場合の手順と表示例を示します。

1. いずれかのツールと機能を選択してください。
2. 必要に応じて用紙を測定します。
3. 複数回のサンプル測定を実施します。測定後、機器に [1/3] と表示され、平均測定値を計算するにあたり、あと 2 回の測定が必要であることを表します。

注記： 平均値の測定は、平均化のポップアップスクリーンに表示される [終了] ボタンをタップしていつでも終了することができます。平均値には、ボタンがタップされるまでの測定値のみが含まれます。



4. 複数回のサンプル測定を実施します。測定後、機器に [2/3] と表示され、平均測定値を計算するにあたり、もう 1 回の測定が必要であることを表します。



5. 複数回のサンプル測定を実施します。測定後、平均測定値が装置に表示されます。



オールビューの検索ツール



[検索] 機能は、カラーライブラリ内で最も近似した色を検索します。[サンプルの保存] 機能が使用されていない場合、出力された色彩値（実測値および色差）は装置に保存されません。（本セクション後半の「サンプルの保存」参照）

[比較] ツールの測定スクリーンのアイコンは、緑で表示されます。

注記：本セクションでは、[検索] ツールを使用した一般的な測定手順を説明しています。操作および測定スクリーンのオプションアイコンについては、本書前半の「測定ツールオプション」をご参照ください。

検索測定

- [オールビュー] メニューから、[検索ツール] のアイコン  をタップし、測定画面にアクセスします。



- [基準色] アイコン  をタップし、カラーライブラリから基準色を選択してください。
- 用紙アイコン  をタップし、必要に応じて用紙を測定します。
- 機能アイコン  をタップし、測定機能を選択します。
- カラーアイコン  をタップし、必要に応じてカラーを選択します。
- 検索用サンプルを測定します。
- 測定結果を表示します。



- [基準色] のアイコン  をタップし、ライブラリから選択された基準色に対するデータを表示します。



基準色を変更するには

ライブラリから自動的に選択された基準色は必ずしも必要なものではありません。[基準色の変更] アイコンをタップし、必要な基準色をマニュアルで選択することもできます。基準色は、最も近い ΔE の順番で上下に表示されます。

1. [基準色の変更] アイコン  をタップします。



2. 画面を上下にスワイプし、基準色を検索します。
3. 基準色をタップし、ハイライト表示します。
4. チェックマークのアイコン  をタップし、新規基準色を選択します。これで表示画面に戻ります。

サンプルの保存

[サンプルの保存] 機能は、作成されたプロジェクトにサンプル測定値を保存します。保存されたプロジェクトとサンプルは、X-Rite Color iQC ソフトウェアを使用し、アクセス/ダウンロード可能となります。

サンプルの保存機能を設定/使用

1. [サンプルの保存] アイコン  をタップします。



保存設定アイコン

ON/OFF 機能の切り替え

2. [保存設定] アイコン  をタップします。



3. [プロジェクト名] → [プロジェクトを新規作成] をタップします。
4. サンプルを保存するプロジェクト名を入力した後、新規作成されたプロジェクト名のボタンをタップし、[保存設定] アイコンに戻ります。
5. 次に [カラーライブラリ] をタップし、サンプルに関連するカラーライブラリを選択します。

6. 測定サンプル名の最初に特別な名前を付けたい場合は、[サンプルの接頭辞] をタップしその名前を入力します。測定サンプルは、1 つずつ増加する数字（例：00001、00002）で表示されます。
7. [戻る] のアイコン  をタップし、[サンプルの保存] に戻ります。
8. [ON/OFF]  をタップし、切り替え機能を有効にします。切り替えボタンが有効になると、緑で表示されます。
9. [戻る] のアイコン  をタップし、測定画面に戻ります。
10. 保存するサンプルを測定します。



保存されたサンプルの編集

注記： 保存されたサンプルを編集する場合は、[サンプルの保存] の切り替え機能  を有効にする必要があります。

1. [サンプルの保存] アイコン  をタップします。



2. [最後のサンプル名を変更] ボタンをタップし、サンプル名を編集します。
3. [最後のサンプルを削除] をタップし、最後に保存された測定値を削除します。
4. [すべてのサンプルを削除] をタップし、現在のプロジェクトから全てのサンプルを削除します。

オールビューの自動認識ツール

一般情報

[オートパッチ] ツールは、CMYK ジョブに自動パッチ認識機能を使用しながら、基準色を使用せずに濃度およびカラー測定を行います。

[オートパッチ] ツールの [測定] スクリーンのアイコンは、シアン色で表示されます。

測定結果は全て絶対値で表示されます。(Δ、合否判定等なし)

装置はパッチタイプを検出し、測定ごとに学習します。装置は、プロセスカラー (C、M、Y、K) のみを自動検出します。下記は、[オートパッチツール] でサポートされるパッチタイプです。

- 用紙
- 4 つのベタ (シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック)
- 3 色オーバープリント (CY, CM, MY) (どちらのインキが先に来るかは、カラー設定の刷り順に依存)
- ベタにつき 1 から 3 つのアミ点パッチ (機能設定におけるドットゲイン機能に依存)
- 1 から 3 つのグレーバランスパッチ (機能設定におけるグレーバランス設定に依存)

[オールビュー] メニューから、[オートパッチツール] のアイコン  をタップし、測定画面にアクセスします。



パッチ認識

用紙の測定に続けてベタパッチ測定を行ってください。最適なパッチ認識を行うために、用紙測定に続いてベタパッチを最初に測定する必要があります。パッチ認識に関する詳細は、「トラブルシューティング」セクションをご覧ください。

オールビューのジョブツール

一般情報

[ジョブツール] の目的は、パッチタイプとカラーを自動的に選択することです。測定値は、各パッチタイプに事前に定義されたテンプレートによってあらかじめ決められている機能または機能リストで自動的に表示されます。例えば、あるプロセスでは、用紙測定は自動的に Lab で判定され、アミ点測定はドットゲイン値によって評価されます。正しく設定されたジョブでは、コントロールトリップ上にある異なるパッチを測定する際に、機能を手動で切り替える必要はありません。

[ジョブ] の表示および操作は、使用中のジョブテンプレートのタイプにより大きく異なります。[ジョブ] はジョブツール、ジョブ名、ジョブテンプレートで構成されています。

サンプル測定値が装置に保存され、後から iQC Print ソフトウェアに転送できるモデルもあります。

ジョブテンプレートは eXact 装置、eXactManager または iQC Print アプリケーションで作成されます。作成されたテンプレートは、eXact Manager アプリケーションを利用し、他の装置と共有することができます。

ジョブワークフロー画面

ジョブを設定および開始後、概要モードのジョブワークフローが装置に表示されます。概要モードでは、選択されたジョブに必要な測定手順を容易に表示・実行することができます。切り替えアイコンをタップすることで、概要モードから、測定値の追加情報を表示する詳細モードに切り替えることが可能です。



ジョブツール

[ジョブ] ツールは、使用されるプロセス、機能の選択、設定、測定条件を定義します。

ジョブ名

ジョブ名は、ジョブを認識する固有のラベルです。ジョブ名は、後日、測定作業を再開・続行する際に再度選択することができます。

ジョブ名には、[既定のジョブ - サンプル無し] が含まれます。このオプションでは、測定値がスポットチェックとして保存されず調整されません。

ジョブテンプレート

ジョブテンプレートは、特定の印刷作業のための基準色のコレクションです。許容値、測定パラメータ、必要なパッチタイプ（ベタ、アミ点、オーバープリント、グレーバランス、用紙）の基準値を含みます。ジョブテンプレートには、G7、PSO、JapanColor などの業界標準の印刷プロセスを登録することも可能です。

ジョブテンプレートはパッチリファレンスのリストを含み、サンプルを基準色と比較することが可能です。ジョブは、テンプレートで定義されたパッチのみを検出します。ジョブテンプレートは、1 から 16 のベタインキを含むことができます。

G7 グレーバランス

G7 ジョブ機能は、 $w\Delta L$ （加重 ΔL ）および $w\Delta Ch$ （加重 ΔCh ）を、ブラック濃度と共に提供します。グレーバランス基準に近づくための、チャンネル各版の濃度調整が下部に表示されます。

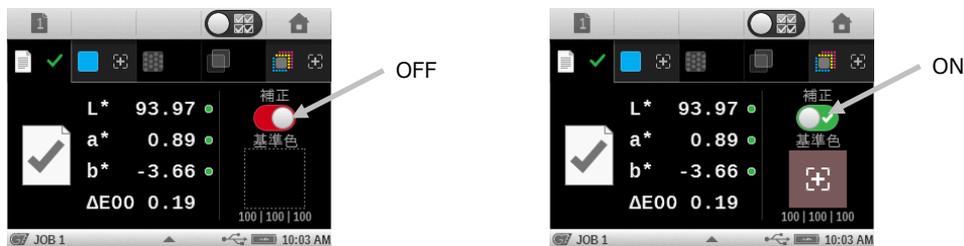
G7 用紙の補正

この機能は用紙の測定に基づいて、プロセスカラーに関連するターゲット値（CMYK）を調整します。[ジョブツール] で ON に設定されている場合、用紙の測定値が定義された ΔE 範囲から外れるとメッセージが表示され、ターゲット値を調整するオプションが表示されます。調整された値は青色で表示されます。



基材の補正機能は、G7 ジョブに対する用紙測定の終了後に有効に設定することができます。

補正アイコンをタップして ON にします。



パッチ認識

用紙の測定に続けてベタパッチ測定を行ってください。最適なパッチ認識を行うために、用紙測定に続いてベタパッチを最初に測定する必要があります。パッチ認識に関する詳細は、「トラブルシューティング」セクションをご覧ください。

JapanColor、G7、PSO ツール

これらのツールは一般的な [ジョブツール] と同じ機能ですが、次の点が異なります。

これらのツールの設定は、各地域のプロセス印刷仕様の定義を使用してあらかじめ基準値や許容値、測定項目が設定されていますが、設定は手動で変更することができます。

他のツールと異なる点は、[既定のツール設定を復元]により、ツールを現在のユーザープロファイルの設定ではなく元の設定に戻すことです。

これらのプロセスに定義されたジョブテンプレートのみが表記されます。（ジョブテンプレートが G7 として定義されると、G7 ツールのみに表示されます。）

次の機能は事前に設定されており、変更できません。

G7 ジョブ

用紙品質管理：色空間 CIE L*a*b*は CIE L*a*b*にプリセットされています。

グレーバランス品質管理：表示は ΔL^* 、 ΔE^* 、 ΔCh にプリセットされています。

ドットゲインテーブルの設定：スプレッドは [全て] にプリセットされています。

PSO ジョブ

用紙品質管理：色空間 CIE L*a*b*は CIE L*C*h°にプリセットされています。

グレーバランス品質管理：表示は ΔL^* 、 Δa^* 、 Δb^* 、 ΔE^* にプリセットされています。

ドットゲインテーブルの設定：スプレッドは [中間] にプリセットされています。

JapanColor ジョブ

用紙品質管理：色空間 CIE L*a*b*は CIE L*a*b*にプリセットされています。

ドットゲインテーブルの設定：スプレッドは [中間] にプリセットされています。

ジョブパラメーターの確認／編集

通常、ジョブの機能と設定は、装置にダウンロードされたジョブツールに設定されています。

1. [オールビュー] のメニューから [ジョブ] ツールのアイコン  を押し下げ、ツールの編集スクリーンに進みます。

注記： ツールの設定は、対象となるツールが選択されている際に、ステータスバーの三角アイコンをタップしてアクセスします。



または



2. [機能の選択] ボタンをタップし、測定に使用可能な機能を確認・編集します。
3. スクリーンを左または右にスワイプし、異なるパッチタイプの機能リスト（用紙、ベタ、アミ点、オーバープリント、グレーバランス）にアクセスします。
4. 選択されたパッチに対し機能を有効にするには、空のチェックボックスをタップしてチェックマークを入れてください。機能を無効にするには、チェックボックスをタップしてチェックマークを外してください。画面を上下にスワイプし、他の機能を表示します。全機能に関する詳細は、本書前半の「測定機能」セクションをご参照ください。「ジョブ専用」機能に関する詳細は、本書後半の「その他のジョブ機能」セクションをご参照ください。



5. [戻る] のボタンをタップし、[機能の選択] を終了します。
6. [設定] ボタンをタップして、必要に応じて各設定を編集します。全設定の詳細は、本書前半の「測定ツールの設定」セクションをご参照ください。

サンプルの保存

作成されたジョブ名を使用し [ジョブ] ツールで実行された測定データは、現在のシート番号に保存されます。保存されたサンプルは iQC Print ソフトウェアにアップロードされ、分析されます。また、サンプルは iQC Print アプリケーションから削除されるまでジョブに保存されます。

現在のシート番号は、操作バーのシート管理ボタン上に表示されます。測定された全てのサンプルは、シートがクリアまたは新規シートが開始されるまで、現在指定されているシートに保存されます。

現在のシート番号および
保存されているサンプル



新規シートボタン：シート番号は 1 つずつ順番になっており、以前のシートにすでに保存されていたサンプルは全て保存されます。新規シートでは、パッチを再測定する必要があります。

OK シートを作成：現在のシートから OK シートを作成します。

すべてのサンプルを削除：現在のシートに保存されているサンプルを全て永久的に削除し、ジョブモードを測定がまだ実行されていない状態に戻します。(用紙パッチを再度測定する必要があります。)

その他のジョブオプション

パッチアイコン

このアイコンは、異なるパッチタイプを選択できるスクリーンにアクセスします。選択されたパッチに対し実行された最後の測定値が表示されます。

必要に応じて [詳細表示] 画面に変更し、[パッチ] アイコンをタップして異なるパッチタイプを手動で切り替えます。

注記： ステータスバーのアイコン表示は、使用中のパッチタイプによって変わります。



使用可能なパッチタイプ：

用紙：基材、非印刷パッチ

ベタ：100%で印刷された単一インキ色

2次色：100%ベタで2つのインキが重なって印刷されたパッチ。インキ刷り順により、最初に印刷されるインキが決まります。

アミ点：単一インキで印刷されたスクリーン諧調色

グレーバランス：グレーバランスを再現するため（またはニュートラル印刷濃度パッチ = 墨のアミ点にマッチさせるため）にC、M、Yプロセスインキを異なるアミ点%で印刷したパッチ

アイコン：機能 

ジョブで有効となっている全ての機能は、このスクリーンに表示されます。この機能により、メイン測定スクリーンで機能リストをスワイプせずに各機能を直接選択することが可能になります。

必要に応じて [詳細表示] 画面に変更し、[機能] アイコンをタップして [機能を選択] 画面にアクセスします。パッチに対する選択機能が表示されます。



カラーアイコン 

このアイコンは、次の測定値に割り当てられるパッチタイプを選択します。

必要に応じて [詳細表示] 画面に変更し、[カラー] アイコンをタップして [オートパッチ] を選択するか、またはパッチを手動選択します。

オートパッチ：これが選択されると、自動パッチ認識が次の測定に対して有効になります。

マニュアル選択：パッチタイプがリストからマニュアル選択されると、次の測定値が選択されたパッチタイプに割り当てられます。パッチが選択されると、[オートパッチ] のチェックボックスは自動的に無効になります。オートパッチが一旦 OFF になると、チェックボックスが再度選択されるまで OFF の状態が維持されます。



パッチアイコンの変更

このアイコンは、最後のサンプル測定値を別のパッチに移動できるパッチの変更スクリーンにアクセスします。

必要に応じて [詳細表示] 画面に変更し、希望するパッチが選択されていない場合は、[パッチの変更] アイコンをタップしてください。他のパッチ選択肢がリストに表示されます。チェックボックスで新しい選択を承認するか、アイコンをゴミ箱に捨て最後の測定値を完全に削除します。異なるパッチが選択されると、最後のサンプルを移動します。最初に検出されたパッチの前回の測定値は、最後の測定値前のものに復元されます。

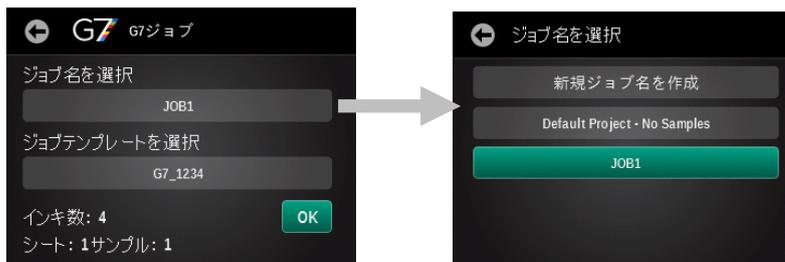


ジョブの実行

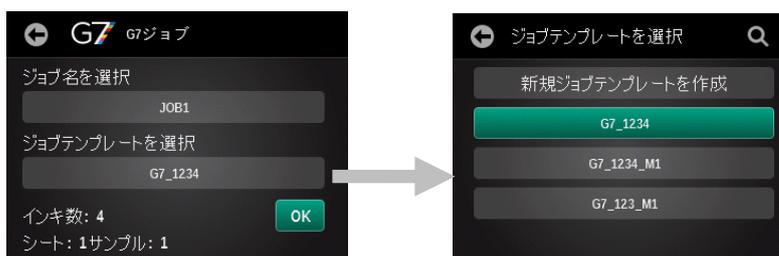
操作およびワークフローは、全てのジョブツールとほぼ同じです。下記は G7 ジョブの操作手順例です。

1. [オールビュー] メニューから、[ジョブ] ツールアイコン  をタップします。
2. [ジョブ名を選択] をタップし、既存のジョブ名を選択するか新しいジョブ名を作成します。新しいジョブ名を作成するには、[新規ジョブ名を作成] をタップし、新しい名前を入力します。ジョブ名を選択するとサンプルが保存され、ジョブが一旦開始された後は無効に設定できません。

注記： [既定のジョブ - サンプル無し] が選択されている場合、サンプルはジョブに保存されません。このジョブ名を使用してジョブを開始した後は、サンプルの保存機能を ON にできません。



3. [ジョブテンプレートを選択] ボタンをタップし、リストからジョブテンプレートを選択するか、または検索アイコンをタップし名前を入力します。ジョブテンプレートを新規作成することも可能です。ジョブテンプレートを作成するには、[新規ジョブテンプレートを作成] ボタンをタップしてください。詳しくは本書後半の「テンプレートツール」セクションを参照してください。



4. [OK] ボタンをタップし選択画面を終了し、測定画面に進みます。



5. 基材（用紙）を測定します。



6. ここに表示されている測定値は、用紙の測定値が用紙に設定された許容値境界にあることを表します。

G7 ジョブ専用： 必要に応じて、用紙／基材の測定後に 100、100、100 CMY パッチを測定します。これは、用紙補正機能を [ダイナミック G7 用紙補正] または [スタンダード G7 用紙補正] に自動的にセットします。

また [補正] アイコンをタップして基材補正オプションを ON にし、100、100、100 CMY パッチを測定することも可能です。



7. ジョブの最初のベタパッチを測定します（黄色のベタ図例参照）。緑のチェックマークは、ベタパッチが許容範囲内にあることを表します。黄色のチェックマークは、ベタパッチが許容値境界にあることを表します。赤のチェックマークは、ベタパッチが許容値範囲外にあることを表します。白のチェックマークは、測定されたベタパッチに許容値範囲が設定されていないことを表します。スクリーン上部から切り替えアイコンをタップし、追加情報を表示します。



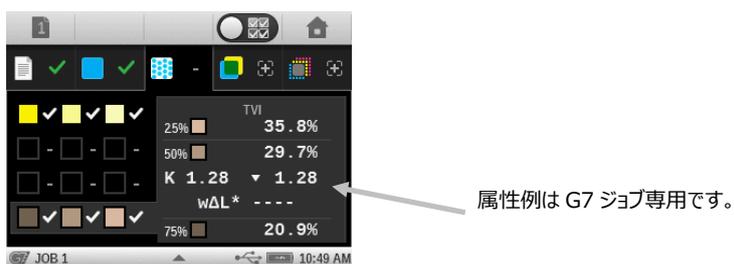
8. 残りのベタパッチを測定します。
9. 選択されたジョブの定義に応じて、アミ点、オーバープリント、グレーバランスパッチの測定を続行します。スクリーン上部から切り替えアイコンをタップし、追加情報を表示します。

パッチ例：

イエロー75%、50%、25%アミ点パッチ



ブラック 75%アミ点パッチ



M/C オーバープリントパッチ

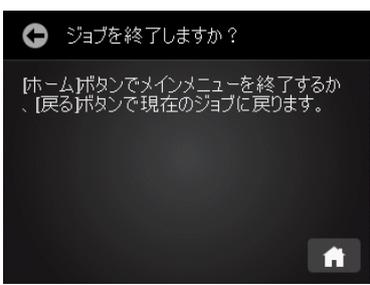


10. [シート] アイコン  をタップしシートを新規作成するか、または既存のシートを消去します。

11. 終了後、ホームアイコン  をタップしてジョブを終了します。

注記： ジョブを終了し後日続行する場合は、現在のシートに作成されたジョブ名を使用し測定されたサンプルが全て自動的に復元されます。

12. ホームボタンを再度タップしジョブを終了するか、[戻る] ボタンをタップしてジョブに戻ります。



オールビューの追加ツール

[ツールを追加] は、現在のメニューに新しい測定ツールを追加します。新規ツールは必要に応じて設定することができます。メインメインスクリーン 2 および 3 には、6 個までのツールを表示することができます。メインメニュースクリーン 1 には、測定ツールを追加することができません。

ツールの作成

作成されたツールは、デフォルト機能およびツールタイプに定義されている名前が付けられます。設定は、現在のユーザープロファイルのデフォルト設定を使用します。

注記：一度作成されたツールは、ユーザープロファイル設定を変更しても影響されません。

1. ツールを追加する [オールビュー] メニュー画面を選択してください。
2. [ツールを追加] アイコン  をタップし、[新規ツールを追加] スクリーンにアクセスします。



3. メインメニューに追加するツールアイコンをタップします。
4. ツールを設定します。

その他のツールオプション

ツールの設定画面が表示されるまで、メインメニューのツールアイコンをタップしホールドします。



削除

メインメニュー画面から選択されたツールを削除します。

コピー

選択されたツールが、次の空のツールスロット（メニューごとに 6 つまでのスロット）にコピーされます。新規ツールは、現在のツールと同じ名前、機能リスト、設定を保持します。プロファイルのデフォルト設定からやり直さない場合は、これを使用してください。

移動

選択されたツールをメインメニューページの反対側に移動します。ツールが現在メニュー 2 にある場合は、メニュー 3 の空いているスロットに移動します。メインメニューのツール配置は自動的に決定されます。一方、eXact Manager ソフトウェアを使用すると、ツールの配置を変更できます。



ユーザー設定ツール

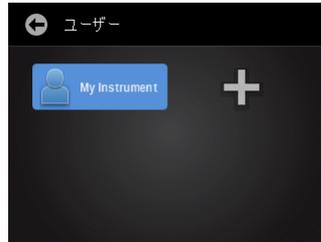
ユーザーツールでは、**eXact** をユーザー別に設定することが可能です。新規ユーザーを作成し、ユーザー名、パスワード、セキュリティの設定を削除または編集することができます。

ユーザー定義の設定により、使用する機能を限定したり、独自の設定で装置を使用したりすることができます。多数のユーザーが **eXact** を使用する場合は、ユーザー別に設定することができます。

注記 : **eXact Manager** アプリケーションで複数のユーザーを作成し、装置にアップロードすることも可能です。

新規ユーザーを作成

1. メイン画面から [設定] アイコン  をタップし、[ユーザー] ツールアイコン  をタップすると [ユーザー] 画面にアクセスできます。
2. [追加] アイコン  をクリックし、新規ユーザーを作成します。[追加] アイコンで作成された新しいユーザープロフィールは、装置に設定されている現在の地域のデフォルト設定およびツールを使用します。



3. 新規ユーザープロフィールに名前を入力してください。終了後 [OK] をタップします。



4. 他のユーザーを追加するか、または [ユーザーを編集] に進み、各ユーザープロフィールに対するパラメータを設定します。

ユーザーを編集

1. メインメニューから [ユーザー] アイコンをタップし、ユーザー名、パスワード、設定などのパラメータを編集します。
2. アカウント画面が表示されるまで、[ユーザー] スクリーンの対象ユーザーを押し下げます。



注記：ユーザーアカウントのパスワードはオプションです。選択されているユーザーにパスワード保護が設定されている場合、ユーザーアカウントにアクセスする前にパスワードを入力する必要があります。パスワードを忘れた場合、eXact Manager アプリケーションでリセット、検索または消去することが可能です。

全ユーザーには、パラメータを個別に設定または編集するアカウントスクリーンがあります。アカウント画面の情報は下記をご参照ください。



個人の設定

1. [アカウント] アイコンボタンをタップし、さまざまな色のアイコンが表示されるスクリーンにアクセスします。選択されたアイコン色が、そのユーザーに割り当てられます。
2. [名前] ボタンをタップし、ユーザー名を変更するクリーンにアクセスします。
3. [パスワード] ボタンをタップし、ログオン時のパスワードを変更するスクリーンにアクセスします。
4. [セキュリティ] ボタンをタップし、セキュリティの設定画面にアクセスします。ここでは、現在のユーザーアカウントのセキュリティレベルを変更することができます。ユーザーアカウントにセキュリティが有効に設定されている場合は、パスワード（ユーザーのログオンパスワードとは異なります）を入力して一時的にセキュリティを無効に設定しない限り、変更できない項目（下記にレベル別に表記）があります。



- **高**：このユーザーアカウントの設定は変更できません。このユーザーはジョブを実行し、測定を行うことができます。一方、ツールの設定を変更したり、他のユーザーアカウントの設定を編集したりすることはできません。
- **低**：ユーザーは、現在のユーザープロフィールに影響する設定のみを変更することができます。工場出荷状態に戻したり、現在のユーザープロフィールを消去、地域設定を変更、または他のユーザープロフィールを作成／削除したりすることはできません。
- **OFF**：セキュリティが有効に設定されていません。
- **セキュリティパスワード**：装置は、全てのユーザープロフィールに共通するセキュリティパスワードを使用します。このパスワードは、eXact Manager から変更可能です。装置のパスワードは、ユーザープロフィールをロードするためにログオン時のみに使用されます。
- 現在のユーザープロフィールにセキュリティが有効に設定されている際は、ステータスバーにロックアイコンが表示されます。ロックされているのは、セキュリティパスワードを入力してセキュリティが一時的に無効に設定されていないためです。セキュリティがユーザーにより一時的に無効になっている場合は（ロック解除アイコン）、このユーザープロフィールに再度ログオンするか装置の電源を入れ直すと、再度ロックが有効に設定されます。

ユーザー名を変更

[ユーザーを変更] ボタンをタップし、ユーザー名を変更するスクリーンにアクセスします。

削除

[削除] アイコンは、選択されているユーザーを [ユーザー] メニュー画面から削除します。

注記：最後のユーザーアカウントプロフィールが削除されると、新規プロフィールが代わりに作成され、現在の地域の設定に既定となる設定に戻ります。装置には常に 1 つのプロファイルが残ります。

コピー

[コピー] アイコンは、現在のユーザーのコピーを作成します。コピーは、同じ名前 + 数字で [ユーザー] メニュー画面に追加されます。

個人設定ツールの設定

このツールは、選択されているユーザーに対し、初期設定設定をカスタマイズします。これらの設定は、新規ツールが作成される際に既定値として使用されます。

注記：設定は、eXact Manager アプリケーションで編集し、eXact 装置にアップロードすることも可能です。

メイン画面から [設定] アイコン  をタップし、[個人設定] ツールのアイコン  をタップすると設定画面にアクセスできます。



注記：eXact アドバンス装置では、設定を変更する前に、ユーザーが正しく選択されていることを確認してください。

eXact アドバンス装置でユーザーを選択する方法は 2 つあります。

- [ユーザー] ツールに進み、ユーザーアイコンをタップします。または、
- メイン画面のステータスバー下部から三角アイコンをタップし、[ログアウト] ボタンを選択します。次に対象ユーザーをタップします。



または



デフォルト設定は、ログオンされているユーザーに対して編集することができます。ユーザー別のデフォルト設定画面の情報は下記をご参照ください。

アカウント

アイコン、名前、パスワード、セキュリティ設定を編集します。これらのオプションに関する詳細は、前のセクションから「アカウントの設定」をご参照ください。

言語

機器に表示される使用言語を設定します。言語：日本語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語、簡体中国語、繁体中国語。

左側のスクロールバーは、他に選択可能な言語があることを表します。画面を上へスワイプし、他の言語を表示します。

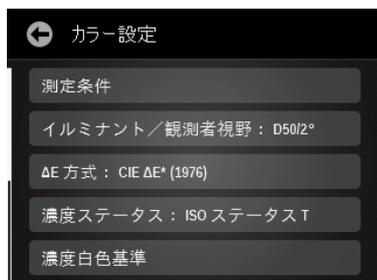
言語を変更後（[戻る] ボタンをタップ）、装置は自動的にメインメニューに戻り、スクリーンに表示されるテキストが全て更新されます。

カラー設定

このツールは、選択されているユーザーに対して新規に作成されたツールに適用されます。設定への変更は、すでに作成されているツールの設定を変更しません。

注記： ツールは、これらのデフォルトに表記されている全ての設定を使用するわけではありません。ツールがここに表記される設定を使用しない場合は、それらの項目はツールの設定を編集する際に表示されません。

左側のスクロールバーは、他に使用可能なオプションがあることを表します。画面を上へスワイプし、他のオプションを表示します。



[カラー設定] オプションに関する詳細は、本書前半の「カラー設定」セクションをご参照ください。

機能設定

このオプションは、選択されているユーザーに対するデフォルト機能を設定します。これらのデフォルト機能設定は、新規の作成される全てのツールに使用されます。設定への変更は、すでに作成されているツールの設定を変更しません。

注記： ツールは、これらのデフォルトに表記されている全ての設定を使用するわけではありません。ツールがここに表記される設定を使用しない場合は、それらの項目はツールの設定を編集する際に表示されません。

左側のスクロールバーは、他に使用可能なオプションがあることを表します。画面を上へスワイプし、全てのオプションを表示します。



[機能設定] オプションに関する詳細は、本書前半の「測定機能」セクションをご参照ください。

装置

このオプションは、選択されているユーザーに対する装置の設定を行います。



ビープ音の音量 : ビープ音の音量を設定します。

オプション : Off、低、高

電源オプション : 装置の未使用時に、スクリーンを ON に維持する時間を設定します。アイコンを左にドラッグすると表示時間が長くなり、右にすると表示時間が短くなります。スケールは 1 分から 3 時間までです。

注記 : 1 分に設定された場合、電源ボタンを押して装置を起動する必要があります。AC アダプターで接続されている場合も同じです。

スリープモードからの再起動

- **バッテリーのみの操作** : 電源ボタンを押して装置を起動してください。
- **AC とバッテリーによる操作** : スクリーンをタップし、装置を起動してください。
- **AC のみの操作** : スクリーンをタップし、装置を起動してください。

スクリーン方向 : 右利き・左利き使用を設定します。

オプション : 左、右

Bluetooth : Bluetooth を ON または OFF にします。設定手順は、付録の「Bluetooth のインストール」セクションをご参照ください。

注記 : このオプションは、装置に Bluetooth が備わっている場合のみに表示されます。

M1 パート 2 の書き出し : この機能が ON になっていると、M1 パート 2 のサンプルデータを eXact Manager などのソフトウェアに書き出できるようになります。既定では OFF に設定されています。

ジョブテンプレートツールの設定

ジョブテンプレートは、印刷作業で使用するグループ化された基準色のコレクションです。ジョブテンプレートツールはジョブテンプレートを作成、編集、コピー、削除します。

ジョブテンプレートは許容値、測定パラメーター、それぞれのパッチタイプ（用紙、ベタ、アミ点、オーバープリント、グレーバランス）の基準値を含みます。

ジョブテンプレートには、JapanColor、G7、PSO などの業界標準の印刷スタンダードを登録することも可能です。

ジョブテンプレートは作成後、装置のジョブを定義する際に選択します。ジョブテンプレートは eXact Manager アプリケーションにダウンロードすることもできます。

平均値の測定はジョブテンプレートの作成にも使用できます。平均値の測定は、ユーザープロファイルの [平均] に基づいています。

メイン画面から [設定] アイコン  をタップし、[ジョブテンプレート] ツールのアイコン  をタップすると、[ジョブテンプレート] 画面にアクセスできます。



注記： テンプレートは、eXact Manager アプリケーションで作成／編集し、eXact 装置にアップロードすることも可能です。

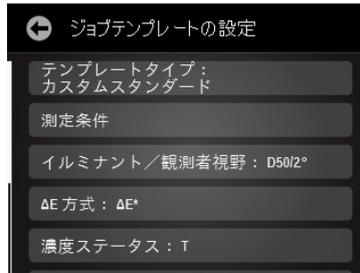
ジョブテンプレートの作成

- [+] 記号のアイコン  をタップし、[ジョブテンプレートを編集] のスクリーンを選択してください。
- テンプレート名を入力および [OK] ボタンをタップし、[ジョブテンプレートを編集] スクリーンに進みます。



ジョブテンプレートの設定

このオプションは、現在のジョブテンプレートに使用する共通の設定を定義します。左側のスクロールバーは、他に使用可能なオプションがあることを表します。



テンプレートタイプ

ジョブに作成されたテンプレートのタイプを選択します。オプション：カスタム、PSO、G7、Japan Color

測定条件

色彩および濃度機能に対する測定条件を選択します。オプション：M0(No) – フィルターなし、M1(D50)、M2(UVC) – UV カットフィルター、M3(Pol) – 偏光フィルター（eXact Xp は M3 を除く）

イルミナント/オブザーバー

イルミナント（観察照明）/オブザーバー（観測者視野角）を選択します。

ΔE 方式

ΔE 色差式を選択します。オプション：CIE ΔE*（1976）、ΔECMC、CIE ΔE*（2000）、CIE ΔE*（1994）

濃度ステータス

濃度ステータスを選択します。オプション：ステータス A、E、I、T、G

濃度白色基準

用紙基準(pap)または絶対基準(abs)の条件を設定します。[用紙] を白色ベースとして選択した場合、測定は印刷インキレイヤーのみを参照し、用紙色の影響は含まれません。[絶対] を選択した場合、測定には印刷インキレイヤーに加えて用紙の影響が含まれます。

アミ点パッチ %

アミ点測定に 3 つまでのアミ点パッチ%を設定します。

グレーバランスパッチ%

グレーバランスのパッチ測定に 3 つまでのアミ点パッチ%を設定します。

既定許容値

許容値タイプおよび既定許容値を設定します。オプション：なし、 $\Delta L^*a^*b^*$ 、 $\Delta L^*C^*H^*$ 、現在の ΔE 方式、Δ濃度。各カラーパッチには、特定の許容値タイプと規定許容値を適用することができます。詳しくは本書後半の「許容値の編集」セクションをご参照ください。

設定をセットするには、

1. [設定] アイコン  をタップし、[ジョブテンプレートの設定] のスクリーンにアクセスします。
2. 対象ボタンをタップし、必要に応じて設定を表示/編集します。
3. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[ジョブテンプレートを編集] のスクリーンに戻ります。

自動検出機能を使用し、用紙および CMYK パッチを定義するには

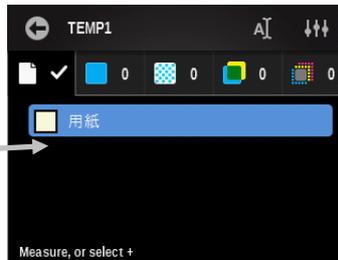
用紙、CMYK ベタ/アミ点パッチ、オーバープリント、グレーバランスパッチは、[ジョブテンプレートを編集] のメインスクリーンから測定します。装置はプロセスカラーの測定パッチを自動検出し、適した名前を付けます。必要となるスポットカラーまたは CMYK パッチは、[パッチを編集] スクリーンで実行します。プラス記号のアイコン「+」はプロセスベタを追加しますが、カラー属性の既定としてスポットが最初に選択されています。詳しくは次のセクションをご参照ください。

パッチがまだ測定されていないことを表すアイコン



1. [ジョブテンプレートを編集] のメインスクリーンから用紙を測定します。測定後、用紙パッチが表示されます。

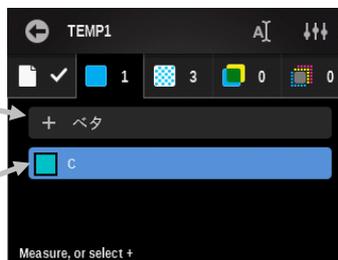
測定された用紙パッチ



2. [ジョブテンプレートを編集] のメインスクリーンから最初のベタパッチを測定します。測定後、ベタパッチが表示されます。

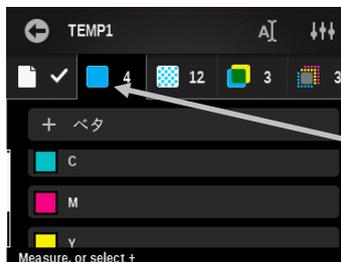
プラス記号 (+) のアイコンは、プロセスベタやスポットカラーを追加するパッチ編集スクリーンにアクセスします。

測定されたベタパッチ



3. これで、残りのプロセスベタのパッチを測定、または測定したばかりのベタパッチに対応したアミ点パッチを測定できるようになります。この例では、残り3つのプロセスベタを最初に測定しています。スクリーンを上へスワイプすると、測定されたプロセスカラーが表示されます。

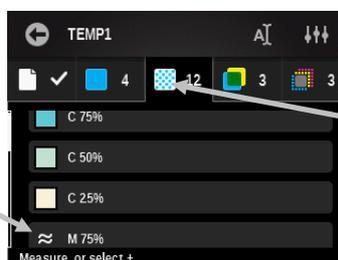
測定されたパッチ数



4. 測定されたプロセスカラーに関連したアミ点の定義は、どんな順番でも測定可能です。装置は測定されたアミ点を自動検出します。この例では、25%、50%、75%が設定されており、3つのシアンのアミ点が最初に測定されます。スクリーンをスワイプし、測定されたアミ点を表示します。

必要なアミ点測定数

アミ点はまだ測定されていないことを表すアイコン



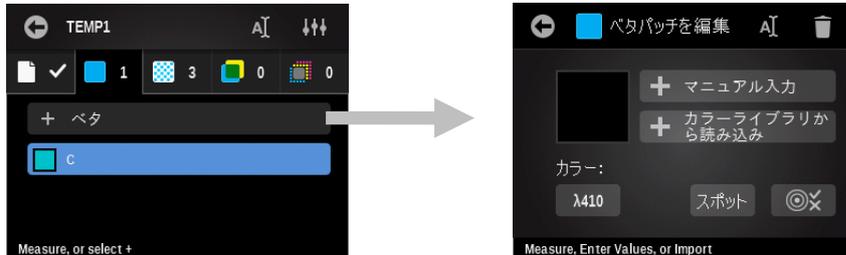
5. 残りのアミ点パッチを測定します。
6. 必要に応じてオーバープリントパッチを測定します。
7. 必要に応じてグレーバランスパッチを測定します。
8. スポットカラーが必要な場合は、次の手順をご参照ください。

注記：測定後にいずれかのパッチアイコンをタップすると、そのパッチに対する編集スクリーンが表示されます。編集スクリーンでは、そのパッチの様々な属性を編集することができます。詳しくは、本書後半の「ジョブテンプレート編集するには」をご参照ください。

スポットカラーを作成するには

スポットカラーをテンプレートに追加することができます。スポットカラーを追加するには次の手順をご参照ください。

1. メインテンプレートのスクリーンから、[+ベタ] ボタンをタップし、[ベタパッチを編集] にアクセスします。



2. 名前アイコン  をタップし、パッチ名を入力します。終了後 [OK] をタップします。
3. スポットカラーを測定するか、カラーライブラリーからカラーを読み込むか、カラー値をマニュアル入力します。パッチを測定またはカラーライブラリーから基準色を読み込む場合は、波長が自動的に更新されます。(反射情報がある場合) マニュアル入力およびカラーの読み込み手順は、次のページをご参照ください。
4. スポットカラーは、最初に設定された際の波長と共に表示されます。スポットカラーの波長をマニュアル選択する場合は、波長ボタンをタップしてください。

5. 既定値以外の許容値が必要な際は、許容値アイコン  をタップし値を編集してください。許容値の編集手順は次のページをご参照ください。

注記：作成されたパッチを削除するには、[削除] アイコン  をタップし、削除を確認してください。ベタパッチを削除すると、ジョブテンプレート内でインキを共有するその他の関連パッチも削除されます。ベタパッチがテンプレートに再度追加された場合、削除されたパッチは再度作成されます。

6. スポットカラーが終了すれば、[戻る] のアイコン  をタップしてください。

マニュアル入力を行うには

1. [マニュアル入力] ボタンをタップし、マニュアル入力のスクリーンを表示します。



2. [L*a*b*/L*C*h°/CMYK] ボタンをタップし、編集する属性を表示します。
3. 属性ボタンをタップし、必要な値を入力してください。終了後 [OK] をタップします。
4. 属性ボタンをタップし、必要な値を入力してください。終了後 [OK] をタップします。
5. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[パッチを編集] のスクリーンに戻ります。

カラーライブラリーからカラーを読み込むには

1. [カラーライブラリーから読み込む] をタップし、読み込み画面にアクセスします。



2. ライブラリーからカラーを選択してください。色を選択するには、検索アイコンをタップして名前／番号を入力する、または分類アイコンをタップしてクラシック表示または ΔE 分類方法を選択して色を検索します。

クラシック表示では、現在のライブラリーのカラーが、装置にロードされた順番に表示されます。スクロールバーを上下にスワイプリストを参照します。

この時点で測色が実行されカラーが検索された場合、スクリーンは自動的に ΔE 表示に変更します。 ΔE 表示は、現在のサンプルに最も近い Δ 値の色を順番に表示します。

3. リストからカラーをタップし、チェックマーク  をタップして保存し、[パッチを編集] スクリーンに戻ります。

許容値を編集するには

このオプションは、選択されたパッチに設定されている許容値タイプおよび許容値を編集します。

オプション：なし、 $\Delta L^*a^*b^*$ 、 $\Delta L^*C^*H^*$ 、現在の ΔE 方式

1. 許容値アイコン  をタップし、[許容値を編集] スクリーンを開きます。



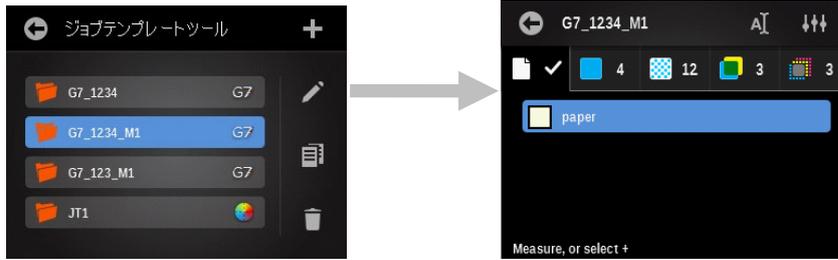
2. 許容値タイプのボタンをタップし、なし、 $\Delta L^*a^*b^*$ 、 $\Delta L^*C^*H^*$ 、現在の ΔE 方式または Δ 濃度を選択します。
3. 最初の許容値ボタンをタップし、必要な値を入力してください。終了後 [OK] をタップします。
4. 残りの許容値を編集します。
5. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[パッチを編集] のスクリーンに戻ります。

ジョブテンプレートの編集

編集アイコンは、選択されたジョブテンプレートを編集します。既存テンプレートの設定に対するいずれの変更も新規パッチのみで、既存のパッチには適用されません。

注記： ジョブテンプレートの編集手順は、新規ジョブテンプレートの作成手順に似ています。ステップ 2 から 5 までの手順は、本書前半の「ジョブテンプレートを作成するには」のセクションをご参照ください。

1. 編集するテンプレートをタップした後、編集アイコン  をタップし、編集画面にアクセスします。

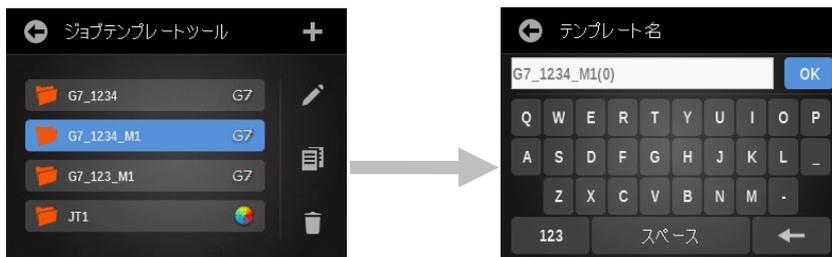


2. 名前アイコン  をタップし、名前を編集します。
3. パッチアイコンをタップし、パッチを編集します。
4. [+ベタ] ボタンをタップし、新規パッチを追加します。
5. 設定アイコン  をタップし、ジョブテンプレートの変更をします。
6. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[ジョブテンプレートツール] 画面に戻ります。

ジョブテンプレートをコピーするには

[コピー] アイコンは、選択されたジョブテンプレートのコピーを作成します。

1. コピーするテンプレートをタップした後、[コピー] アイコン  をタップし、[ジョブテンプレート名を設定] 画面にアクセスします。



2. フィールドに新しい名前を入力し [OK] をタップします。新規作成した名前が [ジョブテンプレートツール] リストに表示されます。
3. 必要に応じて、コピーしたテンプレートを編集します。

ジョブテンプレートを削除するには

[削除] アイコンは、選択されているジョブテンプレートを装置から削除します。

1. 削除するテンプレートをタップした後、[削除] アイコン  をタップし、[ジョブテンプレートを削除] のスクリーンにアクセスします。



2. [確認] ボタンをタップし、テンプレートを削除します。

カラーライブラリツールの設定



カラーライブラリは、装置で作成された基準色のコレクションです。

作成された基準色は、サンプルと比較するためにカラーライブラリから検索・選択可能となります。

メイン画面から [設定] アイコン  をタップし、[カラーライブラリツール] アイコン  をタップし、[カラーライブラリ] にアクセスします。



注記： カラーライブラリは、eXact Manager アプリケーションで作成／編集し、eXact 装置にアップロードすることも可能です。

カラーライブラリの作成

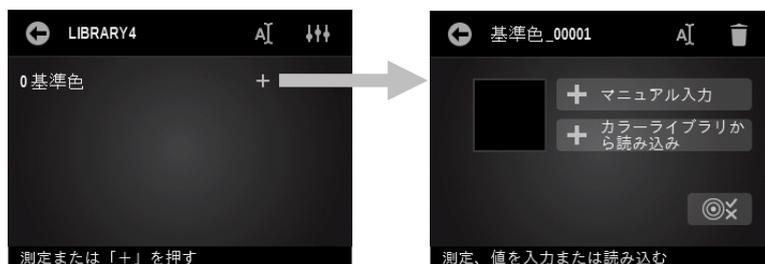
1. プラス記号 [+] のアイコン  をタップし、ライブラリ名の画面にアクセスします。
2. ライブラリ名を入力した後 [OK] ボタンをタップし、ライブラリのメイン画面にアクセスします。



基準色を作成するには

1. プラス記号 [+] のアイコン  をタップし、基準色の作成画面にアクセスします。

注記： [設定] アイコン  をタップし、現在のライブラリに対するオプションを設定する [カラーライブラリの設定] にアクセスします。詳細は、次のセクション「カラーライブラリの設定」を参照してください。



2. 必要に応じて、名前アイコン  をタップし、基準色名を入力します。終了後 [OK] をタップします。装置によって自動的に、1 つずつ増加する数字が基準色に割り当てられます。

3. 基準色を測定するか、カラーライブラリーからカラーを読み込むか、カラー値をマニュアル入力します。マニュアル入力およびカラーの読み込み手順は、次のページをご参照ください。

4. 既定値以外の許容値が必要な際は、許容値アイコン  をタップし値を編集してください。許容値の編集手順は次のページをご参照ください。

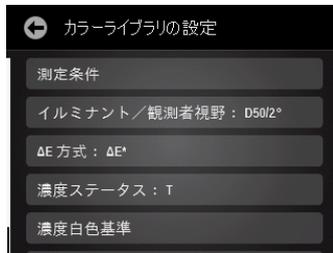
注記：作成された基準色を削除するには、[削除] アイコン  をタップし、削除を確認してください。基準色を削除すると、リンクされているサンプルもすべて削除されます。

5. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップします。

6. 手順 1 および 5 を繰り返し、基準色を追加します。

カラーライブラリの設定

このオプションは、現在のカラーライブラリに対する設定を定義します。左側のスクロールバーは、他に使用可能なオプションがあることを表します。



測定条件

色彩および濃度機能に対する測定条件を選択します。オプション：M0 (No) - フィルターなし、M1 (D50)、M2 (UVC) - UVカットフィルター、M3 (偏光フィルター) - 偏光フィルター (eXact Xp では M3 を除く)

光源/視野

イルミナント/観測者視野の組み合わせを選択します。

ΔE方式

ΔE 色差式を選択します。オプション：CIE ΔE* (1976)、ΔECMC、CIE ΔE* (2000)、CIE ΔE* (1994)

濃度ステータス

濃度ステータスを選択します。オプション：ステータス A、E、I、T、G

平均測定

平均値の計算に必要な測定数を設定します。

濃度白色基準

用紙基準 (pap) または絶対基準 (abs) の条件を設定します。[用紙] を白色ベースとして選択した場合、測定は印刷インキレイヤーのみを参照し、用紙色の影響は含まれません。印刷されたインキレイヤーの他に、[絶対値] を選択した場合は、用紙の影響も測定値に含まれます。

既定許容値

許容値タイプおよび既定許容値を設定します。オプション：なし、 $\Delta L^*a^*b^*$ 、 $\Delta L^*C^*H^*$ 、現在の ΔE 方式、Δ濃度。各カラーパッチには、特定の許容値タイプと既定許容値を適用することができます。詳しくは本書後半の「許容値の編集」セクションをご参照ください。

設定をセットするには、

1. [設定] アイコン  をタップし、[ジョブテンプレートの設定] のスクリーンにアクセスします。

2. 対象ボタンをタップし、必要に応じて設定を表示／編集します。
3. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[ジョブテンプレートを編集] のスクリーンに戻ります。

マニュアル入力を行うには

1. [マニュアル入力] ボタンをタップし、マニュアル入力のスクリーンを表示します。



2. [L*a*b*/L*C*h°/CMYK] ボタンをタップし、編集する属性を表示します。
3. 属性ボタンをタップし、必要な値を入力してください。終了後 [OK] をタップします。
4. 残りの許容値を編集します。
5. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[パッチを編集] のスクリーンに戻ります。

カラーライブラリからカラーを読み込むには

1. [カラーライブラリから読み込み] をタップし、カラーライブラリを選択します。



2. ライブラリからカラーを選択してください。色を選択するには、検索アイコンをタップして名前／数値を入力します。あるいは分類アイコンをタップし、クラシック表示または ΔE 分類方法を選択して色を検索します。

クラシック表示では、現在のライブラリーのカラーが、装置にロードされた順番に表示されます。スクロールバーを上下にスワイプしリストを参照します。

この時点で測色が実行されカラーが検索された場合、スクリーンは自動的に ΔE 表示に変更します。ΔE 表示に、Δ 値で分類された色が上下に表示されます。

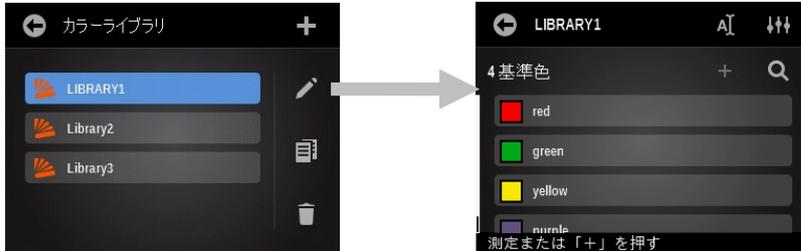
3. リストからカラーをタップし、チェックマーク  をタップして保存し、[パッチを編集] スクリーンに戻ります。

カラーライブラリの編集

[編集] アイコンは、選択されたカラーライブラリを編集します。

注記： カラーライブラリの編集手順は、カラーライブラリの新規作成手順に似ています。ステップ 2 から 5 までの手順は、本書前半のセクション「カラーライブラリの作成」を参照してください。

1. 編集するカラーライブラリをタップした後、[編集] アイコン  をタップし、編集画面にアクセスします。

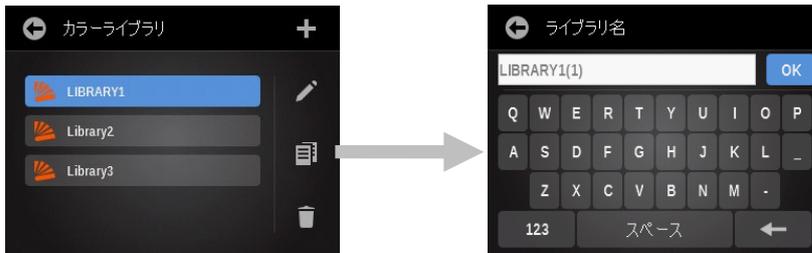


2. 名前アイコン  をタップし、名前を編集します。
3. 基準色ボタンをタップし、基準色を編集します。
4. プラス記号 [+] をタップし、基準色を新規作成します。
5. [設定] アイコン  をタップし、ライブラリの変更を行います。
6. 終了後、[戻る] のアイコン  をタップし、[カラーライブラリ] の画面に戻ります。

カラーライブラリのコピー

[コピー] アイコンは、選択されたカラーライブラリのコピーを作成します。

1. コピーするカラーライブラリをタップした後、[コピー] アイコン  をタップし、[ライブラリ名] にアクセスします。



2. フィールドに新しい名前を入力し [OK] をタップします。新しい名前が [カラーライブラリ] にリスト表示されます。
3. 必要に応じて、コピーしたカラーライブラリを編集します。

カラーライブラリを削除

[削除] アイコンは、選択されているカラーライブラリを装置から削除します。

1. 削除するカラーライブラリをタップした後、[削除] アイコン  をタップし、[カラーライブラリを削除] にアクセスします。



2. [確認] ボタンをタップし、カラーライブラリを削除します。

診断ツールの設定

このツールは、装置のエラーを表示したり、装置の基本情報を表示したりする際に使用します。

メイン画面から [設定] アイコン  をタップし、[診断] ツールアイコン  をタップすると診断画面にアクセスできます。

診断メイン画面には、装置のプロファイルショットを表示する 5 つのボタンがあります。それぞれのボタンには、装置のそれぞれの現在の状態をカラードットで表示します（関連する状態情報がない場合は、線が表示されません）。下記のイメージは、装置の現在の時間および地域の設定を表示しています。画面には、測定条件スイッチの現在の位置も表示されます。



キャリブレーション概要



キャリブレーションのオプションには、現在の測定条件に対するキャリブレーション状況が表示されます。他の測定条件のキャリブレーション状況を表にするには、画面を左にスワイプします。



この画面の [すぐにキャリブレーションを開始] ボタンは、新しいキャリブレーションを手動で開始します。

地域の設定



装置には、新規に作成されるユーザープロファイルのデフォルト設定に影響する設定（ユーザープロファイル以外の設定）が保持されています。地域の設定は、ユーザープロファイル別ではありません。地域の設定には次の設定項目が含まれます。

地域：この設定は全てのデフォルト設定に影響します。（その他の地域設定、デフォルトのカラー設定および機能設定、メインメニューのツールおよび設定も含まれます。）

その他の設定は、地域が変更されるとデフォルトに設定されます。デフォルト設定を使用しない場合は、次の地域設定を上書きすることができます。

- 時間
- 時間形式
- 日付
- 日付書式

装置の概要



装置のタイプ、シリアル番号、ファームウェアバージョン等を表示します。このスクリーンから、工場出荷時の設定を復元することもできます。

重要：復元すると、ユーザープロファイル、設定、ツール、カラーライブラリ、サンプル、ジョブ名、ジョブテンプレートは全て削除されます。装置が再起動されたら、設定ウィザード画面が表示されます。

装置の状態



装置の状態オプションは、システムのセルフ診断を行います。

バッテリーの概要



このオプションは、現在のバッテリーの詳細を表示します。バッテリーの充電状態、電圧、最後の交換された日時などが表示されます。バッテリーの交換時に、日時をリセットするボタンもあります。

スキャンオプション

概要

スキャンオプションでは、スキャンシャーシが装着された eXact 装置でカラーバーを測定することが可能です。スキャンシャーシを取り付けると、スポット/スキャンの両方の測定を行うことができます。

カラーバーの作成・選択手順に関してはソフトウェアをご参照ください。

スキャンシャーシ



パーキングパッド

付属のパーキングパッドは、スキャンシャーシの未使用時に動かないよう保持するために使用します。パーキングパッドは、15°までの角度のテーブル上でスキャンシャーシがスライドするのを防ぎます。



設定

下記の指示に従って、スキャンシャーシを装置に取り付けてください。

重要：

スキャンシャーシのアパーチャーサイズは、装置のアパーチャーサイズと一致する必要があります。

装置をスキャンシャーシに取り付けた後、システムが回転しないよう常に平面にセットされていることを確認してください。テーブル表面（15°まで）にセットする際は、必ずパーキングパッドを使用してください。

1. ターゲットベース底にあるターゲットウィンドウを 180°回転させてください。
2. ターゲットベースの固定ピンをスキャンシャーシの開口部に合わせ、押し下げ固定します。



スキャンシャーシの取り外し

スキャンシャーシの側面にあるリリースボタンを押し、装置を上を持ち上げます。

操作

eXact スキャンのオプションでカラーバーおよびスポットカラーを測定する手順を説明します。

最適な使用法

- カラーバーをスキャンする前に、パッチ上に汚れや欠陥がないかどうかチェックしてください。欠陥があると正しい測定ができません。
- 小さな用紙をスキャンする際、最初と最後のパッチの端に 1 枚余分にセットしてください。これで、装置の高さがスキャン全体において一定に維持されます。
- スキャンシャーシのアパーチャーが、装置のアパーチャー設定と一致していることを確認してください。
- スキャンシャーシには、スキャン速度を監視するタイミングホイールジェネレーターが備わっています。最良の結果を得るためには、装置のスクリーンに白い円が表示された状態を維持して測定してください。この状態でのスキャンが、安定かつ一定したスピードでカラーバーを測定していることを意味します。タイミングホイールジェネレーターは常に清潔に保ってください。清掃手順は「付録」ページをご参照ください。
- 最良の結果を得るためには、最も離れたパッチから測定を開始し、手前に向けて移動してください。この方法により、装置が手前に移動する際にカラーバー上の位置をチェックしやすくなります。
- 本書の付録セクションで推奨されるパッチサイズのカラーバーをご使用ください。
- 測定中は装置を押し下げた状態を維持してください。

スポットカラーの測定

1. 装置の指示に従って、ターゲットウィンドウのアパーチャーを測定対象にセットしてください。スポット測定を行う間もスキャンシャーシは装置に取り付けたままにしておきます。
2. ターゲットベースに向けて装置を押し下げ、測定が完了するまで動かさないでください。



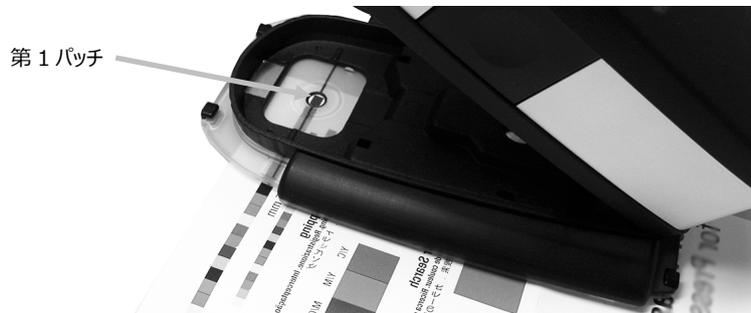
3. 装置を離します。

カラーバーの測定

1. 装置が USB または Bluetooth でコンピュータに接続されていることを確認してください。
2. ソフトウェアから必要な作業を選択します。

注記： [作業リスト] で装置が間違った測定条件モードで使用されるとメッセージが表示されます。（例：ソフトウェアが M1 でカラーバーを測定する際、装置のスイッチが M0/1/2/3 の位置にセットされている。） その場合、[測定条件] スイッチを正しい位置に移動してください。

3. ソフトウェアに用紙測定の指示が表示される場合は、用紙のスポット測定を実行してください。（用紙が変更された場合は、新しい測定を実行する必要があります。）
4. ターゲットウィンドウのアパーチャーをカラーバーの最初のパッチ上にセットします。



5. ターゲットベースに向けて装置を下げ、装置のピーブ音が聞こえるまで、または速度インジケーターがディスプレイに表示されるまで動かさないでください。
6. 装置をスライドしカラーバー全体を停止せずにスキャンしてください。スキャン中は、シャーシの端にある黒のガイドラインを使用し、測定位置を維持します。また、装置のディスプレイでスキャン速度を確認します。（下記参照）



- 最後のパッチの測定が完了したら機器を離してください。
- 作業リストに表示される次のスキャンを続行してください。
- アプリケーションに結果が表示されます。

スキャン速度のインジケータ

下記に表示される円のいずれかが装置のディスプレイに表示され、スキャン速度に対するフィードバックを出力します。円が小さい程速度が遅く、円が大きい程速いことを意味します。白の円は良好な速度を表します。カラーバーの測定が速すぎたり遅すぎたりすると、不正確な測定結果につながります。円が常に白で表示されるよう、安定したスピードを維持してください。



スキャン速度が遅すぎます。(青い円)



スキャン速度が少し遅くなっています。(シアン色の円)



スキャン速度は良好です。(白の円)



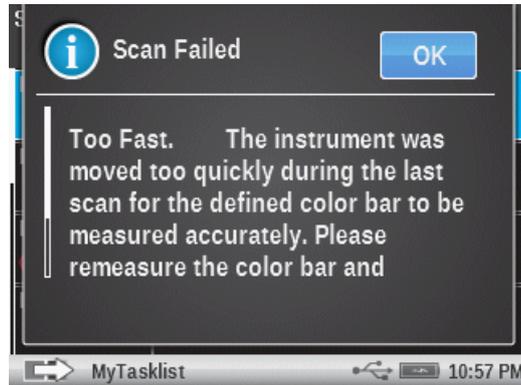
スキャン速度が少し遅くなっています。(マゼンタ色の円)



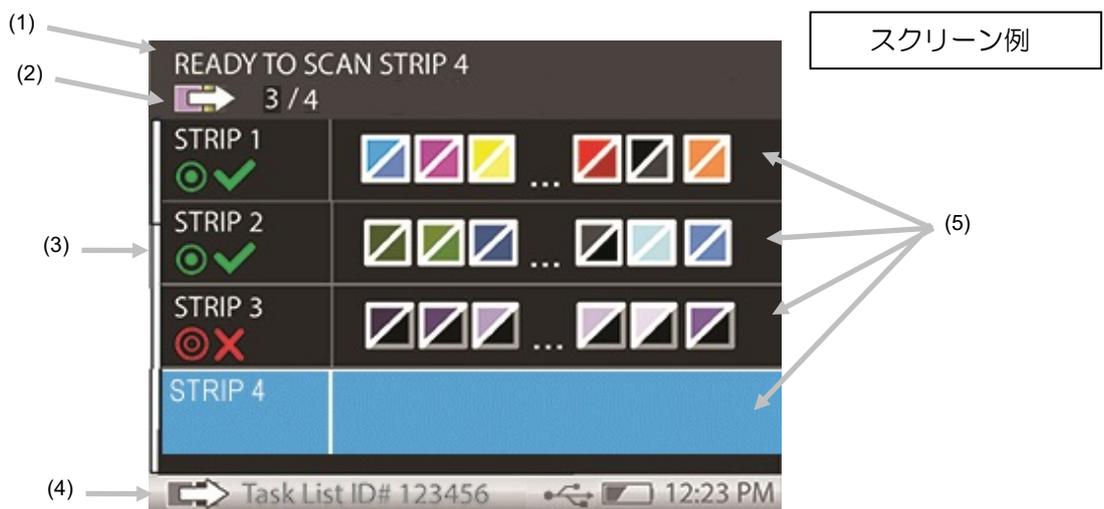
スキャン速度が遅すぎます。(赤い円)

エラーメッセージ例

スキャン中に測定エラーが発生した場合、表示される指示に従ってください。この例では、OK をタップし、カラーバーを再スキャンします。OK をタップすれば、装置が前の画面に戻ります。



装置スクリーンの説明



1. 指示表示： スキャンの作業ステップの情報を提供します。
2. 作業リスト情報： 選択された作業リストにスキャン（例：4 の 3）の詳細を表示します。
3. スクロールバー： 他のカラーバー／パッチがある場合に表示されます。画面を上下にスワイプし、他のカラーバーを作業リストに表示します。
4. ステータスバー： 作業リストの ID 情報、バッテリー状態、時間を表示します。ステータスバーの表示・非表示は選択できません。
5. カラーバー／パッチコントロールの詳細：



各カラーバーやパッチは、識別用に名前（12文字まで）を表示することができます。名前が作成されていない場合は番号が表示されます。名称ラベルは、複数のカラーバーを扱う作業に便利です。カラーバーに6つ以上のパッチがあれば、点「…」で分けられた両端3つずつのパッチが表示されます。ハイライト表示されたストリップは、次に測定されるカラーバーを表します。



カラーバーの測定値が許容値に対する合否判定で合格しています。



カラーバーの測定値が許容値に合否判定で合格範囲にありますが、許容限界近くになっていることを表します。



カラーバーの測定値が許容値に対する合否判定で不合格になっています。



カラーバーの許容ステータスを合否判定なしで表します。



スキャン中に測定エラーが発生したことを表します。例えば、パッチ認識の失敗や間違ったストリップの測定などです。



基準色とサンプルパッチのシミュレーション色を表示します。

基準色パッチ

サンプルパッチ



このパッチは、サンプルが測定されていないことを表します。



このパッチは、基準色が入力されていないことを表します。

調整バー（オプション）

スキャンシャーシの前方および後方にあるバンパーをオプションの調整バーに当てながらすらいどさせることで、スキャンの移動を安定させることができます。調整バーは底部に2つのマグネットが付いており、スキャン中に印刷機のコンソールや色見台に安定させることができます。

次の例では、調整バーを装置の前方バンパーに押し当てるようにスライドさせています。カラーバーの位置が前方バンパーで使用できない場合、後方バンパーの使用も可能です。

調整バーの使用方法：

1. コンソールに印刷シートをセットし、装置のアパーチャーをカラーバーの最初のパッチ中央にセットしてください。
2. 調整バーが前方バンパーに触れる位置でパッチ測定ができるよう調整してください。



3. 装置のアパーチャーをカラーバーの最後のパッチにセットし、調整バーが前方バンパーに触れる位置で調整してください。



4. この調整で、装置が印刷シート上をスキャンする際に、装置のアパーチャーがカラーバー中央を測定できるようになります。



付録

情報

校正証明書の再発行

エクスライト社では、1年に1回、**eXact** 分光測色計に対してメーカーによる再校正を実施されることをお勧めします。証明書の再発行に関しては、エクスライト社のサービスセンターまでお問い合わせください。

限定保証

テクニカルサポート、製品保証、最新のアップデートや製品ニュースをご希望の方は、eXact Manager から（または www.xrite.com/register で **eXact** の製品登録を行ってください。

サービス

エクスライト社の **eXact** は絶対に分解しないでください。ユーザーにより分解された場合、製品保証は無効となります。装置が作動しない、あるいは正しく機能しないと思われる場合はエクスライト社の東京サービスセンターまでお問い合わせください。

サポート

弊社では、今日の複雑で変化し続けるワークフローに対するためにサポートおよびトレーニングが不可欠と考えています。製品登録されたユーザーの皆様には、次のオンラインの無償サポートツールをご用意しています。

これらのサポートツールの詳細は次のリンクでご確認ください -> www.xrite.com/support

- 無償・無制限アクセス可能な**eXact**製品に同梱されたトレーニングビデオ
- サポートドキュメントやFAQを含むオンラインの詳細ヘルプデスクへのアクセス
- 保証期間内における製品の一般的な使用に対するエクスライト社のメールおよび電話による無償サポートは以下を条件とします：
 - 正規登録者のユーザーであること
 - **eXact**ファームウェアおよびソフトウェアの最新バージョンが使用されていること
 - 現在サポートされているハードウェアおよびOSで使用されていること

様々なワークフローにおいて、**eXact**に対する高度なサポートや保証期間後のサポートが必要となるため、エクスライト社のカラスペシャルistによる有料サポートおよびトレーニングをご用意しております。詳細はwww.xrite.com/exactをご覧ください。

機器の手入れ

本機は、非常に簡単なクリーニングを行うことにより、長期間にわたって安定した性能を発揮しますが、読取り精度を保つためには、以下のような簡単なクリーニングが必要です。

清掃

機器の外側は、水またはイソプロピルアルコールを入れた水で濡らし絞った布で拭いてください。スキャンシャーシ（オプション）は、同じ手順で清掃してください。

タップディスプレイの手入れ

タップディスプレイは、水またはイソプロピルアルコールを入れた水で濡らし絞った布で拭いてください。

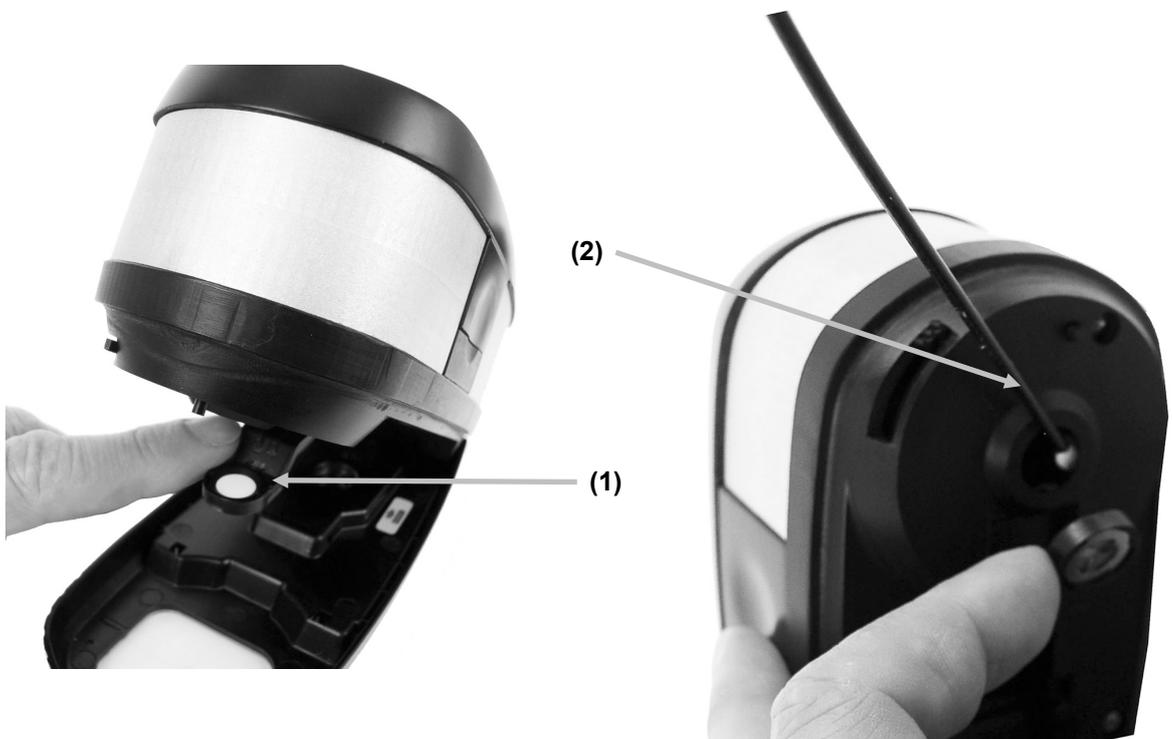
ターゲットウィンドウの清掃

ターゲットウィンドウは、水を入れた水で濡らし絞った布で拭いてください。

光学系の手入れ

光学系のクリーニングは、一般的な使用環境でも週に一回程度は実施していただくことをお勧めします。汚れや埃の多い環境では、より頻繁にクリーニングを行ってください。

1. 装置を上げ、ターゲットベースを開きます。
2. リファレンス（キャリブレーション基準板）ホルダー（1）を後方に回転しホールドします。
3. 測定部ポートに空気（2）を吹き込んでください。これで、光学系の部分に溜まった埃を取り除くことができます。
4. キャリブレーションホルダーを通常的位置に戻してください。



重要：エアースプレー式の缶を使用する際は、逆さまにしたり、傾けたりしないでください。光学系を損傷する恐れがあります。

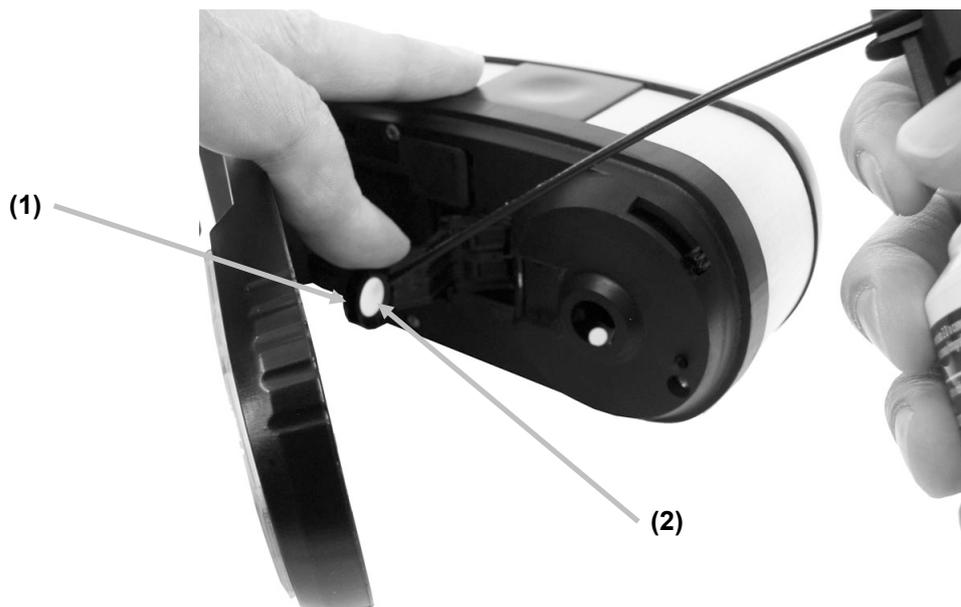
キャリブレーション基準板の手入れ

キャリブレーション基準板は、定期的に清掃してください。

洗剤や溶剤類は絶対に使わないでください。

キャリブレーションタイルは、リファレンスホルダーに搭載されています。

1. リファレンスホルダー（1）を後方に回転し維持します。
2. キャリブレーションタイルに空気（2）を吹き込んでください。これで、溜まった埃を取り除くことができます。



3. キャリブレーションホルダーを通常の位置に戻してください。

スキャンシャーシのタイミングホイールの清掃

タイミングホイールは、水またはイソプロピルアルコールを入れた水で濡らし絞った布で拭いてください。

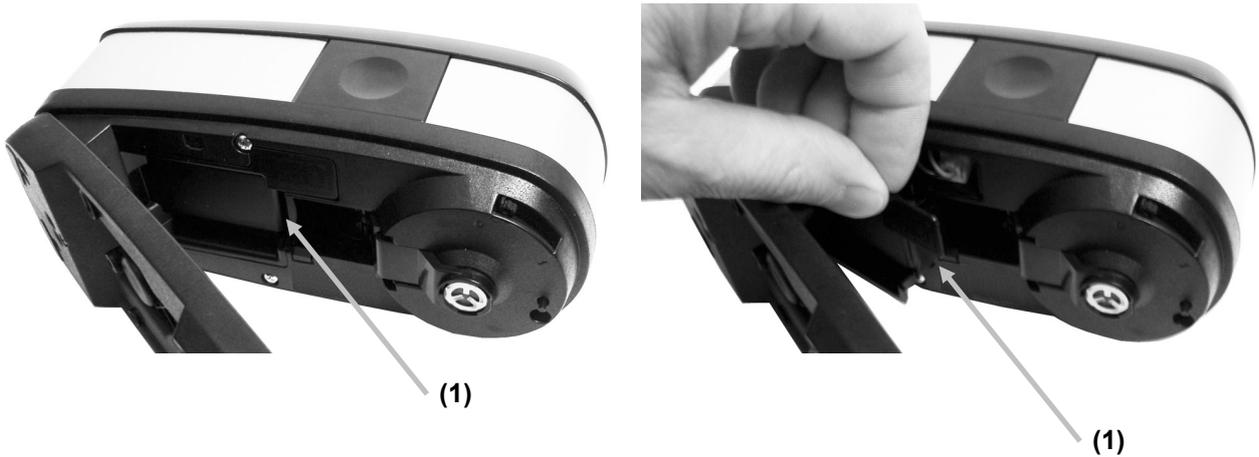
注記： タイミングホイールを外してさらなる清掃を行う場合は、次のセクション「スキャンシャーシのタイミングホイールの交換」をご覧ください。

バッテリーパックの交換

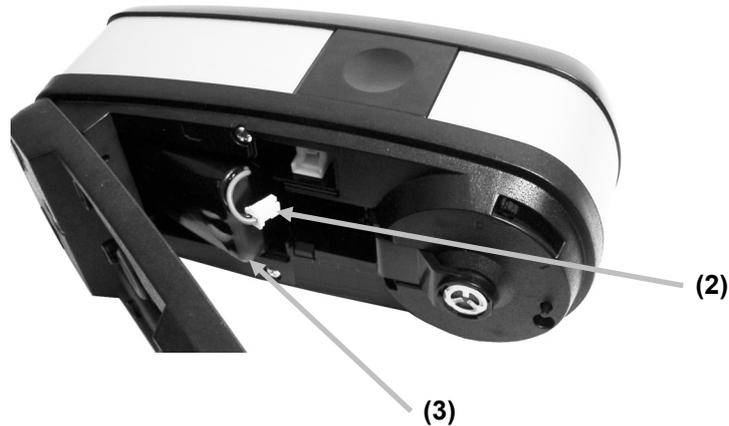


注意：間違ったタイプのバッテリーで交換すると大変危険です。この際、必ずセルフ保護の充電式リチウムバッテリーパック（エクスライト社のパーツ番号 SE15-46）をご使用ください。

1. ターゲットベースのロックを解除し、装置を横向きにします。
2. バッテリーアクセスカバー（1）の前端を押し、外向きに引っ張って取り出します。



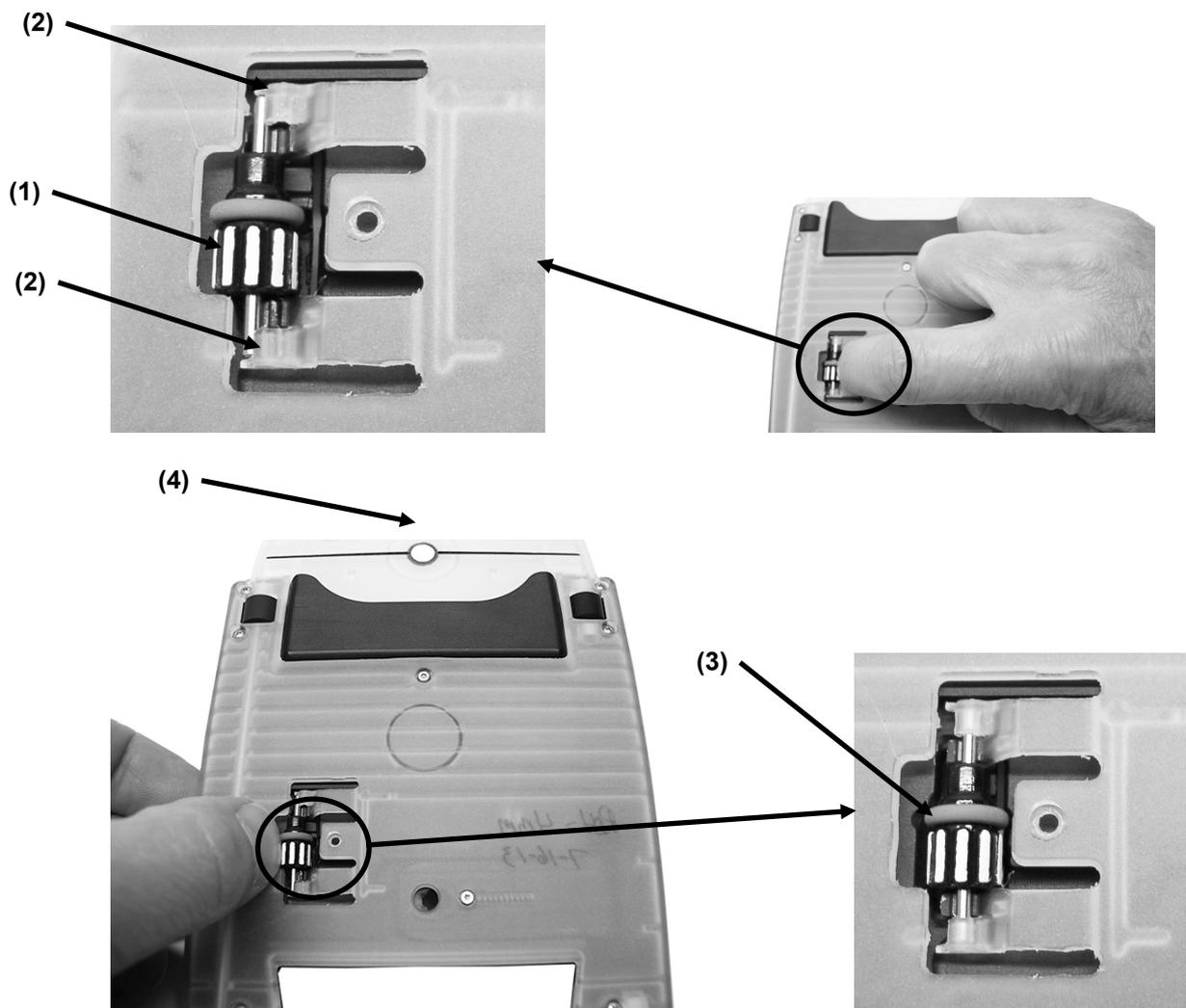
3. ロッキングタブを押しコネクターの接続を解除しながら、バッテリーコネクタ（2）を取り外します。この時、**バッテリーのワイヤーを引っ張らないでください。**
4. 古いバッテリーパック（3）をコンパートメントから取り出します。



5. コネクタを上向きにしながら、新しいバッテリーパックをコンパートメントに挿入します。
6. バッテリーをコネクタに挿入します。コネクタが正しくセットされるまで押してください。
7. アクセスカバーの後端を装置底に挿入し、カバーがカチッと嵌るまで押し込んでください。
8. バッテリーの交換時間をリセットします。この手順を行うには、メインメニューの [診断] ツールアイコン  をタップし、バッテリーアイコン  を選択してください。[新しいバッテリー] ボタンをタップします。

スキャンシャーシのタイミングホイールの交換

1. スキャンシャーシを裏返してください。指でタイミングホイール（1）をシャーシ端に向けて、アクセルクリップ（2）下からリリースされるまで押してください。
2. 古いホイールとアクセルを持ち上げます。
3. 新しいアクセルをホイールに挿入し、ホイールをスキャンシャーシの開口部にセットします。ホイールのゴム製O型リング（3）が測定アパーチャー（4）側に向けてセットされていることを確認してください。
4. 指でタイミングホイールとアクセルをクリップ下に押し込んでください。



Bluetooth のインストール

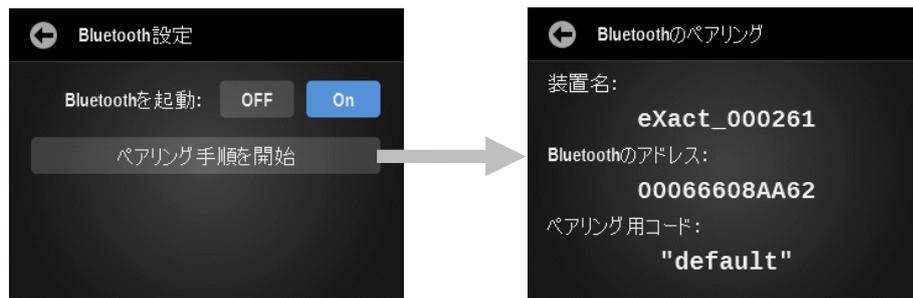
本装置では Bluetooth テクノロジーを採用したワイヤレス通信が可能です。多くの Windows コンピューターには Bluetooth 機能がすでに備わっています。ご使用のコンピューターに Bluetooth 機能が備わっている場合は、それをご使用ください。備わっていない場合は、Bluetooth USB アダプター（オプション製品）を購入してください。ここでは、Windows 7、Windows 8、Windows 10 での Bluetooth アダプターのインストールおよび設定方法を説明します。Mac OS X 上における設定手順も、本ガイドで説明しています。

eXact Bluetooth の設定

1. 装置から [Bluetooth] のボタンをタップし、Bluetooth の設定スクリーンを開きます。



2. [ペアリング手順を開始] をタップします。



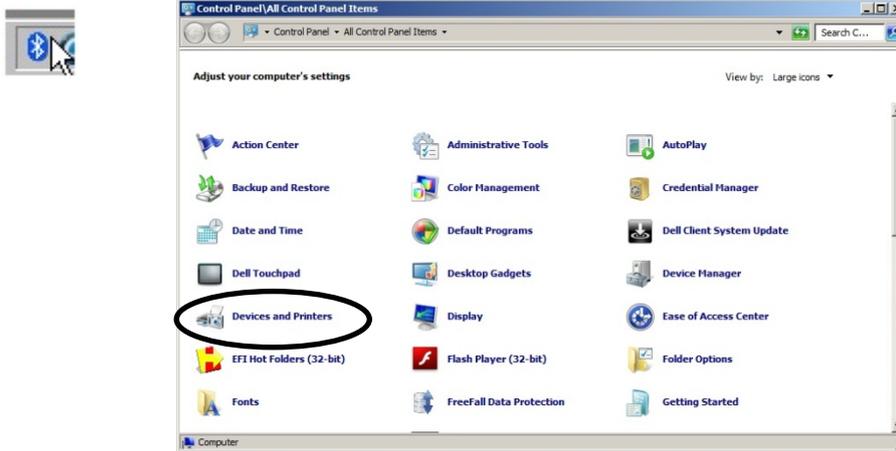
3. Windows 7、Windows 8、Windows 10 または Mac OS の設定手順を実行します。

Windows 7 & 8

1. 必要に応じて、Bluetooth アダプターを USB ポートに差し込みます。下記のようなメッセージが画面右下に表示されます。Windows が正しいドライバを自動的にインストールします。



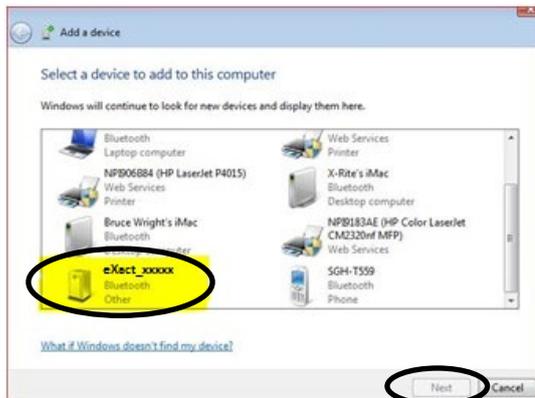
2. インストールが完了すれば、「Bluetooth」のロゴをクリックしてください。または Windows 7 の [コントロールパネル] から [デバイスとプリンター] を選択します。Windows 8 の場合は、[ハードウェアとサウンド] から [デバイスとプリンター] を選択します。



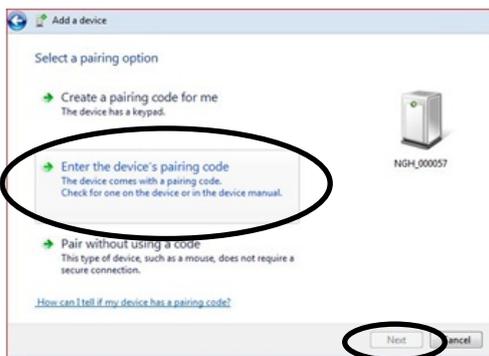
3. ウィンドウ上部から [デバイスの追加] をクリックします。(注記：下記のウィンドウの代わりにオプションリストが表示されることがあります。使用される Windows 7 のバージョンによって異なりますが、いずれの場合も [デバイスの追加] を選択してください。)



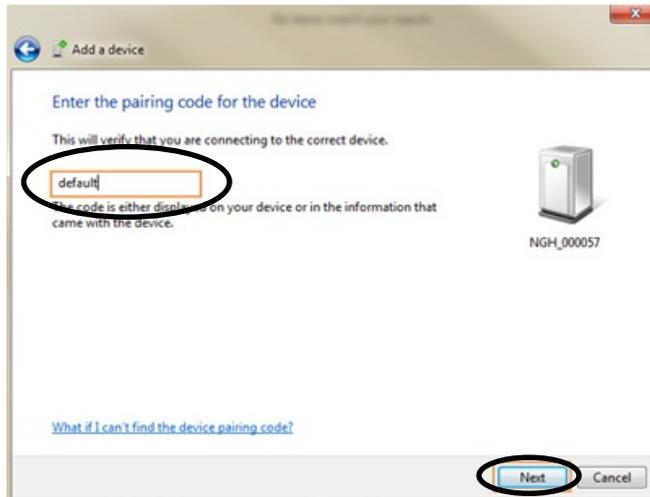
4. 装置は「eXact_xxxxx」(xxxxxx = シリアル番号) として表示されます。装置を選択し、[次へ] をクリックして続行します。



5. これは Window 7 専用のステップです： [デバイスのペアリングコードを入力] 選択し、[次へ] をクリックして続行します。



6. Windows 7 にはペアリングコードのフィールドに、Windows 8 にはパスコードのフィールドに「default」を入力してください。[次へ] をクリックして続行します。



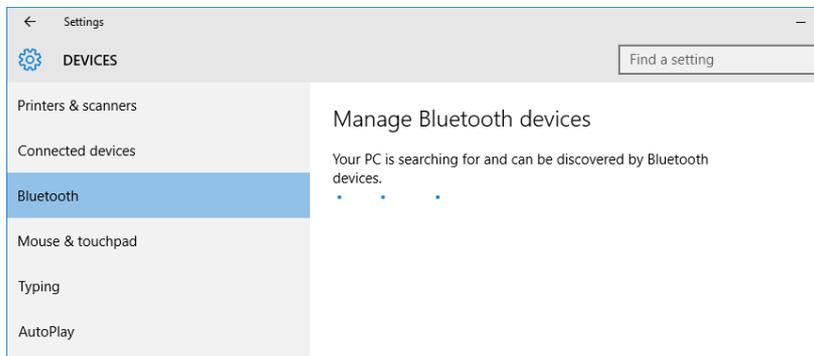
7. ペアリングが完了すれば、装置をワイヤレスモードで使用することができます。

Windows 10

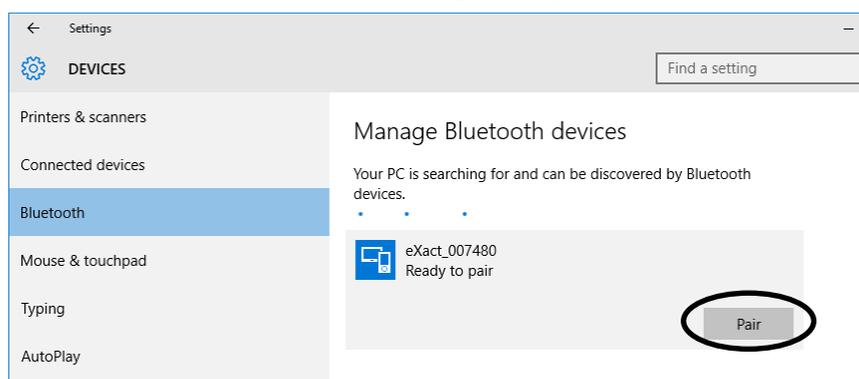
1. 必要に応じて、Bluetooth アダプターを USB ポートに差し込みます。下記のようなメッセージが画面右下に表示されます。Windows が正しいドライバを自動的にインストールします。



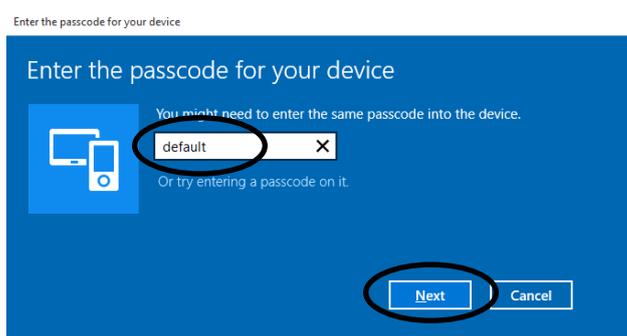
2. インストールした後、[設定] -> [デバイス] -> [Bluetooth] に進みます。必要に応じて、Bluetooth の切り替えスイッチを ON に設定します。



3. 装置が [Bluetooth の管理] ウィンドウの [ペアリングの準備完了] に表示されます。ペアリングを行う「eXact_xxxxxx」（xxxxxx = シリアル番号）装置をクリックし、[ペアリング] をクリックし続行します。



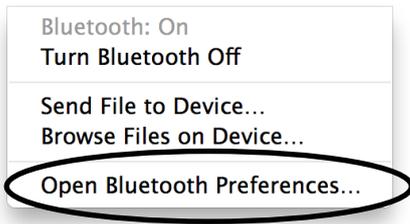
4. パスコードのフィールドに「default」を入力し、[次へ] をクリックします。



5. ペアリングが完了すれば、装置をワイヤレスモードで使用することができます。

Mac OS X の設定

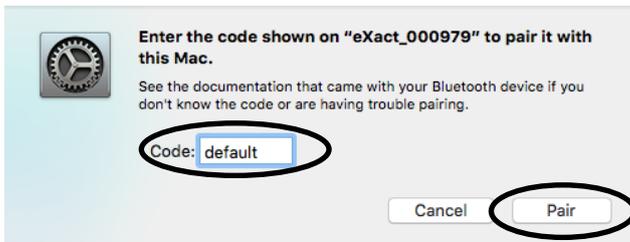
1. メニューバーから Bluetooth のアイコンをクリックし、[Bluetooth 環境設定を開く] を選択してください。（メニューバーに表示されない場合は、システム環境設定から Bluetooth を選択します。）



2. コンピュータには複数のデバイスが検出されることがありますが、「eXact_xxxxxx」（xxxxxx = シリアル番号）装置の横にある [ペアリング] をクリックしてください。古い eXact では、ここでペアリングに失敗するので、「オプション」を選択して初めてコード入力画面が表示されます。



3. コードのフィールドに「default」を入力し、[ペアリング] をクリックして続行します。



4. eXact 装置が接続されたことがリストに表示されます。これで、装置をワイヤレスモードで使用できるようになります。



トラブルシューティング

下記の方法で問題が解決しない場合は、お買い求めになった販売店までお問い合わせください。エラーが続く場合は、販売店までお問い合わせください。

トラブルシューティング情報は、eXact Manager アプリケーション内の [診断] 機能を参照することもできます。

| 問題 | 原因／解決法 |
|--------------------------------|---|
| 装置が反応しません。 (表示なし) | 装置はスリープモードにあります。 <ul style="list-style-type: none"> ディスプレイをタップし、測定を行ってください。 装置がスリープモードになっています。 <ul style="list-style-type: none"> 起動画面が表示されるまで、電源ボタンを押してください。 バッテリーが低下しています。 <ul style="list-style-type: none"> バッテリーを充電してください。 |
| 装置とソフトウェアの通信 (USB 接続) が取れません。 | インターフェースケーブルが接続されていません。 <ul style="list-style-type: none"> インターフェースケーブルでコンピュータと装置を接続してください。 ソフトウェアを再起動してください。異常が続くようであればコンピュータを再起動します。 AC アダプターを差込から抜き (電源が Off) 再び差し込みます (電源が On)。 |
| 装置とソフトウェアの通信 (ワイヤレス接続) が取れません。 | ワイヤレス機能が有効になっていません。 <ul style="list-style-type: none"> 装置の Bluetooth ワイヤレス接続を有効にしてください。詳しくは「Bluetooth のインストール」をご参照ください。 コンピュータの Bluetooth ワイヤレス接続を有効にしてください。詳しくはコンピュータメーカーの説明書をご参照ください。 ソフトウェアを再起動してください。異常が続くようであればコンピュータを再起動します。 |
| キャリブレーションに失敗しました。 | キャリブレーション基準板が汚れている、または破損しています。 <ul style="list-style-type: none"> 付録ページにある基準板の清掃手順を実行してください。 |
| 測定エラーまたは結果が正しくありません。 | 測定サンプルが汚れているまたは破損しています。(例: 傷の付いたサンプル) <ul style="list-style-type: none"> 新しいサンプルを用意してください。 装置のキャリブレーションが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> 機器のキャリブレーションを実行してください。(「診断ツール」参照) 装置のオプチクスが汚れています。 <ul style="list-style-type: none"> 装置のオプチクスを清掃してください。(「清掃」参照) |
| パッチ認識の問題です。 | 装置がパッチを正しく認識できない場合、パッチを手動で変更することができます。(本書の「基準色またはパッチの変更」を参照) また装置は、用紙およびベタパッチ測定の結果に基づいて、自動パッチ認識を調整します。そのため、全てのジョブに対し、用紙を最初に測定してからベタを測定してください。間違った測定がパッチタイプに適用されると、他のパッチの検出も間違ってしまう可能性があります。 |

| | |
|--|---|
| | <p>オートパッチ機能は、パッチを正しく検出・予測するようになっていますが、自動検出で満足できない結果が出力された場合、オートパッチ機能を無効に設定し [パッチを変更] 機能を使用してください。学習プロセスが完了すれば、オートパッチを再度有効に設定することができます。</p> <p>装置は特定のパッチを測定するよう指示します。(必要条件) 下記は、一般的なパッチ測定条件です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 用紙：ジョブの最初の測定は用紙で行う必要があります。異なるパッチが最初に認識されると、メッセージが表示されます。 • ベタ：用紙を測定後、ベタを測定することが、アミ点およびオーバープリントの測定条件となっています。 • アミ点：用紙およびベタパッチを最初に測定してください。 • 2 次色：測定するインキ全てに、用紙およびベタパッチの両方をオーバープリントの前に測定してください。 • グレーバランス：用紙の後にブラックベタパッチを測定すると、パッチ検出に良好なケースもあります。しかし、これは常に必要ではありません。ブラックは必ずしもジョブに使用されるものではありません。 |
|--|---|

装置のリセット

装置をリセットするには：

1. 装置からインターフェースケーブルおよび AC アダプターを取り外してください。
2. 電源ボタンを 15 秒間以上押し続けます。
3. 15 秒後に電源ボタンをリリースし、再度押して装置の電源を ON にします。

リセット後も問題が続く場合は、ビデオジェット・エクスライト株式会社までお問い合わせください。

仕様

分光エンジン

| | |
|-------|--------------------------|
| 分光分析： | DRS分光エンジン |
| 波長範囲： | 400 nm ~ 700 nm、10 nm 間隔 |

オプティクス

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 光学幾何条件： | 45°:0°リング照明レンズ、ISO 5-4:2009(E) |
| 測定アパーチャー： | 1.5 mm、2 mm、4 mm、6 mm |
| 光源： | ガス充填式タングステンランプ（イルミネントタイプA）およびUV LED |

反射率測定

| | |
|-------|---|
| 測定条件： | ISO 13655:2009に準拠しています。 <ul style="list-style-type: none"> • M0：偏光なし、フィルタなし、UV込み • M1：D50 • M2：UV除去フィルタ • M3：偏光フィルター（eXact XplはM3を除く） |
|-------|---|

キャリブレーション：ビルトインのキャリブレーション基準板（白色校正板）にて自動的に実施

| | |
|-----|---|
| 器差： | 平均： <u>0.25 $\Delta E^* ab$</u> 、最大： <u>0.45 $\Delta E^* ab$</u> （M3 <u>0.55 $\Delta E^* ab$</u> ） （23°C +/- 1°C, 40~60% RH 環境下での BCRA タイル 12 色 および白色セラミックリファレンスの測定値をエックスライト社基準値で評価） （D50、2°） |
|-----|---|

短期反復性

| | |
|-------|---|
| ホワイト： | <u>0.05 $\Delta E^* ab$</u> 、（標準偏差）白色 BCRA （5 秒ごとに 10 回測定、平均値からの誤差） |
|-------|---|

短期反復性

| | |
|-----|--|
| 濃度： | <u>+/-0.01 D</u> CMYK 測定 （ステータス E または T 測定） （2.0 D を 5 秒ごとに 10 回測定、平均値からの最大誤差、1.7 D に おける M3 エイローを除く） |
|-----|--|

操作環境

| | |
|----------------|------------------------------|
| 操作温度範囲： | 10°～ 35°C 相対湿度 30～85% (結露なし) |
| 保存温度範囲： | -20°～ 50°C |

インターフェース、サイズ、重量

| | |
|----------------------|---|
| データ インターフェース： | USB 2.0 Bluetooth(オプション) - クラスII |
| 電源： | X-Riteパーツ番号： SE30-277 (ACアダプタ) 100-240VAC 50/60Hz、12VDC @ 2.5A |
| 電池： | X-Riteパーツ番号： SE15-46 リチウムイオン、7.4VDC、2200mAh |
| 外形寸法： | 高さ 7.6 cm、幅 7.8 cm、奥行き 18 cm |
| 重量： | 0.7 kg |

操作環境

| | |
|-------------|----------|
| 使用： | 屋内のみ |
| 高度： | 2000m |
| 汚染度： | 2 |
| 過電圧： | カテゴリー-II |

標準アクセサリ

USBケーブル、電源、ソフトウェアと取扱説明書を含むフラッシュドライブ、使用説明書、ドッキングステーション／充電器、クイックスタートガイド、保存ケース

デザインおよび仕様内容は、予告なしに変更することがあります。

推奨されるパッチとアパーチャーサイズ

スキャンニングに対するアパーチャーサイズの条件は、スポット測定のための条件と異なります。

詳しくは、下記のテーブルをご参照ください。

スポット測定のために推奨されるパッチサイズ：

| アパーチャー (測定径) サイズ | 測定面積 | ターゲットウィンドウの開き | 推奨されるパッチサイズ | スクリーン範囲 |
|------------------|--------|---------------|-------------|-----------------|
| 1.5 mm | 1.5mm | 3.5 mm | 2 mm ~ 3 mm | 69ライン/cmまたはそれ以上 |
| 2 mm | 2.0 mm | 4.0 mm | 3 mm ~ 5 mm | 52ライン/cmまたはそれ以上 |
| 4 mm | 4.0 mm | 6.0 mm | 5 mm ~ 7 mm | 26ライン/cmまたはそれ以上 |
| 6 mm | 6.0 mm | 8.0 mm | 7 mmまたはそれ以上 | |

スキャン測定のために推奨されるパッチサイズ：

| アパーチャー (測定径) サイズ | 10.2cm以下のストリップに推奨されるパッチサイズ | 10.2cm~76.2cmのストリップに推奨されるパッチサイズ | 76.2cm以上のストリップに推奨されるパッチサイズ |
|------------------|----------------------------|---------------------------------|----------------------------|
| 1.5 mm | > 3.0 mm | > 3.5 mm | > 4.5 mm |
| 2 mm | > 3.5 mm | > 4.0 mm | > 5.0 mm |
| 4 mm | > 5.5 mm | > 6.0 mm | > 7.0 mm |
| 6 mm | > 7.5 mm | > 8.0 mm | > 9.0 mm |

スポットおよびスキャン測定に推奨されるパッチサイズ：

| アパーチャー (測定径) サイズ | 10.2cm以下のストリップに推奨されるパッチサイズ | 10.2cm~76.2cmのストリップに推奨されるパッチサイズ | 76.2cm以上のストリップに推奨されるパッチサイズ | スクリーン範囲 |
|------------------|----------------------------|---------------------------------|----------------------------|-----------------|
| 1.5 mm | 3.0 mm ~ 4.0 mm | 3.5 mm ~ 4.0 mm | 4.5 mm ~ 5.0 mm | 69ライン/cmまたはそれ以上 |
| 2 mm | 3.5 mm ~ 6.0 mm | 4.0 mm ~ 6.0 mm | 5.0 mm ~ 7.0 mm | 52ライン/cmまたはそれ以上 |
| 4 mm | 5.5 mm ~ 8.0 mm | 6.0 mm ~ 8.0 mm | 7.0 mm ~ 9.0 mm | 26ライン/cmまたはそれ以上 |
| 6 mm | 8.0 mmまたはそれ以上 | 8.0 mmまたはそれ以上 | 9.0 mmまたはそれ以上 | |



エックスライト社

〒135-0064

東京都江東区西青海 2-5-10 テレコムセンター 西棟 6F

Tel (03) 6374-8734

Fax (03) 5579-6547

www.xrite.co.jp

エックスライト社 米国本社

米国ミシガン州グランドラピッズ

Tel (+1) 616 803 2100

Fax (+1) 616 803 2705

エックスライト社 ヨーロッパ

スイス レーゲンスドルフ

Tel (+41) 44 842 24 00

Fax (+41) 44 842 22 22